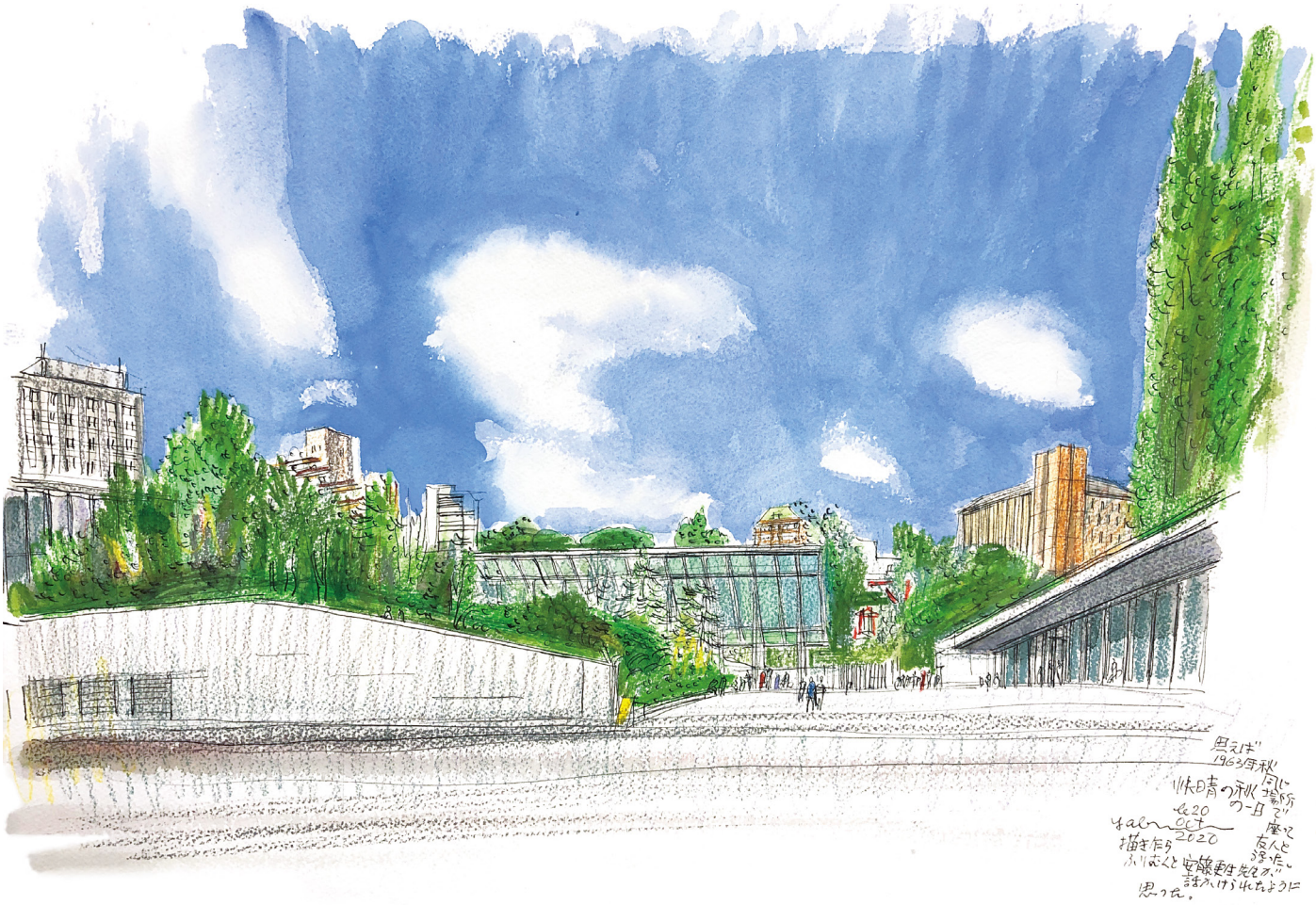
早稲田文化

早稲田大学 文化推進部**年報**

Annual Report of Cultural Affairs Division, Waseda University

2019

- 坪内博士記念演劇博物館
- 會津八一記念博物館
- 大学史資料センター
- 国際文学館
- 文化企画課



早稲田大学 **文化推進部年報** 2019

Contents

開催名称などによる目次 ……02
ご挨拶
文化推進担当理事 ……05
坪内博士記念演劇博物館館長 ……06
會津八一記念博物館館長 ……07
大学史資料センター所長 ……08
国際文学館館長 ……09
文化事業
総括 ……10
研究活動・教育活動 ……11
展覧会・催し物 ……13
出品・展示協力 ……43
地域交流事業 ……44
顕彰事業 ……50
学術研究書出版制度 ……51
刊行物 ……53
オリジナルグッズ ……55
文化広報 ……57
文化施設 ……61
各種会議 ……63
人　事 ……66
統　計 ……67

文化施設マップ・連絡先一覧 …… **裏表紙**

※本年報では、紙面の都合上、坪内博士記念演劇博物館を演劇博物館、會津八一記念博物館を會津博物館と省略表記している部分があります。

表紙絵画：**藪野　健**（早稲田大学栄誉フェロー、早稲田大学名誉教授、一般社団法人二紀会理事、日本藝術院会員、府中市美術館館長）

開催名称などによる目次

1．総　括　10

2．研究活動・教育活動　11

3．展覧会・催し物（○展覧会　●催し物）　13

坪内博士記念演劇博物館　（開催順）…… 13

●松原俊太郎　2018年度岸田國士戯曲賞受賞記念
地点『山山』上映会／松原俊太郎スペシャルトーク
●名作シナリオを楽しもう
傑作ドラマ『アフリカの夜』ふたたび！
●演劇博物館　2019年度シェイクスピア祭　リーディング公演＆解説
MSPインディーズ・シェイクスピアキャラバン　読上歌舞伎（リーディング）『何櫻彼櫻銭世中（さくらどきぜにのよのなか）』
●新宿区内の博物館の発信力の向上を目指すセミナー
●河鍋暁斎「妖怪引幕」大英博物館マンガ展出品記念シンポジウム
古典芸術の未来を創る
●エンパクに虹をかける ― LGBTQ入門
●エンパク★こどもプログラム
・ハンター・ハートビートメソッド・ワークショップ
・エンパク★こども演劇教室2019　演じるってなんだろう？
・こどものためのフライングステージ『アイタクテとナリタクテ』
●エンパク★クリスマスイブ　スペシャルイベント
ファミリー・パフォーマンス
しげちゃん一座　絵本トーク＆ライブショー
○追悼　映画女優　京マチ子展
●エンパクシネマ2019
○演劇博物館　2019年度秋季企画展
・コドモノミライ ― 現代演劇とこどもたち
・コドモノミライ ― 現代演劇とこどもたち　ギャラリートーク
●インタラクティブ・パフォーマンス・スペース
やってみよう！演じてみよう！
●河鍋暁斎画　新富座妖怪引幕×デジタルテクノロジー
●日本演劇・映画人の〈台湾時代〉
―植民地舞台にみる文化的交錯―
●第35回（2019）京都賞記念ワークショップ
太陽劇団の軌跡
○演劇博物館　特別展
・人形劇、やばい！
・人形劇、やばい！　ギャラリートーク
●「マルチマテリアルを基礎とした立正活映作品の復元」公開研究会
宗教映画とスクリーン・プラクティス
●シンポジウムと映画上映
デジタル時代のサイレント映画　映画『カツベン！』を事例に
●舞台芸術における著作権の課題
ー文化資源の有効利用にむけた情報共有
●第６回　エンパク青空市
●「戦後日本映画における撮影所システムの変遷とその実態」公開研究会
「ロマンポルノ研究の過去・現在・未来：《外》から見るか、《内》から見るか」
●トークショー
新派の〈芸〉を語る―初代水谷八重子の記憶とともに―

開催名称などによる目次

●劇作家・岩井秀人はいかにして引きこもりを武器にしたか
●出張体験教室〈狂言〉
●出張体験教室〈常磐津〉
●「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」公開研究会
エノケン喜劇の音楽とその時代　瀬川昌久先生を囲んで
●第82回　逍遙祭　逍遙の能楽観と能が再演芸術となった由来

會津八一記念博物館　（開催順）…… 28
○富岡コレクション　絵画の名品
・ギャラリートーク
○ブブノワさんの絵画
○富岡コレクション　書の名品
・ギャラリートーク
○ニューヨークに学んだ画家たち―木村利三郎を中心に
○染付
・ギャラリートーク
○考古学・民族資料　常設展示
○世界をつなぐやきもの
・講演会「世界をつなぐやきもの －早稲田大学の調査から－」
○イメージの中の日本と中国の近代 ―ラップナウ・コレクションから―
○白隠と仙厓
・ギャラリートーク
○藍より青く ―小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴
○中国の霊鳥・霊獣
・ギャラリートーク

大学史資料センター　（開催順）…… 34
○大学史資料センター　春季企画展
時代のなかの大隈講堂
○大学史資料センター　新収資料展
資料に刻まれた早稲田の歴史
○大学史資料センター　秋季企画展
進取の精神の実践者－同志社から来た教員たち
○大学史に学生は入っているか
－『小樽商科大学百年史』の経験から－

国際文学館　…… 36
●国際シンポジウム「村上春樹と国際文学」

文化企画課　（開催順）　…… 36
●第10回　早稲田狂言の夕べ
○藪野健「記憶の中の早稲田」
・ギャラリートーク
● Museum Week 2019
●第10回　早稲田学生文化・芸術祭
●早稲田文化芸術週間2019
●中井貴惠「音語り」10周年記念公演
小津安二郎映画を聞く～小津日和～
●縄文時代からの歴史と自然を体感するツアー
●多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス＆ワークショップ
○海を渡ったサムライ～朝河貫一

4．出品・展示協力　43

5．地域交流事業　※順番は紙面の都合によって変更します。　44

・福島県白河市 …… 早稲田大学　三津巴×早混　演奏会

開催名称などによる目次

・長野県軽井沢町 …… 第22回おもしろ科学実験教室
講演会
・佐賀県佐賀市 …… 令和元年度　大隈祭
七宝焼花鳥紋大花瓶お披露目式
・岐阜県加茂郡八百津町 …… ワセダ・ヒューマニティ・コンサート'19
・東京都 ……「歴史的建造物保存のチャリティイベント　講演と演奏会」
・東京都新宿区 …… 令和元年度　新宿区夏目漱石コンクール　読書感想文コンクール
令和元年度　新宿区夏目漱石コンクール　絵画コンクール
平成31年度　文化庁補助事業
新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
・東京都中野区 …… 早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2019」
・静岡県熱海市 …… 第49回逍遙忌記念祭
・千葉県鴨川市 …… 第22回おもしろ科学実験教室
講演会
・岐阜県美濃加茂市 …… 第12回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業学生公演
早稲田大学劇団あはひ「ソネット」
・埼玉県本庄市 …… 秋の大久保山散策「縄文時代からの歴史と自然を体感する」ツアー

6．顕彰事業　50

・早稲田大学坪内逍遙大賞
・若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）
・梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）
・旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」
・小川未明文学賞（新潟県上越市）

7．学術研究書出版制度　51

8．刊行物　53

9．オリジナルグッズ　55

10．文化広報　57

・Waseda Online（ワセダオンライン）
・メールニュース
・新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの
・早稲田大学文化資源データベース

11．文化施設　61

12．各種会議　63

13．人　事　66

14．統　計　67

・文化施設マップ・連絡先一覧・・・・・・・・・**裏表紙**

文化推進部

ご挨拶

文化推進担当理事　渡邉　義浩
（文学学術院教授）

文化推進部年報2019年度版の刊行にあたって

早稲田大学は、建学以来、積み重ねてきた歴史と伝統を通して、日本社会とその文化に貢献してきました。その蓄積は、しばしば早稲田らしさ、あるいは「早稲田文化」と称され、在学生、教職員、卒業生を含め広く早稲田関係者の誇りを醸成してきました。

文化推進部は「早稲田文化」の発信の中心的な役割を担うとともに、学生・校友・地域へと、広く開かれた連携による「知」の共創と創出を図りながら社会に貢献することを目指し、2007年に設置されました。従来から独自に展開してきた坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの三機関に、文化推進部直下の事務組織としての文化企画課を加え、それぞれが独自の役割を担いつつも、それらが早稲田における「文化の束」として一体となって活動しています。

早稲田大学は、国宝２件・重要文化財７件・重要美術品８件を含む美術品・書画・博物資料・図書資料・映像資料など、500万点以上を所蔵しています。これらは早稲田文化の核をなす貴重な文化資産であり、文化推進部では、これらの資源の公開と活用に積極的に取り組むことにしています。その際、文化活動を展開する上で、充実した文化施設は不可欠です。

まず、2014年に「ワセダギャラリー」を27号館地下１階にリニューアルオープン、2015年に同館１階を改修してショーウィンドウスペースを設置するなど、教職員が利用できる文化活動の拠点を拡充。2018年３月に既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館に加え、３つ目のミュージアム「早稲田大学歴史館」を開館し、本学の歴史（過去・現在・未来）に関する資料や情報を、単なる通史の平板な陳列ではなく、来館者がそれぞれの関心に応じて新たな発見ができるよう、多様な切り口で提示しました。2019年３月には戸山キャンパスに竣工した「早稲田アリーナ」内に４つ目のミュージアム「早稲田スポーツミュージアム」を開設し、長い歴史を彩る栄光のシーンや象徴的なエピソード等を通じて、「早稲田スポーツ」の持つ、比類なき個性や魅力を感じていただくことができるようにしました。

そして、2020年度には、本学５つ目のミュージアムとして、本庄キャンパスの早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター内に「本庄早稲田の杜ミュージアム」が開館となります。本庄市と早稲田大学は、ここを地域文化の拠点の中核施設として、本庄の歴史と文化、本学の持つ民族造形美術品などを最新の研究成果とともに公開いたします。

早稲田大学では、2032年の創立150周年に向けて中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、理想の大学像を打ち立てるための各種プロジェクトを検討・実施しており、文化推進部でも「早稲田らしさと誇りの醸成をめざして－早稲田文化の推進」を核心戦略の一つに掲げています。その目的は、「１．早稲田文化とは何かをあらためて確認するとともに、その充実と展開のプロセスを明らかにすること」、「２．早稲田文化を早稲田らしさの評価につなげ、その評価を高めること」、「３．早稲田の誇りの一層の醸成をしていくこと」にあり、各目的の実現を通して、新たな文化の創成に寄与することを目指します。

具体的には、この目的の実現のために８つのプロジェクトを立ち上げ、独創的な事業に取り組んでいます。①文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト、②地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト、③バーチャルミュージアム―文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト、④早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト、⑤早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト、⑥早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト、⑦ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト、⑧国際文学館開設プロジェクトです。

社会における大学の存在意義は、何よりも教育・研究にあるのはもちろんですが、そこから生成される「文化」の力を発信することにより、大学と社会の結びつきをより強め、ひいては社会の豊かさに貢献する。そこに文化推進部の真にして無二の役割がある、と確信しています。東西古今の「文化の潮」が渦巻く早稲田からの力強い文化発信と、早稲田の文化を未来の世代へ承け継ぐことが、わたしたちの大切な使命であると考えています。

「早稲田文化」はスポーツや科学などの分野をも含み、学生・卒業生の活動・活躍も早稲田文化の重要な構成要素です。また、本学の校友だけではなく、広く社会一般の方々にも理解と共感を得て、早稲田文化を拡げて行きたいと考えています。今後とも本学の文化事業へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

ご挨拶

坪内博士記念演劇博物館館長　岡室　美奈子
（文学学術院教授）

2019年度の演劇博物館（エンパク）

2019年度、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（通称エンパク）は、エレベーター設置工事遅延により長らく休館することになり、皆様には多大なご迷惑をおかけすることになった。この場を借りて心からお詫び申し上げたい。おかげさまで無事、念願のエレベーター、自動ドア、だれでもトイレが設置され、お体の不自由な方やご高齢の方にも安心してご来場いただけるようになった。工事遅延により展覧会の会期にも変更が生じたが、11月２日に本館で秋季企画展「コドモノミライ　現代演劇とこどもたち」展と常設展を、同月14日には早稲田大学歴史館の企画展示ルームをお借りして特別展「人形劇、やばい！」展をオープンすることができた。

また、休館中にも、５月から８月まで大英博物館で開催された日本のマンガ展において、当館所蔵の河鍋暁斎画「新富座妖怪引幕」が目玉の一つとして展示されるという嬉しい出来事があった。この出典を記念して、ジャパン・ハウス・ロンドンにて、シンポジウム「Classical Arts × Digital Technologies古典芸術の未来を創る」を開催し、エンパク、大英博物館、バーミンガム大学の三者で、最先端のデジタル技術が旧来の文化にいかに新しい生命を与えていくかについて報告と議論を行った。エンパクからは館長と副館長が登壇し、凸版印刷株式会社のご協力により制作した「妖怪引幕」の高精細画像とアニメーションを初公開した。暁斎の妖怪たちが跳梁するアニメーションは、国境を越えて満員のお客様に鮮烈な印象を残したことと思う。また、当館でお披露目した際には、世界的演出家のアリアーヌ・ムヌーシュキン氏からも高い評価をいただいた。

11月から開催した「コドモノミライ」展では、こどもや出産、育児をめぐる幅広い演劇作品を取り上げ、格差社会による子どもの貧困やネグレクト、育児放棄、いじめ、虐待などの問題が深刻化する現在、演劇に何が可能なのかを問いかけた。お子様のいるご家庭だけでなく、社会全体で子どもたちの未来を考えようという趣旨には、多くのご来場者からご賛同いただくことができた。また、エンパク初の取り組みとして、「やってみよう！演じてみよう！」コーナーを設けた。これは来場者自身がスクリーンに映る舞台映像に入り込み、登場人物となって演じたり踊ったりする体験ができるもので、大いに楽しんでいただけたと思う。

「人形劇、やばい！」展は早稲田大学歴史館の企画展示ルームをお借りしての開催となった。「やばい」という多義的なことばを手がかりに、「ダーク式糸あやつり人形」の骸骨など館蔵資料のほか、『ひょっこりひょうたん島』のドン・ガバチョなどを展示し、刺激に満ちた現代人形劇の世界を一望しつつ、人形劇の魅力と毒性に迫った。展示タイトルのインパクトもあって、SNS等で大きな反響があった。

また、例年通り地域振興イベントも盛りだくさんとなった。10月にはゲイの劇団フライングステージによる新作「アイタクテとナリタクテ」のリーディング公演を行った。クリスマス・イヴには、俳優でエッセイストの室井滋さんが座長を務める「しげちゃん一座」による「絵本トーク＆ライブショー」を開催し、楽しいライブをご堪能いただいた。恒例のエンパクシネマでは、D・W・グリフィス監督『散り行く花』などの無声映画を弁士と生演奏つきでフィルム上映した。また、新企画「名作シナリオを楽しもう」では、傑作ドラマ『アフリカの夜』（フジテレビ、1999年）を取り上げ、脚本家・大石静氏ら制作陣に加えて、俳優の室井滋氏、ともさかりえ氏、作家の柚木麻子氏にもご登壇いただき、熱いトークを繰り広げた。ほかにも多数のトークショーやシンポジウム、特別支援学校への狂言や常磐津の出張講座など、多彩な事業を実施した。ただ一つ残念だったのは、「エンパク★こども演劇教室2019」（講師・平田オリザ氏）が台風のために中止となったことだが、参加者の皆様の安全を最優先するという姿勢はこれからも貫いていきたい。

これらの活動の多くは、文部科学省から共同利用・共同研究拠点として認定された「演劇映像学連携研究拠点」や文化庁支援事業「新宿から発信する『国際演劇都市TOKYO』プロジェクト」等さまざまな研究活動や助成事業の一環である。ご関係の皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げたい。

2020年度はコロナウイルス感染拡大により、展示やイベントの大幅な見直しを迫られることになるが、コロナ禍により中止となった演劇公演の資料を収集し「失われた演劇展」をWEB上で開催する予定である。コロナ禍により大きな打撃を受けた演劇界、そして演劇愛好家の皆様のために、少しでもお役に立てればと考えている。

みなさまの変わらぬご支援を心からお願い申し上げたい。

ご挨拶

會津八一記念博物館館長　肥田　路美
（文学学術院教授）

2019年度の會津八一記念博物館

これを書いている今日現在、新型コロナウィルス感染者数の累計は国内だけでも２万６千人を越え、当館も長期にわたって開館できずにいる。コロナ禍により世の中のあり方も価値観も大きく変容を余儀なくされた。2019年度はビフォア・コロナの最後の年となったわけである。

展示室の全面改修を終えて新しい令和時代をスタートさせた會津八一記念博物館は、それまでの２号館２階の常設展示室が可動壁を用いて自由に空間を構成できるグランドギャラリーに生まれ変わり、１階では、従来の企画展示室を新たに會津八一コレクション展示室として再整備、また、旧大隈記念室を改修して近現代の絵画や彫刻を展示する近代美術展示室が新設された。９月21日からは、26号館10階の125記念室が考古・民族部門に特化した常設展示室としてオープンし、早稲田考古の国内外における発掘や調査活動の成果を示す資料に常時接することができるようになった。

2019年度はまた、前年度末を以て３名の助手全員と館長が交替するという異例なめぐり合わせになり、手探りで漕ぎ出した形となったが、何とか大過なく活動を推進できたのは関係する学内外の多くの方々のご指導ご協力のお蔭である。また、長らく懸案だった学芸室の深刻な人員不足、とりわけ近現代美術部門を専門とするスタッフの欠如については、秋季から非常勤嘱託職員の枠の手当てを得て少しく改善されたことも喜ばしい。

そうした体制のもとで、４本の企画展示をはじめ共催展示１本を開催し、それらの会期の合間にはその都度異なるラインアップの館蔵コレクションを披露したほか、富岡コレクション展示室では企画展６本を開き、125記念室と近代美術展示室でも、それぞれ「考古学・民族資料 常設展示」と現代作家による絵画・彫刻作品の「大社コレクション」を公開するなど、年間を通して展示の立案と実施・撤収に追われた一年となった。主な企画展を簡単に振り返りたい。

グランドギャラリーでは、柿落しに当館三部門の名品を展示した後、５月９日から手前側を会場に、早稲田で教鞭を執ったロシア人女流画家ワルワーラ・ブブノワの作品展「ブブノワさんの絵画」を開催。続いて６月末～８月初には「ニューヨークに学んだ画家たち―木村利三郎を中心に―」と題して、木村をはじめ荒川修作、白井昭子、坂上怜湖ら60年代のニューヨークで活動した作家たちの油彩・版画作品全99点を紹介した。鮮やかな色彩と斬新な構図で都市のダイナミズムを描き出した木村利三郎の版画作品は前・後期で展示替えをおこない、7,362人という記録的な入場者数を得た。

秋季には、考古部門による「世界をつなぐやきもの」をグランドギャラリー奥側で展示した。これは、早大隊が発掘を手掛けたエジプトのアル＝フスタート遺跡の出土品を中心に、アジア各地の陶磁器を通して交易を介した文化交流を跡付けた企画で、文学学術院の近藤二郎先生、田畑幸嗣先生による記念講演会を併せて開催した。また、同時期に手前側においては政治経済学術院の土屋礼子先生企画による「イメージの中の日本と中国の近代―ラップナウ・コレクションから―」展を開いた。東洋美術部門では「藍より青く―小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」を冬期に會津コレクション展示室で催し、仏教美術や文様史研究に大きな業績を残した小杉一雄を通して、師から弟子、父から子へと学問と芸術が継承された軌跡を辿った。これら当館の企画展については、各々の担当者が熱意を傾注した充実の図録を刊行している。

また、富岡コレクション展示室では、リニューアルオープンを記念した「絵画の名品」を皮切りに「書の名品」「染付」「白隠と仙厓」「中国の霊鳥・霊獣」を相次いで開催、最後に３月から年度を跨ぐ予定で「山水」展が開かれたが、コロナ感染症流行が深刻化し、初日の３月２日にたった一日公開しただけで閉幕を余儀なくされてしまった。同時に当館協議員である文学学術院丹尾安典先生の企画でグランドギャラリーの一画で展示された「廣瀬文俊旧蔵品展」もまた、一日限りで閉じることとなったのは痛恨極まりない。

2019年度には貴重な資料の大型寄贈も相次ぎ、主だったものに篆刻家松丸東魚の篆刻作品や印譜など全1,386点、美術蒐集家寺田小太郎氏の現代美術コレクション123点、富田万里子氏による長崎・阿蘭陀関係資料の追加寄贈100点などがある。

またこの間、米国・ホノルル美術館の企画展への中原淳一作品の貸し出しや、台湾の国立故宮博物院からのメディア・アート展開催の申し入れなど、海外のミュージアムとの連携も進みつつあった矢先のコロナ禍である。ウィズ・コロナの時代に會津八一記念博物館がどのように当館ならではの活動を展開していくか、館員一同模索中である。皆様のご指導ご助言を引き続きよろしくお願い申し上げたい。

大学史資料センター

ご挨拶

大学史資料センター所長　大日方　純夫
（文学学術院教授）

大学史資料センターの動き（2019年度）

大学史資料センターは、早稲田大学の歴史、創設者大隈重信および関係者の事績を明らかにし、これを将来に伝承するとともに、比較大学史研究を通じて、本学の発展に資することを目的としています。さらに、「早稲田学」を開設して大学教育の一環としての自校史教育を担い、百五十年史編纂事業の事務局としてその中心事務を担当しています。

(1)資料の収集・整理・保存・公開とレファレンス

引き続き本学の文書および本学関係者に関する資料を収集・整理して、保存・公開をすすめました。ただし、本年度は担当スタッフの退職により、途中から資料の閲覧・複写、および資料に関する問い合わせ対応、資料の複写物の出版掲載・放映等利用受け付け（データベースで公開されている資料画像の利用を除く）、資料の寄贈・移管受け付け、資料の貸出受け付けを休止せざるを得ず、このためもあって個人・団体からの寄贈は８件（105点）にとどまりました。

(2)企画展示・講演会等の開催

本年度は、例年通り３回の企画展示（春季企画展・新収資料展・秋季企画展）を開催しました。３企画とも多数の方々に来場していただきました。

①**春季企画展**：例年、３月下旬の卒業式の時期から新入生を迎える４月下旬の時期にかけて開催しています。本年度は、「時代のなかの大隈講堂」展を、2019年３月22日から４月21日までの１ヵ月間、歴史館企画展示ルームで開催しました（入場者数 2,185人）。さらに、2020年度に向け、2020年３月下旬から４月下旬、春季企画展を開催すべく準備を進めましたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から歴史館が展示予定期間中、閉館となったため、開催を見合わせました。

②**新収資料展**：例年６月下旬から８月初めのオープンキャンパスにかけ、前年度に校友・大学関係者などから寄贈された資料の一部を展示するとともに、資料を通して本学のあゆみを紹介しています。本年度は2018年度の受贈資料展として、「資料に刻まれた早稲田の歴史」を６月21日から８月４日まで、歴史館企画展示ルームで開催しました（入場者数 3,150人）。

③**秋季企画展**：ホーム・カミングデーと創立記念日の時期を中心に、本学の歴史に関する企画展を開催しています。本年度は、同志社で学び早稲田で教鞭をとった大西祝・浮田和民・安部磯雄を対象とする「進取の精神の実践者－同志社から来た教員たち－」展を、９月27日から11月３日まで、歴史館企画展示ルームで開催しました（入場者数 2,056人）。

(3)出版・刊行事業

『早稲田大学史記要』：年１回、発行しています。本年度は、第51巻（A５判、334頁）を発行し、また、Web（図書館運営の「早稲田大学リポジトリ」）で公開しました。同巻には、論文２本、昨年度の「大隈祭」の講演、春季・秋季企画展の記録、資料紹介と、『早稲田大学百五十年史』の編纂にかかわる大学史セミナーの講演録、手記などが掲載されています。

(4)自校史教育の展開

①**「早稲田学」**：本年度も、グローバルエデュケーションセンター設置科目として「早稲田学」を開講し、学生に対して早稲田大学の歴史を講義しました。本年度も、クォーター科目として、「「早稲田学」の基礎α（日本近現代史のなかの早稲田大学）」（春クォーター）、「「早稲田学」の基礎β（創設者大隈重信と建学者たち）」（夏クォーター）、「「早稲田学」の探究α（人物で探る早稲田）」（秋クォーター）、「「早稲田学」の探究β（早大生たちの活動と生活）」（冬クォーター）」を開講しました。

②**新入生向け教育プログラム**：オンデマンド講義「わせだライフABC ～早稲田大学で学ぶ前に～」のテーマ８「早稲田大学の歴史」を担当しました。

(5)百五十年史編纂事業

大学史資料センターが事務を担当し、事業の推進にあたっています。本年度は、第１巻の編集・執筆を推進し、第２巻の構成案（目次案）の検討をすすめました。また、学内箇所のヒアリング調査などを行ない、学外資料の調査をすすめました。

「Web版資料集」の編集・公開事業として、すでに公開している「早稲田人名データベース」の追加・更新を行ない、「学校設置関係資料データベース」と「『早稲田学報』記事データベース」の公開を開始しました。また、新規のデータベースとして、「『中央学術雑誌』等データベース」と「課程表・学科配当表データベース」の公開準備をすすめました。

Wikiシステムを活用した『早稲田大学百五十年史』編纂システムの構築・運用についての検討をすすめました。

第５回早稲田大学大学史セミナーを12月に開催し、「大学史に学生は入っているか―『小樽商科大学百年史』の経験から―」と題して、荻野富士夫氏（小樽商科大学名誉教授、元小樽商科大学百年史編纂室室長）に講演していただきました。今回も、学内外から多くの方にご参加いただき（44人参加）、有意義な会となりました。

(6)共催・協力事業

各地域・団体の要請に応える協力事業として、例年通り佐賀市大隈重信記念館の「大隈祭」（５月12日）に講師を派遣しました。

ご挨拶

国際文学館館長　十重田　裕一
（文学学術院教授）

国際文学館開館に向けて（2019年度）

村上春樹氏のご厚意で、本学に貴重な資料が寄託・寄贈されることが決定したのを契機に、2019（令和元）年６月に国際文学館（村上春樹ライブラリー）の組織が設置されました。現在は、開館のための準備を鋭意進めているところです。

2018（平成30）年11月４日に行われた本学での記者会見の席上で、村上氏は「この場所が、文学や文化の風通しの良い国際的交流・交換の場になってくれればと願っています」と、文学と文化の未来への思いについてご発言になりました。村上氏のこの言葉に誘われるように、国際文学館では寄託・寄贈される貴重な資料に基づく村上春樹研究を行うと同時に、国際的な日本文学・翻訳文学の研究拠点となることを志向しています。建築家の隈研吾氏に設計をお願いし、本学４号館の大規模な改築を経て、2021年度中に国際文学館は開館する予定です。新型コロナウイルスの感染拡大にともない、国際文学館に来館される方々とそこで働く皆様の安全に十分配慮し、現段階では同年秋の開館を目指しています。

国際文学館の2019年度の活動を振り返っておきたいと思います。組織設置直後の７月には、寄託資料の受け入れ、整理を開始しました。すでに村上氏より全著作ならびに個々の作品の書評、直筆原稿、海外で翻訳された膨大な書籍、数万枚のレコードコレクション等の貴重な資料を本学に寄託・寄贈いただくことが決定していましたが、国際文学館の組織設立と同時に、資料の受け入れと整理が始動したことになります。10月には、「村上春樹ライブラリー募金」を開始し、これまでに多くの方々からのご支援を頂戴しています。11月には、ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長の柳井正氏から建物改築費用12億円全額のご寄付が決定、同月28日には、国際シンポジウム「村上春樹と国際文学」を、早稲田大学国際会議場・井深大記念ホールで開催し、多数のご来場をいただきました。

シンポジウム第一部では、株式会社ホリプロ、株式会社新潮社のご協力により、蜷川幸雄演出の舞台「海辺のカフカ」の一部を上演し、俳優の木場勝己氏によるアフタートークでは、新潮社の寺島哲也氏を聞き手として、舞台にまつわる貴重なお話を語っていただきました。第二部では、「村上春樹と『翻訳』」というタイトルで、柴田元幸氏（翻訳家・東京大学名誉教授）、川上未映子氏（作家）、マイケル・エメリック氏（UCLA・本学教授）、辛島デイヴィッド氏（本学准教授）によるパネルディスカッションを実施しました。このシンポジウムの模様は新聞各紙で報じられ、国際文学館のキックオフイベントとして多方面に印象付けられたものと思います。

国際文学館ができる４号館の横には、演劇・映像の世界的な研究拠点、坪内博士記念演劇博物館があります。日本近代文学の祖である坪内逍遙が演劇・映像の未来のことを思い、1928（昭和３）年に開館したもので、「演博（エンパク）」と愛称されています。村上氏は、本学の学生であった時、演博は好きな場所でよく足を運んだと仰っています（第１回早稲田大学坪内逍遙大賞（2007年）受賞スピーチ）。国際文学館は、「演博（エンパク）」が描いてきた軌跡に学びながら、世界の人々が集い、行き交う国際的な文学と文化の研究拠点への歩みを進めていきます。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

文化事業
総　括

早稲田大学では、本学が持つ有形・無形の文化資産をもって、文化面においても日本のリーディングユニバーシティであるよう、多岐にわたる活動を行っています。それらの取り組みは、本学が一丸となって取り組みを行っている “Waseda Vision 150” の大きな柱のひとつとして位置付けられており、学内各箇所が個別に実施してきた文化事業活動に優先・重点事業を設定し、より高い文化力を発揮できるように取り組んでいます。

1. “Waseda Vision 150” への取り組み　https://www.waseda.jp/inst/vision150/

本学では、アジアのリーディングユニバーシティとして確固たる地位を築くための中長期計画 “Waseda Vision 150” を策定しました。文化推進部では、「核心戦略６　早稲田らしさと誇りの醸成をめざして―早稲田文化の推進」を担当し、以下の複数プロジェクトを実施。2019年度はSTAGE２の２年目にあたり、STAGE１の５年間の成果を元に、引き続き多くの事業を遂行しています。

【８つのプロジェクト】

1）文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信プロジェクト
（webサイトやFacebook、Twitter、Instagram、YouTube、メールニュース等で本学の文化・芸術活動を幅広く広報）
2）地域との連携による文化発信と施設の有効活用プロジェクト（本学に縁が深い都県を中心に、連携事業を実施）
3）バーチャルミュージアム－文化資源データベース公開の強化・拡充プロジェクト
（文化資源データベースを公開。公開データベース数87、公開データ数112万件以上）（2020年２月現在）
4）早稲田大学百五十年史編纂プロジェクト（百五十年史１～３巻の作成と関連シンポジウム等の開催）（2020年３月現在）
5）早稲田スポーツの新たな展開プロジェクト（早稲田アスリートプログラム（WAP）等の推進）
6）早稲田らしさと誇りの探求プロジェクト
（早稲田大学歴史館、早稲田スポーツミュージアムの開館。「大隈重信演説談話集」の配布と「大隈重信自叙伝」の刊行）
7）ワセダ演劇の発信力強化プロジェクト（演劇博物館各種イベントの実施。早稲田小劇場どらま館での演劇公演）
8）国際文学館開設プロジェクト（2018年12月に新しく追加されたプロジェクト。2021年度での開設を目指す）

2. キャンパスのミュージアム化と世界に向けての文化発信　―早稲田の文化を未来の世代へ―

早稲田大学は、1882年の創立以来、坪内逍遙らが文学・演劇研究を開拓し、図書館・博物館における文化的資料の収集・公開を進めるとともに、芸術家、小説家、批評家、演劇人、映画人など、文化の発展に寄与する多くの人材を輩出してきました。また、国宝２件、重要文化財７件、重要美術品８件を含む図書、図書資料、美術品、書画、博物資料、映像資料、記録文書類など、500万点以上を所蔵しています。本学はこれらの「早稲田文化」の資源の公開と活用を通して、大学の使命の一つである社会貢献に努めています。現在、価値観の多様化や広範な異文化間の交流、多文化社会の形成等により、本学の文化的使命はますます大きくなっています。

こうした社会状況のなかで、本学では二つの独創的な事業に積極的に取り組みます。

（1）キャンパスのミュージアム化

学内の各所にすぐれた芸術・美術作品を展示し、「早稲田らしい品格のあるキャンパスの雰囲気」の場の形成を目的としています。学生・教職員・来校者が直接に高い芸術性を持つ作品に触れられることは、豊かな心と教養を涵養し、人格形成にも役立つと考えています。また、キャンパスがこうした芸術・美術作品に囲まれていることは、それ自体が誇らしいことでもあります。2014年には27号館地下１階に「ワセダギャラリー」をリニューアルオープン、2015年には同館１階を改修してショーウィンドウスペースを設置するなど、着実に文化活動の拠点を拡大してきました。

2018年３月には既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館に加え、３つ目のミュージアム「早稲田大学歴史館」を開館。本学の歴史（過去・現在・未来）に関する資料や情報を、単なる通史の平板な陳列ではなく、来館者がそれぞれの関心に応じて新たな発見ができるよう、多様な切り口で提示しています。そして、2019年３月に戸山キャンパスの「早稲田アリーナ」内に４つ目のミュージアム「早稲田スポーツミュージアム」も開設。長い歴史を彩る栄光のシーンや象徴的なエピソード等を通じて、常に時代の先頭を走ってきた「早稲田スポーツ」の個性や魅力を感じていただくことができます。さらに、埼玉県本庄市と本学が共同し、早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンターに「本庄早稲田の杜ミュージアム」を2020年10月に開館する予定となっており、本庄市で出土した貴重な資料の数々、本学が所有するオセアニア民族造形美術品などを展示し、地域の歴史と文化などを未来の世代に受け継ぐ取り組みを行って参ります。

（2）バーチャルミュージアムの実現

バーチャルミュージアムとは、早稲田大学が有する文化資源を三次元などの先端技術による仮想空間の中で精細かつ鮮明に再現することにより、時と空間の制約を超えた体験を可能とするものです。2017年６月に公開した「早稲田大学文化資源データベース」を今後も拡充・発展させることで、何時いかなる時も、あらゆる場所で、実際には手に触れることが難しい美術工芸品や博物館資料をはじめとする本学の貴重な文化的資産に接することができるようになります。

3. 早稲田大学５つ目のミュージアム開館を目指して

2019年３月20日、戸山キャンパスの早稲田アリーナ内に、本学４つ目のミュージアムである「早稲田スポーツミュージアム」を開館しましたが、2020年度には、本学５つ目のミュージアムとして、本庄キャンパスの早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター内に「本庄早稲田の杜ミュージアム」が開館となります。本庄市と本学は、大久保山、浅見山丘陵の恵まれた自然環境と多様な遺跡や文化財に囲まれた一帯を「本庄早稲田文化の杜」とし、地域文化の拠点と位置付けており、このミュージアムはその中核施設として、本庄の歴史と文化の魅力を発信するものとなります。

本庄市展示室では、多種多様な埴輪をはじめとする考古資料や年表等で、本庄の歴史と文化をたどり、早稲田大学展示室では、定期的に企画展覧会を開催し、オセアニア民族造形美術品をはじめ、大学が所蔵する貴重な文化財を最新の研究成果とともに公開する予定です。

本庄早稲田の杜ミュージアム

笑う盾持人物埴輪

本庄市展示室

早稲田大学展示室

1．坪内博士記念演劇博物館

（1）研究活動

①共同利用・共同研究拠点「演劇映像学連携研究拠点」
事業の主旨

演劇映像学連携研究拠点は、2009年度から2013年度まで、文部科学大臣より「共同利用・共同研究拠点」として認定を受け、「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」を実施してきた。この実績が評価されて2014年度には再認定を受け、現在第２期の研究活動を推進している。

第２期においては、演劇博物館に収蔵されながらいまだ十分に学術的に活用されていない貴重な未発表資料群を研究資源として提供するという方針を打ち出した。この方針に沿って、未発表資料群のリストをウェブページ上で公開して研究課題４件を公募し、厳正な審査により採択することによって、テーマ研究１件と併せて５チームが研究活動を行ってきた。2019年度は第２期の最終年度であるため、継続のテーマ研究１件と公募研究４件が２年間の活動成果を精力的に発信するとともに、拠点事務局は６年間にわたる共同研究の成果を集大成する事業を実施した。

公募研究事業　研究課題　※括弧内は研究代表者

（1）テーマ研究　１課題
・坪内逍遙・坪内士行の基礎的調査研究（濱口久仁子）
（2）公募研究　４課題
・栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究―昭和初期の演劇・映画と音楽（中野正昭）
・戦後日本映画における撮影所システムの変遷とその実態―日活ロマンポルノを中心とした実証的研究（碓井みちこ）
・マルチマテリアルを基礎とした立正活映作品の復元（上田学）
・描かれた中国演劇と大正期日本―福地信世『支那の芝居スケッチ帖』を中心に（平林宣和）

拠点主催事業

（1）「河鍋暁斎画新富座妖怪引幕」関連事業
演劇博物館所蔵の「河鍋暁斎画新富座妖怪引幕」が大英博物館で５～８月に開催されたマンガ展で目玉資料のひとつとして展示されたことを機に、この資料の高精細デジタル画像の利活用方法を開拓する取り組みとして複数の事業を実施した。凸版印刷株式会社との共同研究事業として、「妖怪引幕」に新たな命を吹き込むアニメーション作品と、タブレット端末を使って閲覧できるデジタル・コンテンツを作成した。この成果は、６月に英国のジャパン・ハウス ロンドンで実施した国際シンポジウムにおいて発表し、大英博物館やバーミンガム大学の研究者とともに討議を行った。これらの成果はその後、演劇博物館の常設展示内に特別コーナーを設けて一般公開した。
（2）シンポジウムと映画上映「デジタル時代のサイレント映画：映画『カツベン！』を事例に」の開催
最新のデジタル技術によるサイレント映画の保存・修復および再現をめぐり、2019年に公開された映画『カツベン！』や演劇博物館所蔵のフィルム『雷門大火 血染めの纏』を取り上げてシンポジウムと映画上映会を実施した。
（3）くずし字判読支援事業
2016年度より実施してきた「くずし字判読支援事業」の成果を活用し、浄瑠璃丸本２点の全文検索機能を作成するとともに、これまで蓄積してきた「くずし字字形データセット」を字母毎に再分類し、成果の国内外への訴求力を高めた。
（4）共同研究対象の資料目録の発行と資料データベース公開作業
再認定期間６年間の共同研究の成果として、計13件の資料群の目録をまとめ、400頁超の冊子にまとめた。また、資料のデジタル画像と目録データを組み合わせ、文化資源データベースにおける資料データベース総計20件の公開準備を進めた。

②平成31年度文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）
舞台芸術・芸能関係映像のデジタル保存・活用に関する調査研究事業
事業の主旨

本事業の目的は、これまで十分な議論がなされてこなかった舞台芸術・芸能関係映像の保存と活用を促進する実践的な方法論を確立すると同時に、貴重な映像文化遺産を未来へと伝承していくための研究を行うことである。本事業を通じて、舞台芸術・芸能関係の映像資料を所蔵する劇団・劇場・文化施設等との人的ネットワークを構築しながら、映像資料のデジタル保存・活用に向けた指針を演劇博物館が主体となって提案することに加え、舞台芸術・芸能関係映像のデジタル化により、演劇学・映像学をはじめとする人文諸科学のさらなる発展を促進するための活動を行なった。

研究課題

（1）デジタル映画の保存・活用に関する調査研究
・劇評家・扇田昭彦旧蔵映像資料のデジタル化と目録化による継続調査
・著作権法改定以降の著作権処理と資料公開のための調査研究
・デジタル・データの品質確認作業効率化についての調査研究
（2）フィルム映画のデジタル保存・活用に関する調査研究
・映像関連資料のデジタル化と利活用についての調査研究
・舞台芸術・芸能関係映像のデジタル化と活用に向けた調査研究
・演劇博物館所蔵フィルムの劣化状態の経過調査
（3）諸外国におけるデジタル映画の保存・活用に関する調査研究
・デジタル映像アーカイブの持続的活用に関する訪問調査
（4）映画のデジタル技術等に携わる若手クリエーター等の育成・支援
・歴史映像のデジタル加工とデジタル修復に関するワークショップ
（5）デジタル技術等を活用した映画上映や映画関連資料の活用等に関する調査研究
・映像資料と関連資料を組み合わせた館内展示の可能性に関する調査研究

事業の総括

本事業は平成26年度からの継続的な調査研究事業であり、今年度は実施の最終年度にあたる。平成31年度は、これまでの実施内容を踏まえた継続的な調査研究とともに、幅広く得られた課題をもとにした発展的な調査研究を行なった。クリエイターや劇団などの創作現場の人々や、図書館・美術館・資料館などのアーカイブの現場の人々と、保存・活用に関する課題の共有とともに、どのような協力関係を築き、制作・上映・保存という一連の活動に繋げていくべきかという問題に対し、イベントやシンポジウムなどの開催を通じた検討を行った。また、舞台芸術・芸能関係が広範な分野やメディアを取り巻く、特異な性質をもつ芸術であることを捉え直し、映像資料とその他の資料を複合させた、利活用の可能性について着目し、調査研究を行なった。さらには、映像文化資源の大規模での公開を見据え、英国のフィルムアーカイブにおける組織的な対策や取り組みについて訪問調査を実施した。

こうした活動は、これまで活用されていなかった映像資料の分析を可能とし、演劇学・映像学をはじめとする人文諸科学の深化に多大な貢献を果たすだけではない。研究成果を上映会やホームページ・SNS等で広く社会に発信していくことにより、散在・死蔵されたまま劣化・消滅の危機に瀕する映像資料に対する注意を各機関や所有者に対して促し、結果として、貴重な文化資源の保存・活用促進に大きな効果があると考えられる。また、著作権などを含む、公開についての諸課題は、組織を超えた協力関係を築き対応を行なっていかなければならず、本事業を通じて新たなコミュニティ創出のきっかけを提供できた意義は大きいといえる。６年間にわたる継続的な活動によって、演劇博物館は演劇映像文化の専門機関として、舞台映像の保存と利活用に対する諸課題についての認知度を、一般に向け高めることができた。高度情報化社会の中において、保存・公開をめぐる諸課題は、常に変化する状況にある。今後も継続的および発展的に活動を行い、多様な映像文化のデジタル保存と利活用を促進するようなモデルを提起していきたい。

2. 會津八一記念博物館

(1) 研究活動

①中国仏教美術史（特に唐代敦煌壁画の研究）
②タイ仏教美術、東南アジア近現代美術
③日本近世絵画史
④日本考古学、古墳時代、副葬品

(2) 教育活動

①レクチャールームで行う博物館実習への支援
②文学学術院、教育・総合科学学術院、理工学術院などの授業の補完
③修学旅行、課外学習などの見学者の受け入れ
④エクステンションセンター受講生などの受け入れ

3. 大学史資料センター

(1) 研究活動

①『早稲田大学百五十年史』編纂：早稲田大学史の研究
②大隈重信および関係者の実績の研究
③比較大学史研究：高等教育をはじめとする比較大学史の研究
④大学行政文書の管理保存体制：大学アーカイブスの研究
⑤所蔵・寄贈資料の調査研究
⑥大学史セミナーの開催

(2) 教育活動

①「早稲田学の基礎」、「早稲田学の探究」：グローバルエデュケ―ションセンター設置科目
②わせだライフABC

4. 国際文学館

(1) 研究活動

①国際シンポジウムの開催

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

松原俊太郎　2018年度岸田國士戯曲賞受賞記念
地点『山山』上映会／松原俊太郎スペシャルトーク

日時　4月22日（月）　①14：45～、②18：30～
会場　早稲田小劇場どらま館
共催　KAAT神奈川芸術劇場、早稲田小劇場どらま館、演劇博物館
講師　①松原俊太郎（劇作家）、佐々木敦（批評家、HEADZ主宰）
②松原俊太郎（劇作家）、三浦基（演出家、地点代表）

昨年KAAT神奈川芸術劇場で上演し衝撃作として話題となった『山山』は、劇団「地点」と新進気鋭の劇作家松原俊太郎氏がタッグを組んだ作品である。その『山山』が2018年度岸田國士戯曲賞を受賞したことを記念して、舞台映像を全編初上映した。大変な話題作とあって事前に多数の応募が寄せられ、急遽追加上映回も開催。上映後には、第一部は松原氏と批評家の佐々木敦氏、第二部は松原氏と本作演出の三浦基氏（劇団「地点」主宰）が対談を行った。

●来場者数　①67名　②63名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

名作シナリオを楽しもう
傑作ドラマ『アフリカの夜』ふたたび！

日時　5月13日（月）　18：30～20：30（18：00開場）
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
協力　株式会社フジテレビジョン
登壇者　大石静（脚本家）、室井滋（俳優・エッセイスト）、ともさかりえ（俳優）、山口雅俊（プロデューサー・監督）、宮本理江子（ドラマディレクター）、柚木麻子（作家）
司会　岡室美奈子（演劇博物館館長）

名作ドラマの数々のシーンの脚本と映像を振り返りながら作品成立の背景や当時の状況を伺う「名作シナリオを楽しもう」第一弾。さまざまな興味深い事実が山口氏や大石氏の証言で明らかになった。『アフリカの夜』は、名プロデューサーの下、優れた脚本家・演出家・俳優が集結した奇跡のようなドラマであり、その魅力や女性の連帯という今日的なテーマは、放送からちょうど20年を経た現在も、決して古びることなく私たちを感動させ、励ましてくれる。そのことを確認できた有意義なトークショーであった。

●来場者数　191名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

演劇博物館　2019年度シェイクスピア祭　リーディング公演＆解説
MSPインディーズ・シェイクスピアキャラバン　読上歌舞伎（リーディング）『何櫻彼櫻銭世中（さくらどきぜにのよのなか）』

日時　5月25日（土）　14：00〜16：00
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
講師　井上優（明治大学文学部准教授）
出演　西村俊彦、浦田大地（かたり部）、岡本摩湖、菅野友美（Triglav）、依田玲奈、小川結子、宮津侑生、高橋拓己（Willow's）、西山斗真、柳沼拓也（Willow's）

最初に、井上先生が「『何櫻彼櫻銭世中』と明治日本のシェイクスピア」と題する講義を行った。続いて、MSPインディーズ・シェイクスピアキャラバンによる『何櫻彼櫻銭世中』の上演が行われた。上演にあたっては宇田川氏が加筆した副筋を削除し、原作『ヴェニスの商人』に存在する場面のみが抽出された。その公演は、在学生に加え、西村俊彦氏をはじめとするプロの俳優も参加し、たいへんエネルギッシュなものとなった。

●来場者数　160名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

新宿区内の博物館の発信力の向上を目指すセミナー

日時　第1回：6月19日（水）　10：30〜11：30
第2回：7月17日（水）　10：30〜11：30
第3回：10月30日（水）　14：30〜15：45
第4回：11月27日（水）　14：30〜15：45
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
講師　第1回：岡室美奈子（演劇博物館館長）
第2回：児玉竜一（演劇博物館副館長）
第3回：成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員）
第4回：西野嘉章（東京大学総合研究博物館特任教授・インターメディアテク館長）

新宿区には多数の博物館や美術館があるが、本館をはじめ比較的小規模なところが多く予算も決して潤沢とはいえない。そのような状況のなかで、いかにすれば魅力的な展示をおこなうことができるのか検討した。各回の講演後には、地域の博物館や美術館の関係者を交えて活発な意見交換が行われ、展示論として魅力的な企画であったとの声が多数寄せられた。施設の垣根を越え、今後の博物館や美術館のあり方を再考するひとつの指針となったように思う。

●来場者数　第1回：41名
第2回：39名
第3回：30名
第4回：32名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

河鍋暁斎「妖怪引幕」大英博物館マンガ展出品記念シンポジウム
古典芸術の未来を創る

日時　6月29日（土）　14：00〜16：30（13：30開場）
会場　ジャパン・ハウス ロンドン（イギリス・ロンドン）
主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点、ジャパン・ハウス ロンドン
共催　バーミンガム大学、スーパーグローバル大学創成支援事業　早稲田大学国際日本学拠点
登壇者　サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）、笠原博徳（本学副総長）、岡室美奈子（演劇博物館館長）、マット・ヘイラー（バーミンガム大学講師）、ドミニク・チェン（文学学術院准教授）、ティム・クラーク（大英博物館アジア局日本部門長）、ニコル・クーリッジ・ルマニエール（大英博物館アジア局日本部門キュレーター）、児玉竜一（演劇博物館副館長）、ロビン・メイソン（バーミンガム大学副学長）

大英博物館やバーミンガム大学の研究者とともに英国のジャパン・ハウス ロンドンで開催した国際シンポジウム。演劇博物館所蔵の「新富座妖怪引幕」が大英博物館で行われたマンガ展（2019年5〜8月）で展示されたことを機としたもの。演劇映像学連携研究拠点は凸版印刷株式会社とともに、「妖怪引幕」の高精細デジタル画像を活用する取り組みとして、アニメーション作品とタブレット端末用のデジタルコンテンツを作成し、様々な方向から「妖怪引幕」の魅力と文化資源としての可能性を引き出した。シンポジウムでは、日英の様々な事例を通じて「妖怪引幕」等の古典資料を最新のデジタル技術を使って蘇らせる取り組みについて討議を交わした。

●来場者数　122名

講演会・シンポジウム　坪内博士記念演劇博物館

エンパクに虹をかける — LGBTQ入門

日時　7月15日（月・祝）　14：30〜17：00
会場　小野記念講堂
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
協力　GSセンター
登壇者　マサキチトセ（ライター）、大賀一樹（GSセンター専門職員）
司会　久保豊（演劇博物館助教）

本企画は、映像文化と博物館展示におけるジェンダーとセクシュアリティの多様なあり方について検証する試みとして企画された。登壇者にはYouTuberとしても活躍するライターのマサキチトセ氏と早稲田大学GSセンターより大賀一樹氏を招き、一般社会、大学、博物館においてマジョリティを優位とする性の規範について議論が行われた。来場者との活発な質疑応答も交わされ、アンケートには性に関するイベント開催をさらに期待する声が多く得られた。

●来場者数　108名

催し物　　坪内博士記念演劇博物館

エンパク★こどもプログラム

ハンター・ハートビートメソッド・ワークショップ

日時　8月7日(水)～9日(金)　各日10：00～17：00
会場　早稲田大学構内
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
講師　ケリー・ハンター（フルート・シアター芸術監督）、キム・アビラ・コンデ（フルート・シアター団員）
通訳　山田カイル（抗原劇場／若葉町ウォーフ）

日本の俳優、教師、社会福祉士などを対象に、自閉症の若者のためのシェイクスピア劇の創作方法「ハンター・ハートビートメソッド」をご指導いただいた。ハンター氏によると、このメソッドは「感覚ゲーム」で誰もが簡単に遊ぶことができ、また英語で書かれた物語全編を上演するのではなく、その一部をゲームという形で抽出することで、自閉症の若者をはじめとする非英語話者がゲームに参加できる工夫がされている。多くの参加者から、この3日間とても楽しかったという感想をいただいた。

●来場者数　35名

催し物

エンパク★こどもプログラム

エンパク★こども演劇教室2019　演じるってなんだろう？

日時　10月12日(土)～14日(月・祝)　各日10：00～17：00
会場　早稲田大学構内、早稲田小劇場どらま館
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
講師　平田オリザ（劇作家・演出家・大阪大学特任教授）

こどもから大人へと成長していく小学校高学年から中学校3年生までの10代のこどもたちを対象に、「エンパク★こども演劇教室2019　演じるってなんだろう？」と題し、自ら考えて創り上げていくスタイルの演劇ワークショップを企画。講師には、劇作家・演出家であり、演劇ワークショップでも著名な平田オリザ氏をお迎えし、2017年、2018年と連続で開催し3年目を迎えるところだったが、大型台風の影響により、参加者の安全等に鑑みてやむなく中止と決断した。

催し物

エンパク★こどもプログラム　リーディング公演＆トークセッション

こどものためのフライングステージ『アイタクテとナリタクテ』

日時 10月23日（水）　18：00〜20：00

会場 早稲田小劇場どらま館

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

協力 早稲田小劇場どらま館

出演 関根信一（演出家・劇作家・俳優、劇団フライングステージ代表）、石関準（劇団フライングステージ）、岸本啓孝（劇団フライングステージ）、石坂純、木内コギト（＼かむがふ／）、木村佐都美（おちないリンゴ）、小林将司、清水泰子、芳賀隆宏

トークセッション進行 飛田勘文（演劇博物館助教）

ゲイをカミングアウトしている劇団フライングステージのリーティング公演を開催した。公演後に行われたトークでは、劇団代表の関根氏からこの作品が創られることになった経緯や、日本の性的マイノリティの問題に関わる子どもたちの状況、学校で性的マイノリティがどのように扱われているかなどを語っていただいた。真正面から性的マイノリティを取り上げる児童演劇作品は稀少で、その分野で先駆的な役割を果たしている劇団のこれからに注目したい。

●来場者数　56名

催し物

エンパク★クリスマスイブ　スペシャルイベント
ファミリー・パフォーマンス

しげちゃん一座　絵本トーク＆ライブショー

日時 12月24日（火）　14：30〜16：30

会場 小野記念講堂

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

出演 室井滋（文・イラスト・朗読・うた・鍵盤ハーモニカ）、長谷川義史（イラスト・朗読・うた・ウクレレ）、岡淳（サックス・フルート・篠笛）、大友剛（ピアノ・マジック）

本イベントには、未就学児からその祖父母の方々まで、実に幅広い世代のお客様にご来場いただいた。室井さんと長谷川さんによる登場人物の心情と情景を彷彿とさせる朗読は大変素晴らしく、間に入る岡さんのサックスと大友さんのピアノの演奏と相まって、絵本が描く豊かな作品の世界に誘われ、終始お客様の笑い声が絶えないイベントとなった。読書を通じて広がるこどもの世界は、朗読と音楽の力によってより豊かなものとなるのだろう。

●来場者数　181名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

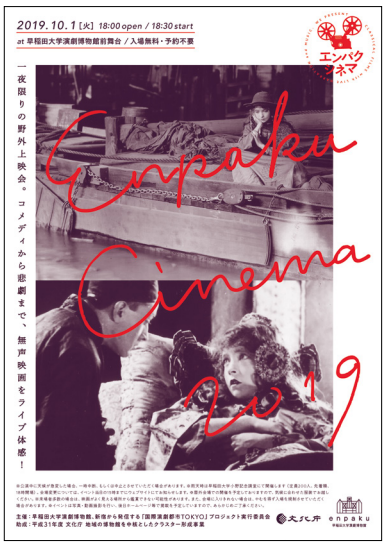
追悼　映画女優　京マチ子展

会期　9月28日(土)～12月25日(水)
開館時間　10：00～17：00（火・金曜日 19：00まで）
会場　演劇博物館１階　京マチ子記念特別展示室

1950年代に海外の映画祭で数々の賞を受賞し、「グランプリ女優」として知られた世界的映画女優・京マチ子。2019年５月に逝去された京マチ子への哀悼の意を込め企画した。2015年に演劇博物館で開催した「映画女優 京マチ子展」で紹介した貴重な資料に加えて、2019年の寄贈資料から、本展が初公開となる谷崎潤一郎からの書簡なども展示した。会期中は京マチ子出演映画６作品（２週間おきに作品入れ替え）を１日２回上映した。

●来場者数　35,773名

催し物　坪内博士記念演劇博物館



エンパクシネマ2019

日時　10月１日(火)　18：30～20：30
会場　演劇博物館前舞台
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
出演　澤登翠（活動写真弁士）、山城秀之（活動写真弁士）、山内菜々子（活動写真弁士）、湯浅ジョウイチ（ギター）、鈴木真紀子（フルート）

演劇博物館三年目の試みとなった野外無声映画上映会。秋の始まりを爽やかな風が知らせる夜空の下、戦前のアニメーションやコメディ作品に加えて、世界映画史に残る珠玉の悲劇作品を16ミリフィルムで上映した。カラード・モノトーン・デュオの生伴奏に加え、活動写真弁士による解説が胸に響いた。来場者アンケートには、第四弾への期待とともに、「映像と語り、音楽のすばらしさに夢中になってしまいました」という嬉しい感想が寄せられた。

●来場者数　456名

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

演劇博物館　2019年度秋季企画展
コドモノミライ ― 現代演劇とこどもたち

会期 11月２日(土)～12月25日(水)
開館時間 10：00～17：00（火・金曜日 19：00まで）
会場 演劇博物館２階　企画展示室Ⅰ、１階　特別展示室
主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
助成 芸術文化振興基金助成事業、公益財団法人花王 芸術・科学財団
後援 新宿区、新宿区教育委員会、公益社団法人日本児童青少年演劇協会、一般社団法人アシテジ（国際児童青少年舞台芸術協会）日本センター、一般社団法人日本演劇教育連盟
空間 古山智一（空間デザイナー）

人口減少・グローバル化・AIの発達などにより激動する社会のなか、貧困・育児放棄・いじめ・虐待・引きこもりなど困難な状況に晒されるこどもたちに対して演劇に何が出来るのか、という問題意識の下、演劇とこどもというテーマを掲げ、明治から現在までの「こどもの観客を対象とした演劇」「学校劇」「大人の観客のためのこどもについての演劇」などを、公演ポスター／チラシ／プログラム／舞台衣装／舞台写真／上演映像等の資料を展示して、包括的に紹介した。　●来場者数　21,732名

展覧会ギャラリートーク

演劇博物館　2019年度秋季企画展
コドモノミライ ― 現代演劇とこどもたち ギャラリートーク

日時 ①11月28日(木)　14：45～15：15
②12月10日(火)　18：10～18：40
会場 演劇博物館２階　企画展示室Ⅰ、１階　特別展示室
講師 飛田勘文（演劇博物館助教）

早稲田大学演劇博物館 2019年度秋季企画展「コドモノミライ ― 現代演劇とこどもたち」の会場にて、企画担当研究員から一般来場者に対して、企画の全体趣旨、各章のテーマ、紹介資料について、分かりやすく解説して、展覧会への理解を深めてもらうためのイベント。
●来場者数　①13名　②16名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

催し物　坪内博士記念演劇博物館

インタラクティブ・パフォーマンス・スペース
やってみよう！演じてみよう！

会期 11月２日(土)～12月25日(水)
開館時間 10：00～17：00（火・金曜日 19：00まで）
会場 演劇博物館２階　企画展示室Ⅱ
主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成 平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
協力 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場、兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター

展覧会の鑑賞以外に、こどもたち自身が能動的に演じ、館内の演劇資料との直接的な関わりを形成していくことができるように用意した演劇体験スポット。来場者は自らの姿をリアルタイムで取り込んだ、大スクリーン上のダンス映像や舞台写真を見ながら、ポーズを取る、セリフを言うなどの演技の初歩に挑戦した。彼らが簡単に操作できる音響操作盤も提供し、劇作り、劇世界を体験することの楽しさに触れてもらった。

●来場者数　21,732名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

河鍋暁斎画　新富座妖怪引幕×デジタルテクノロジー

会期 11月２日(土)～12月25日(水)
開館時間 10：00～17：00（火・金曜日 19：00まで）
会場 演劇博物館３階　常設展／近世

演劇映像学連携研究拠点と凸版印刷の共同研究の成果を公開する演劇博物館の常設展示室内での特別展示。「妖怪引幕」の高精細デジタル画像を活用したアニメーションは巨大なスクリーンに4Kプロジェクターで映写し、タブレット端末用デジタル・コンテンツは大型4K液晶モニターで表示させた。現物展示の困難な資料に対し、デジタル技術を使って新たな息吹を吹き込んだ。また「妖怪引幕」の1/6サイズのレプリカを作成し、妖怪引幕に描かれた合計15名の役者たちの解説を付した。

●来場者数　21,732名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

日本演劇・映画人の〈台湾時代〉
―植民地舞台にみる文化的交錯―

日時 11月13日(水)　18：30～20：30

会場 小野記念講堂

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

助成 平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

協力 台湾・国立政治大学大学院台湾文学研究所、日本大学、立教大学アジア地域研究所

登壇者 呉佩珍（台湾・国立政治大学大学院台湾文学研究所所長）、三澤真美恵（日本大学文理学部教授）、李思漢（演劇博物館助手）

コメンテーター 細井尚子（立教大学異文化コミュニケーション学部教授）、後藤隆基（演劇博物館助教）

本シンポジウムは、演劇・映画を通して戦前における日本と台湾の交流及び文化的交錯を再考することを目的とした。近年の台湾ブームの影響もあり、開催前からSNSで大きな反響を呼んでいた。開催当日は満員となり、特に大勢の若者が目立った。今回のシンポジウムは、調査研究の成果を一般人に普及するという博物館が担っている役割を示す好例であり、「国際演劇都市TOKYO」を構築するのに努めている演劇博物館の特色も発揮されたと言えよう。

●来場者数　205名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

第35回（2019）京都賞記念ワークショップ
太陽劇団の軌跡

日時 11月13日(水)　18：30～20：00

会場 国際会議場　井深大記念ホール

主催 公益財団法人稲盛財団

共催 演劇博物館、文学部演劇映像コース、大学院文学研究科演劇映像学コース、演劇映像学会

後援 京都府、京都市、NHK

協力 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協賛 国際演劇評論家協会日本センター

登壇者 アリアーヌ・ムヌーシュキン（演出家、太陽劇団創立者・主宰）、宮城聰（演出家、SPAC-静岡県舞台芸術センター 芸術総監督）、ドゥヴォス・パトリック（東京大学教授）

司会 藤井慎太郎（文学学術院教授）

フランスの演出家アリアーヌ・ムヌーシュキン氏が、公益財団法人稲盛財団が主催する第35回京都賞（思想・芸術部門）の記念ワークショップ「太陽劇団の軌跡」に出席するため、早稲田大学を訪問した。ムヌーシュキン氏は最初に演劇博物館を来館したが、特に河鍋暁斎の妖怪引幕のアニメーションに強く関心を示された。その後、国際会議場に移動し、藤井慎太郎先生の司会のもと、宮城聰氏、ドゥヴォス・パトリック氏とともにワークショップを開催した。

展覧会　坪内博士記念演劇博物館

演劇博物館　特別展
人形劇、やばい！

会期 11月14日（木）～12月24日（火）
開館時間 10：00～17：00
会場 早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成 平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
後援 新宿区、NPO法人日本ウニマ（国際人形劇連盟日本センター）、一般社団法人全国専門人形劇団協議会
企画協力 菊地浩平（人形文化研究者）

日本近代から現代にいたる人形劇の変遷を、「やばい」という言葉を手がかりに、５つのテーマに章立てし、概観した。劇人形、映像、台本、写真、雑誌・書籍等、貴重な人形劇関連資料約45点を展示。近現代の社会において、人形劇の役割、魅力、可能性について、再考する場を設けた。また、人形とのコミュニケーションを体感できるよう、糸操り人形の体験コーナーを設置。総じて、現代人形劇への興味・関心を高めるきっかけとなった。

●来場者数　2,717名

展覧会ギャラリートーク

演劇博物館　特別展
人形劇、やばい！　ギャラリートーク

日時 12月３日（火）　13：30～14：00
会場 早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
講師 菊地浩平（人形文化研究者）、飛田勘文（演劇博物館助教）

想定をはるかに上回る61名の参加があり、熱気あるイベントとなった。講師である菊地浩平氏のツイッターから情報を得て訪れた方も多かったようである。比較的小さな会場であったため、かなり離れた位置でトークを聞かざるを得ない方が多く出てしまう結果となった。しかし、クレームを受け取ることはなく、アンケート結果をみても、人形劇にスポットを当てた展覧会が開催されたこと、展示内容、講師の熱くて奥深いトークに、多くの方が魅了された様子であった。

●来場者数　61名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

公募研究「マルチマテリアルを基礎とした立正活映作品の復元」公開研究会
宗教映画とスクリーン・プラクティス

日時　11月16日（土）　13：00～17：00

会場　神戸映画資料館

主催　神戸学院大学研究助成Ｂ「スクリーン・プラクティスに関する日亜比較文化研究」

共催　演劇博物館演劇映像学連携研究拠点公募研究「マルチマテリアルを基礎とした立正活映作品の復元」

講師　【第１部】上田学（神戸学院大学）、ユリア・ブレニナ（大阪大学）、赤井敏夫（神戸学院大学）
【第２部】近藤和都（大東文化大学）、ローランド・ドメーニグ（明治学院大学）、福島可奈子（神戸大学）、スザンネ・シェアマン（明治大学）

司会　【ディスカッション】上田学（神戸学院大学）

戦前日本において宗教映画を製作していた立正活映の製作資料（演劇博物館所蔵）を対象とする共同研究の成果報告会。同資料に含まれる『鍋かむり日親』のプリントが新たに発見されたことを受け、これまで前景化されてこなかった日本映画と宗教の関係、とりわけ日本近代史に大きな役割を果たした日蓮主義との結びつきをめぐり、映画学や宗教学などジャンルを超えた議論を行った。

●来場者数　18名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

シンポジウムと映画上映
デジタル時代のサイレント映画　映画『カツベン！』を事例に

日時　11月23日（土・祝）　14：00～16：30

会場　小野記念講堂

主催　演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

助成　平成31年度　文化庁　美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業　舞台芸術・芸能関係映像のデジタル保存・活用に関する調査研究事業

出演者　片岡一郎・山城秀之・山内菜々子（活動写真弁士）、堅田喜三代（鳴物）、小輪瀬光代（三味線）、鳳聲千晴（笛）

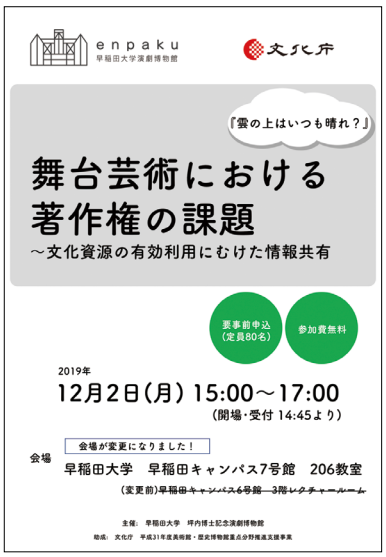
登壇者　野口光一（『カツベン！』VFXスーパーバイザー、東映アニメーション）、大傍正規（国立映画アーカイブ）、片岡一郎（活動写真弁士）

司会　柴田康太郎（演劇博物館）

サイレント映画と最新のデジタル技術との関係を多角的に検討するシンポジウムと映画上映会。まず、演劇博物館所蔵のサイレント映画『雷門大火 血染の纏』（1916年）を、声色掛け合いと邦楽演奏によるライブパフォーマンス付きで上映し、1910年代の歴史的な様式の再現を試みた。次いで、野口光一氏、大傍正規氏、片岡一郎氏に登壇いただき、最新のデジタル技術を用いたサイレント映画という古い映像作品の保存・復元・再現がもつ課題や可能性に様々な方向から光を当てた。

●来場者数　83名

催し物　坪内博士記念演劇博物館



舞台芸術における著作権の課題
―文化資源の有効利用にむけた情報共有

日時　12月２日（月）　15：00～17：00
会場　早稲田キャンパス７号館206教室
主催　演劇博物館
助成　文化庁　平成31年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業
登壇者　坂手洋二氏（燐光群　主宰、劇作家）、福井健策氏（骨董通り法律事務所　弁護士）、君塚陽介氏（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会　実演家著作隣接権センター　著作隣接権総合研究所）、辰巳公一氏（国立国会図書館関西館　電子図書館課　課長補佐）、中西智範（演劇博物館　デジタルアーカイブ室）

近年、舞台芸術の保存と活用の重要性が広く認識されつつあるが、総合芸術という性質が、保存活用を難しくさせているという側面がある。イベントでは、舞台芸術を構成する要素を概観し、保存と活用にあたって考慮されるべき著作権などの権利事項について参加者と情報共有を行った。国内では舞台芸術のアーカイブが全くといっていいほど進んでいない危機的状況や、知的財産権の課題の解決には、関係者の協力が不可欠であることなど、今後に向けた対策の必要性が共有された。

●来場者数　69名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

第６回　エンパク青空市

日時　12月11日（水）　11：00～16：00
会場　演劇博物館

当館恒例のイベント「エンパク青空市」は、演劇博物館でこれまで収集してきた資料の中から重複分を無料でお分けする催しである。日本の古典芸能や近現代演劇、外国のパフォーマンスアート、映画など様々な分野に関する和書、外国語書、チラシ・パンフレット・ポスターを参加者に提供した。当日は平日にもかかわらず、たくさんの参加者がエンパク舞台前の会場に集まり、活気が溢れるイベントとなった。

●来場者数　73名

催し物

坪内博士記念演劇博物館

公募研究「戦後日本映画における撮影所システムの変遷とその実態」公開研究会

「ロマンポルノ研究の過去・現在・未来：《外》から見るか、《内》から見るか」

日時 12月14日（土）　13：30〜15：30

会場 戸山キャンパス32号館　325教室

主催 演劇博物館演劇映像学連携研究拠点公募研究「戦後日本映画における撮影所システムの変遷とその実態」

登壇者 久保豊（演劇博物館助教）、河野真理江（青山学院大学、立教大学他非常勤講師）、鳩飼未緒（大学院博士後期課程）、ファン・ギュンミン（明治学院大学非常勤講師）

成人映画のプログラム・ピクチャーである日活ロマンポルノは、撮影所システムの最後の砦として戦後日本映画史に極めて重要な役割を果たした。演劇博物館に所蔵されたプレスシートを対象とする共同研究の成果発表として昨今ジェンダーやセクシュアリティの問題が関心を集めていながら、ロマンポルノをそうした観点から論じる試みはほとんどなされてこなかったため、女性映画研究者とクィア映画研究者により多角的な議論を行った。

●来場者数　29名

催し物

坪内博士記念演劇博物館

トークショー

新派の〈芸〉を語る―初代水谷八重子の記憶とともに―

日時 12月16日（月）　15：00〜17：00

会場 小野記念講堂

主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点

登壇者 ２代目水谷八重子、波乃久里子

聞き手 児玉竜一（演劇博物館副館長）

明治時代に生まれた「新派」の戦後を支え、従来の〈女方〉による新派から〈女優〉中心の新機軸を確立した初代水谷八重子。演劇博物館では、２代目水谷八重子さんから初代八重子資料を多数ご寄贈いただき、整理を進めている。本イベントでは、初代八重子の娘で今の新派を牽引する水谷八重子さんと、初代の芸を受け継いできた波乃久里子さんをお招きし、歴代の名優の思い出を語っていただいた。これからの新派が、歴史を継承しつつ、どのような道を歩んでいくのかに期待が高まった。

●来場者数　183名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

劇作家・岩井秀人はいかにして引きこもりを武器にしたか

日時　12月16日（月）　19：00〜20：30（18：30開場）
会場　小野記念講堂
主催　文化構想学部　表象・メディア論系
共催　演劇博物館
登壇者　岩井秀人（劇作家、演出家、俳優）

劇作家・岩井秀人氏は、個人的な引きこもり経験や家族との記憶を活かし、劇作家・劇作家・演出家・俳優として活躍するための活路をどのように切り開いてきたのか。本企画では、劇団ハイバイの旗揚げ公演から2020年現在の演劇ワークショップの活動に至るまで、岩井氏の多岐にわたる演劇人生についてお話を伺うことができた。「本人の人生とか、本人が自分の意思でしたことを思い返せるドラマの方が意義がある」という言葉が印象に強く残った。

●来場者数　163名

催し物　坪内博士記念演劇博物館

出張体験教室〈狂言〉

日時　①12月17日（火）　10：30〜11：20、13：30〜14：20
②2020年1月17日（金）　10：00〜10：50
③2020年1月27日（月）　13：30〜14：30
④2020年2月10日（月）　13：30〜14：20
会場　①都立志村学園
②都立大泉特別支援学校
③都立町田の丘学園
④都立あきる野学園
主催　演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会
助成　平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
講師　善竹十郎（狂言師）、善竹大二郎（狂言師）

障がいをもったこどもたちを主な対象として、都内の特別支援学校に出向いて行うenpaku出張ワークショップシリーズ11年目。演劇博物館で作成した独自の学習教材で学んだうえで「本物」の芸を見たことから、狂言に親しみが持て、さらに、その後のワークショップで実際に「体験」したことで、より一層理解が進んだようだ。最後は山伏の衣装を身にまとった善竹大二郎氏とのハイタッチで終わり、笑顔いっぱいの参加者の表情からは本教室が充実していたことを感じ取れた。

●来場者数　①97名　②85名
③50名　④36名

催し物

出張体験教室〈常磐津〉

日時 ①2020年２月20日（木）　13：35〜14：35
②2020年２月26日（水）　13：55〜14：45

会場 ①都立南大沢学園
②都立板橋特別支援学校

主催 演劇博物館、新宿から発信する「国際演劇都市TOKYO」プロジェクト実行委員会

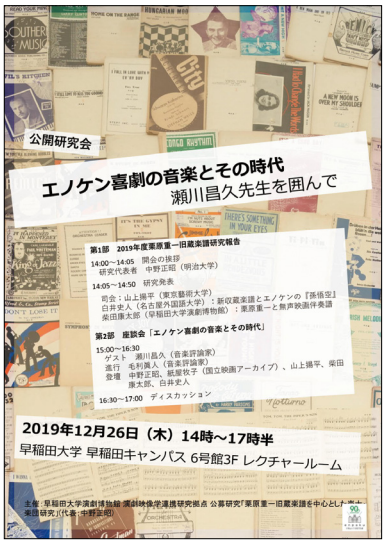
助成 平成31年度　文化庁　地域の博物館を中核としたクラスター形成事業

講師 常磐津和英太夫（太夫）、常磐津菊与志郎（三味線方）

障がいをもったこどもたちを主な対象として、都内の特別支援学校に出向いて行うenpaku出張ワークショップシリーズ11年目。会場には体育館の舞台を取り囲むように椅子が配置され、リクエスト曲「ふるさと」が三味線で演奏されると、こどもたちから和かな笑顔がこぼれ、歌舞伎における蜘蛛の曲にあわせて蜘蛛の巣テープを投げると歓声が上がった。講師の巧みなリードと身近なテーマにより、敷居高く思われる伝統芸能もより身近な存在と肌で感じたようであった。

●来場者数　①100名　②120名

催し物　坪内博士記念演劇博物館



公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」公開研究会
エノケン喜劇の音楽とその時代
瀬川昌久先生を囲んで

日時 12月26日（木）　14：00〜17：30

会場 早稲田キャンパス６号館３階　318教室

主催 演劇博物館演劇映像学連携研究拠点公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」

【第１部】

挨拶 中野正昭（明治大学）

司会 山上揚平（東京藝術大学）

発表 白井史人（名古屋外国語大学）、柴田康太郎（演劇博物館）

【第２部】

ゲスト 瀬川昌久（音楽評論家）

進行 毛利眞人（音楽評論家）

登壇者 中野正昭、紙屋牧子（国立映画アーカイブ）、山上揚平、柴田康太郎、白井史人

昭和初期の日本でジャズの普及に大きな役割を果たした音楽家である栗原重一（1897〜1983）の旧蔵資料（演劇博物館蔵）を対象とする共同研究の成果報告会。研究分担者が研究発表を行ったあと、資料の旧蔵者である瀬川昌久氏とともにエノケン映画を映写しながら討議を行い、演劇、レビュー、映画へとジャンルを超えて展開したエノケンの作品と音楽との関係を、同時代の動きのなかで浮かび上がらせた。

●来場者数　27名

催し物

坪内博士記念演劇博物館

第82回　逍遙祭　逍遙の能楽観と能が再演芸術となった由来

日時 2020年１月20日（月）　14：00〜15：30
会場 早稲田キャンパス６号館３階　318教室
主催 演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点
講師 竹本幹夫（演劇博物館前館長）

竹本幹夫前館長より「逍遙の能楽観と能が再演芸術となった由来」について講演いただいた。始めに坪内逍遙が百年以上前に残した能楽論と、それに現れた能楽観の紹介があり、その後、逍遙の能についての論述から、逍遙が見抜いた能の本質として①能は再演芸術であり、新作による創造性は期待できない、②能は中世的性格をもち、現代性は皆無であること、③伝統の墨守が、能の生き残る唯一の道であることという３点を挙げられ、逍遙の先見の明について語られた。

●来場者数　52名

展覧会

會津八一記念博物館

富岡コレクション　絵画の名品

日時 ４月１日（月）〜４月28日（日）
会場 會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催 會津八一記念博物館

当館のリニューアルオープンを記念して、室町時代の法華経絵、近世屏風絵、白隠の禅画から近代日本画まで、富岡重憲コレクションの絵画を選りすぐって展示した。

●来場者数　1,752名

展覧会ギャラリートーク

富岡コレクション　絵画の名品　ギャラリートーク

日時 ４月13日（土）　13：00〜13：30
会場 會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催 會津八一記念博物館
講師 下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

●来場者数　６名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

展覧会　　會津八一記念博物館

ブブノワさんの絵画

日時　5月9日(木)～6月16日(日)
会場　會津八一記念博物館2階　グランド ギャラリー（常設・企画大展示室）
主催　會津八一記念博物館

ワルワーラ・ブブノワ（1886～1983）はロシア帝国生まれの画家。ロシア・アヴァンギャルドの活動に関わった後、1922年に来日。日本では、大正期新興美術運動にロシア構成主義の紹介者として携わった。本学でロシア語教師として長年教壇に立ったブブノワは、学生たちから「ブブノワさん」と親しまれた。本展では、版画が紹介されることの多かったブブノワのパステル画、水彩画を中心に展示した。

●来場者数　4,008名

展覧会　　會津八一記念博物館

富岡コレクション　書の名品

日時　5月20日(月)～6月30日(日)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

富岡重憲コレクションには、和歌をしたためた小品や、奈良時代から室町時代までのさまざまな時代の書跡を貼り込んだ折帖（おりじょう）など、日本の書作品が少なからず含まれている。この中から、2018年度写真入りの目録を刊行した手鑑（てかがみ）「文彩（ぶんさい）」をはじめとして、室町から江戸初期にかけての禅僧の書まで、当コレクションの書の名品を選んで展示した。

●来場者数　3,482名

展覧会ギャラリートーク

富岡コレクション　書の名品　ギャラリートーク

日時　5月25日(土)　13：00～13：30
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

●来場者数　50名

展覧会　會津八一記念博物館

ニューヨークに学んだ画家たち―木村利三郎を中心に

日時　6月27日（木）～8月4日（日）
会場　會津八一記念博物館２階　グランド ギャラリー（常設・企画大展示室）
主催　會津八一記念博物館

戦後、とりわけ1960年代前後には、日本から多くのアーティストたちが、アートの最前線であったニューヨークに渡り、定住し、学び、制作を展開した。本展では、そうした時代背景のなか、彼らが何を考え、何を表現したかを検証した。とくに、2017年本館に寄贈された木村利三郎（1924～2014）の版画作品を中心とした作品群を体系的に、はじめて大々的に一般公開。同時に、当時ニューヨークで繰り広げられた日本人アーティストたちの動向の一端を浮きぼりにした。

●来場者数　7,362名

展覧会　會津八一記念博物館

染付

日時　7月16日（火）～9月22日（日）
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

染付は白地に藍色の文様が施された陶磁器。中国では青花と称され、本格的な生産は元時代（14世紀）に始まり、ベトナム、朝鮮半島、日本などアジアだけでなく、遠く中近東やヨーロッパ、アフリカにまで輸出され、世界の陶磁に大きな影響を与えた。この展覧会では、富岡重憲コレクションの中国・朝鮮半島・日本の染付のほとんどの作品を展示した。

●来場者数　4,632名

展覧会ギャラリートーク

染付　ギャラリートーク

日時　7月27日（土）　13：00～13：30
会場　會津八一記念博物館１階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

●来場者数　13名

展覧会　　會津八一記念博物館

考古学・民族資料　常設展示

日時　9月21日（土）開始
会場　大隈記念タワー（26号館）10階　125記念室
主催　會津八一記念博物館

會津八一記念博物館の三本柱のひとつである、考古学・民族資料分野は、26号館125記念室にて、常設展示を開始した。世界各地のさまざまな時代の遺跡を対象に発掘調査によって発見された資料を公開。また、コレクション資料として寄贈されたアフリカやオセアニア地域の民族資料も展示。穴澤咏光コレクション（青銅器・青銅鏡など）、土佐林義雄コレクション（アイヌ民族資料）、山内清男コレクション（土器・石器）等も貴重なコレクション群である。

●来場者数　3,535名

展覧会　　會津八一記念博物館

世界をつなぐやきもの

日時　10月1日（火）～11月10日（日）
会場　會津八一記念博物館2階　グランド ギャラリー（常設・企画大展示室）
主催　會津八一記念博物館

アル＝フスタート遺跡からは、遠く離れた中国でつくられたやきものが大量に発見されている。このやきものは、中国の南方から東シナ海、南シナ海、インド洋を経由し、さらにアラビア半島へと悠遠の地を結ぶ海路―陶磁の道―を介した交易によってもたらされた。本展ではアル＝フスタート遺跡の出土品をはじめ、會津八一記念博物館に所蔵されている西アジア・東南アジア・東アジアのさまざまな陶磁器を展示し、やきものを通じた世界各地の交流の様子を示す。

●来場者数　4,758名

展覧会関連講演会・シンポジウム

世界をつなぐやきもの－早稲田大学の調査から－

日時　10月19日（土）　13：00～15：00
会場　戸山キャンパス36号館6階　681教室
主催　會津八一記念博物館
講師　田畑幸嗣（文学学術院教授）
　　近藤二郎（文学学術院教授）

●来場者数　30名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

展覧会　　會津八一記念博物館

イメージの中の日本と中国の近代 ―ラップナウ・コレクションから―

日時　10月1日(火)～11月10日(日)
会場　會津八一記念博物館2階　グランド ギャラリー（常設・企画大展示室）
主催　現代政治経済研究所、20世紀メディア研究所、會津八一記念博物館
共催　日本中国友好協会、科学研究費・新学術領域「和解学の創成：戦争と植民地をめぐる和解文化と記憶イメージ」班
協力　SGU「グローバルアジア研究拠点：和解と持続可能な開発のために」

世界的な絵葉書コレクターであるドナルド・ラップナウ氏のコレクションから、近代の日本と中国の間に起きた、日清戦争から第二次世界大戦の終結までのさまざまな出来事を描いた図像を用いた、絵葉書、錦絵、風刺画、ビラ・ポスター、たばこカード、立体写真、着物、盃、楽譜などのエフェメラ・メディアを展示。歴史書とは異なった大衆的なイメージという側面から、近代における日中関係を振り返るとともに、国際関係における図像メディアの機能についても考察する。

●来場者数　4,424名

展覧会　　會津八一記念博物館

白隠と仙厓

日時　10月4日(金)～11月18日(月)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

近世に臨済禅を中興した白隠慧鶴（1685～1768）、博多を拠点に活躍した仙厓義梵（1750～1837）は、技法にこだわらない個性的な絵を描いたことで知られている。日本美術史上特筆すべき二人の禅書画を展示した。

●来場者数　3,792名

展覧会ギャラリートーク

白隠と仙厓　ギャラリートーク

日時　11月9日(土)　13：00～13：30
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

●来場者数　14名

展覧会　會津八一記念博物館

藍より青く ―小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴

日時　11月25日(月)～2020年1月18日(土)
会場　會津八一記念博物館1階　會津八一コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

小杉一雄（1908～1998）は、1979年まで本学で教鞭をとっていた東洋美術史研究者。中国・日本における文様史や仏教美術史の研究で知られる。画家・小杉放菴の長男として生まれ、會津八一を学問の師と仰いだ。定年退職後は自身も旅絵師として個展を開くなど、生涯を通して美術にかかわる。本展では、父・放菴と師・八一の交流からはじまり、そこから繋がっていく一雄の研究人生、旅絵師としての余生、子や弟子へ影響をあたえたその個性を、数々の資料からたどった。

●来場者数　3,003名

展覧会　會津八一記念博物館

中国の霊鳥・霊獣

日時　12月5日(木)～2020年1月31日(金)
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館

鳳凰や龍は古代から現代まで連綿と続く中国を代表する霊鳥・霊獣だが、時代によっても作品の種類によってもさまざまな形が見られる。本展では、富岡重憲コレクションをはじめ、會津八一記念博物館所蔵の中国美術から、龍、鳳凰、獅子などの意匠をあらわした作品を集めて展示した。

●来場者数　2,327名

展覧会ギャラリートーク

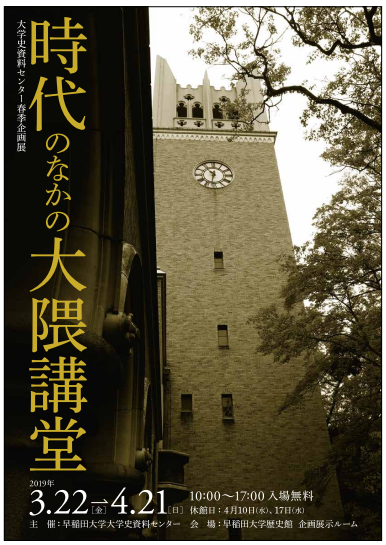
中国の霊鳥・霊獣　ギャラリートーク

日時　12月14日(土)　13：00～13：30
会場　會津八一記念博物館1階　富岡重憲コレクション展示室
主催　會津八一記念博物館
講師　下野玲子（會津八一記念博物館主任研究員）

●来場者数　10名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

展覧会　大学史資料センター



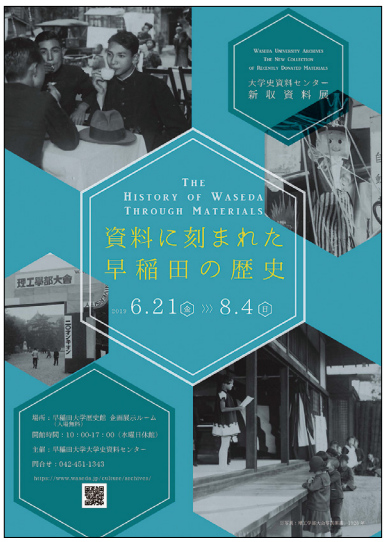
大学史資料センター　春季企画展
時代のなかの大隈講堂

日時　3月22日(金)～4月21日(日)
会場　早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
主催　大学史資料センター

早稲田のシンボルとして知られる大隈講堂。1927年の開館以来変わらず在りつづける講堂について、いまだなき時代から、大隈重信の没後その宿願を果たすべく建築がなされ、完成後は卒業・入学式をはじめ、講演や演劇、あるいは大学紛争など、さまざまな出来事の場となり現代に至るまで、それぞれの時代のなかで早稲田の歴史とともに歩んだ姿をたどった。

●来場者数　2,185名

展覧会　大学史資料センター



大学史資料センター　新収資料展
資料に刻まれた早稲田の歴史

日時　6月21日(金)～8月4日(日)
会場　早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
主催　大学史資料センター

大学史資料センターでは、毎年、前年度に寄贈された資料を一堂に集めた「新収資料展」を開催している。2019年度は、2018年度に寄贈を受けた資料を公開した。本資料展示では、高田早苗揮毫「義勇奉公」をはじめ、1911年「白石荘蔵宛大隈重信書簡」、1917年「塩澤昌貞宛片上伸宛書簡」、1919年「早稲田大学政経学部一年記念」写真、1938年「卒業記念文鎮」、1979年「清水司式辞草稿（ヘルベルト・フォン・カラヤン名誉博士号贈呈式）等、寄贈いただいた数多くの貴重な資料を展示した。

●来場者数　3,150名

展覧会

大学史資料センター

大学史資料センター　秋季企画展
進取の精神の実践者－同志社から来た教員たち

日時 9月27日(金)～11月3日(日・祝)
会場 早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
主催 大学史資料センター

同志社で学び、早稲田で教鞭をとった大西祝（はじめ）、浮田和民、安部磯雄。1890年代、東京専門学校（現・早稲田大学）に相次いで着任した彼らは、哲学、政治、歴史等を幅広く講じるかたわら、教場の外でも様々な社会実践に取り組んだ。その意思は教え子たちへと受け継がれ、早稲田はデモクラシーの時代を迎えることになる。国家主義の風潮に抗い、精神の自由を擁護した彼らの足跡をたどることで、校歌に謳われる「進取の精神」が育まれた時代に迫った。

●来場者数　2,056名

講演会・シンポジウム

大学史資料センター

大学史に学生は入っているか
―『小樽商科大学百年史』の経験から―

日時 12月4日(水)　18：00～19：30
会場 早稲田キャンパス　大隈会館2階　N201・N202会議室
主催 大学史資料センター
講師 荻野富士夫（小樽商科大学名誉教授）

『早稲田大学百五十年史』は、「学生について積極的に紙幅を割いて、その特色が概観できるものとする」ことを、編集方針にしている。そこで、学生について重点的・系統的に取り上げた『小樽商科大学百年史』（2011年）の編纂・執筆を担当した荻野富士夫氏を講師に迎え、制度史や管理運営史にとどまらない大学史をどう作成していくのかを考えた。

●来場者数　44名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

講演会・シンポジウム　国際文学館

国際シンポジウム「村上春樹と国際文学」

日時 11月28日（木）　18：15〜20：40
会場 国際会議場 井深大記念ホール
主催 国際文学館
共催 スーパーグローバル大学創成支援事業 国際日本学拠点
協力 株式会社ホリプロ、株式会社新潮社

【第一部】
演出 井上尊晶
出演 木場勝己、マメ山田、塚本幸男、土井ケイト

【第二部】
出演 柴田元幸（東京大学名誉教授・翻訳家）、川上未映子（作家）、
マイケル・エメリック（UCLA教授・文学学術院准教授）、
辛島デイヴィッド（国際学術院准教授）

第一部では蜷川幸雄氏の演出によって世界各国で好評を博した舞台「海辺のカフカ」の一部場面について、一夜限りの再演を実現した。

第二部はパネルディスカッション「村上春樹と“翻訳”」と題して、翻訳家、作家、研究者の視点から村上文学を翻訳することの面白さや難しさを語った。その後の質疑の時間では、登壇者に対して時間内に収まらないほど多くの質問が投げかけられるなど村上文学に対する人々の関心の高さを示すイベントとなった。

●来場者数　400名

催し物　文化企画課

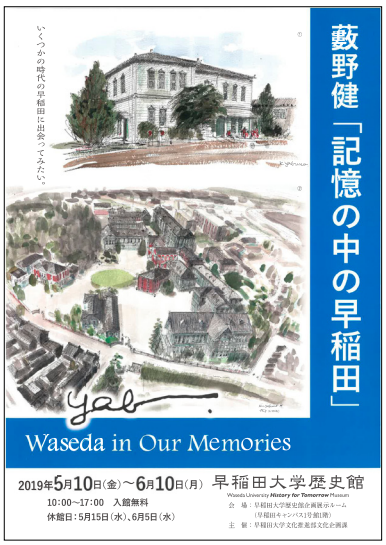
第10回　早稲田狂言の夕べ

日時 4月16日（火）　17：30〜19：00
会場 大隈記念講堂大講堂
主催 文化推進部・総長室
協力 早稲田大学校友会・リーガロイヤルホテル東京
出演 野村万作・野村萬斎他

2015年に文化功労者顕彰を受けた、本学校友で人間国宝の野村万作氏、ご子息で推薦校友の野村萬斎氏をはじめとする豪華出演者による狂言公演。2010年４月より本学学生・教職員・招待校友を対象として毎年開催しており、本年で10回目となる公演では、野村萬斎氏の解説に続き、「鬼瓦」（野村万作出演）、「止動方角」（野村萬斎出演）の二演目が上演された。

●来場者数　922名

展覧会　　文化企画課



藪野健「記憶の中の早稲田」

日時　5月10日(金)～6月10日(月)
会場　早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
主催　文化推進部文化企画課

現代を代表する洋画家で、本学の栄誉フェロー、名誉教授でもある藪野健氏が『早稲田学報』に連載し、学園の特色ある建築や周囲の風景を、軽やかな画筆とエッセイにより生き生きと再現している。本展はその原画など約20点を展示。明治期から現在までの建築物や早稲田界隈の様子をたどることにより、本学の知られざる歴史の1頁に思いを巡らせる。

●来場者数　1,935名

展覧会ギャラリートーク

記憶の中の早稲田　ギャラリートーク

日時　5月26日(日)・5月31日(金)　14：00～14：30
会場　早稲田大学歴史館　企画展示ルーム
主催　文化推進部文化企画課
講師　藪野健（本学栄誉フェロー）

文化事業
2019年度　展覧会・催し物
Museum Week 2019

日時 5月20日(月)～31日(金)
会場 會津八一記念博物館、早稲田大学歴史館、早稲田スポーツミュージアム、125記念室ほか
主催 文化推進部
協力 早稲田大学生活協同組合、早稲田大学周辺商店連合会、ジモア編集部
後援 新宿区

會津八一記念博物館、早稲田大学歴史館、早稲田スポーツミュージアムを始めとした各文化施設の魅力や、ミュージアム化が進むキャンパスの美しさを体感していただくことを目的に実施。2019年度はイベントを更に拡充させ、来場者数、ミュージアム来館者数共に、多くの人数を記録した。

イベント来場者数

企画名	来場者数
ミュージアムワードパズル	1,475
ワセダベアをさがせ！	1,504
キャンパスはミュージアム!?フォトラリー	575
Museum LIVE（昼）	1,800 （4回計）
似顔絵体験	137 （5回計）
演劇博物館イベント	160
會津八一記念博物館ツアー	150 （2回計）
會津八一記念博物館コンサート	240 （2回計）
會津八一記念博物館名品人気投票	313
昔の学生ファッション体験	703
ミュージアムカフェコンサート	50
歴史館ギャラリートーク	187
歴史館検定合格者・バッジプレゼント	269
生協　コラボメニュー	5,017
COPPE コラボメニュー	297
Café Clio コラボメニュー	69
ホイッスルカフェ コラボメニュー	50
計	12,996名

ミュージアム来館者数

ミュージアム名	来場者数
會津八一記念博物館	4,052名
早稲田大学歴史館	3,600名
早稲田スポーツミュージアム	3,124名
計	11,081名

※演劇博物館は工事のため休館

文化事業
2019年度　展覧会・催し物
第10回　早稲田学生文化・芸術祭

日時 6月6日(木)～6月16日(日)
会場 小野記念講堂、早稲田アリーナ、ワセダギャラリー、27号館1階ショーウィンドウ、小野記念講堂ロビー
主催 文化推進部・学生部

早稲田学生文化・芸術祭は、「学生団体の発表機会を増やし、早稲田の学生文化・芸術を発信・創造すること」を目的に、2010年より実施。文化推進部・学生部のサポートのもと、公認学生団体・サークルの学生が主体となって公演や作品展示等を行い、秋の「早稲田祭」に並ぶ、学生が日頃の活動成果を披露する、春の一大文化イベントとして位置づけられている。

2019年度は第10回の記念開催として、27団体が参加した。大隈記念講堂が改修工事のため、2019年に竣工した早稲田アリーナをはじめ、小野記念講堂・ワセダギャラリー・27号館1階ショーウィンドウの4会場で、パフォーマンス・ダンス・楽器演奏・作品展示などさまざまな分野の企画が実施された。

公演企画

会場	形態	日程	団体名	来場者数
小野記念講堂	オムニバス公演	6月8日(土)	エレクトーンサークル AUGMENT	90
			オルケスタ・デ・タンゴワセダ	120
			ハイソサエティ・オーケストラ	90
			ニューオルリンズジャズクラブ	70
			魁響	50
		6月9日(日)	津軽三味線愛好会　三津巴	160
			よさこいチーム東京花火	120
			交響楽団	80
			怪獣同盟	90
			ジャグリングサークル～infinity～	160
			Waseda Salsa Party（わせサル）	200
			わせプロ	180
	単独公演	6月10日(月)	Waseda International Festival	180
		6月11日(火)	お笑い工房 LUDO	150
		6月12日(水)	Choco Crunch × Street Corner Symphony（コラボ企画）	160
早稲田アリーナ	オムニバス公演	6月16日(日)	TAP-LOVERS	500
			下駄っぱーず	450
			WASEDA BALLERS	400
			ベリーダンスサークル SARAHbelly	600
			ハワイ民族舞踊研究会（わせフラ）	800
			ジャズダンスサークル Oasis	800
			チアダンスチーム MYNX	750
			SHOCKERS	850
			エンディング	750

展示企画

会場	期間	団体名	来場者数
ワセダギャラリー	6月6日(木)～9日(日)	陶芸部稲穂窯	120
ショーウィンドウ	6月6日(木)～9日(日)	写真部	—
	6月10日(月)～14日(金)	絵画会	—
小野記念講堂ロビー	6月8日(土)～12日(水)	写真部	—

●来場者数　7,920名

文化事業
2019年度　展覧会・催し物
早稲田文化芸術週間2019

日時 10月7日（月）～21日（月）
会場 早稲田キャンパス、戸山キャンパスほか
主催 文化推進部
協力 早稲田大学生活協同組合、早稲田大学周辺商店連合会、ジモア編集部
後援 新宿区

早稲田文化芸術週間は本学の文化普及・社会貢献・地域振興活動を社会に発信することを目的に2010年度より開始、本学最大の文化芸術フェスティバルとなっている。大学と地域が一体となり、講演会やコンサート、ワークショップなど約40のイベントを一挙展開。2019年に開館した早稲田スポーツミュージアムも会場に加わり、来場者数は過去最多の数字を記録した。

早稲田文化芸術週間2019（10月7日（月）～21（月））来場者数

No.	企画名	日程	来場者数
1	Museum LIVE	10月10日（木）・15日（火）・17日（木）	1,500
2	早稲田大学・立教大学応援部合同応援デモンストレーション	10月16日（水）	300
3	創立記念日スペシャル 早稲田スポーツ・アニバーサリーステージ	10月21日（月）	200
4	創立記念日スペシャル LIVE	10月21日（月）	100
5	會津八一記念博物館ミュージアムコンサート	10月7日（月）・8日（火）・9日（水）	180
6	早稲田大学歴史館 Café Clio ミュージアムカフェコンサート	10月15日（火）	60
7	WAVOCappella	10月18日（金）	75
8	中井貴惠「音語り」10周年記念公演 小津安二郎映画を聞く～小津日和～	10月10日（木）～14日（月・祝） ※12日（土）台風のため中止	760
9	劇団システマ・アンジェリカ × 自己破産したお母様は馬のコンディションに目を光らせる 企画公演『Es,』	10月19日（土）・20日（日）	188
10	いとうせいこう × 竹俣紅 トークショー	10月8日（火）	130
11	文化推進学生アドバイザー presents カフェ進化論	10月16日（水）	30
12	文化推進学生アドバイザー presents 人形メディア学特別講演「ふな菊祭」	10月17日（木）	200
13	世界をつなぐやきもの－早稲田大学の調査から－	10月19日（土）	30
14	會津八一記念博物館　白隠と仙厓　ギャラリートーク	※台風のため中止	－
15	「時代を越える－堀　文子」関連企画　イタリア　トスカーナへの旅　内海信彦サマーワークショップ2019	※台風のため延期	－
16	漫画研究会presents　早稲田の思い出を似顔絵に！	10月7日（月）～11日（金） ※12日（土）台風のため中止	80
17	歴史館検定	10月7日（月）～21日（月）	－
18	早稲田大学歴史館撮影スポット昔の学生ファッションで歩いてみよう！	10月7日（月）～21日（月）	373
19	早稲田スポーツ展	10月7日（月）～21日（月）	－
20	戸山散策ツアー	10月14日（月・祝）	15
21	演技と歌と音楽の反応！生演奏ミュージカルワークショップ	10月15日（火）	25
22	文化推進学生アドバイザーpresents　シルクスクリーン印刷でオリジナルトートバッグ作り！	10月16日（水）・19日（土）	20
23	稲門祭2019	10月20日（日）	－
24	早稲田大学歴史館「聳ゆる甍」エリア　テーマ展示「早稲田の文学者たち（後期）―令和から未来へ―」	10月7日（月）～21日（月）	3,135
25	進取の精神の実践者――同志社出身の教員たち	10月7日（月）～21日（月）	746
26	會津八一記念博物館　企画展　世界をつなぐやきもの	10月7日（月）～21日（月）	1,880
27	會津八一記念博物館　富岡展　白隠と仙厓	10月7日（月）～21日（月）	1,615
28	特集展示「イメージの中の日本と中国の近代 ―ラップナウ・コレクションから―」	10月7日（月）～21日（月）	1,691
29	125記念室考古常設展示	10月7日（月）～21日（月）	1,111
30	ヒトラーに抗した学生たち　ミュンヘン・白バラ	10月7日（月）～21日（月）	20
31	祖父が語らなかったこと：ソ連強制収容所を経験したドイツ人の物語	10月7日（月）～15日（火）	350
32	生協コラボメニュー　スポーツミュージアムタツタ丼	10月7日（月）～21日（月）	2,824
33	COPPEコラボメニュー　小腹にぴったり！ 20秒ホットドッグ＆コッペパン	10月7日（月）～21日（月）	138
34	Café Clioコラボメニュー　秋を堪能！栗とチョコレートのスペシャルスイーツ	10月7日（月）～21日（月）	72
35	Whistle CAFE コラボメニュー　戸山の丘パスタ2	10月8日（火）～20日（日）	37
36	100円朝食（早大生限定・1日100食）	10月7日（月）～21日（月）の平日	3,856
37	高田馬場・早稲田 ジモアラーメンラリー&総選挙2019	10月7日（月）～21日（月）	900
38	文化推進学生アドバイザーpresents　ミュージアムワードパズル	10月7日（月）～21日（月）	912
39	文化推進学生アドバイザーpresents　ワセダベアをさがせ！	10月7日（月）～21日（月）	723
40	文化推進学生アドバイザーpresents　キャンパスはミュージアム！?フォトラリー	10月7日（月）～21日（月）	505

●来場者数　24,781名

催し物　文化企画課

中井貴恵「音語り」10周年記念公演
小津安二郎映画を聞く～小津日和～

日時 10月10日（木）～14日（月・祝）
会場 小野記念講堂
主催 オンザフィールド
協力 文化推進部、松竹株式会社、オフィス小津、オフィス貴貴、アベベネクスト、サイト＆アート・デジタルアーカイブス、全国小津安二郎ネットワーク
出演 中井貴恵（女優・エッセイスト）、松本峰明（ジャズピアニスト・作曲家・編曲家）、佐野史郎（俳優）

中井貴恵氏が2009年から続けている「音語り～小津安二郎映画を聞く～」の10周年記念公演を、母校・早稲田大学で５日間連続開催した（うち１日は台風により中止）。初日には小津映画を愛する俳優・佐野史郎氏をトークゲストに迎え、小津映画が与えた影響や魅力をうかがったほか、「晩春」の音語りを中井氏と共演し披露した。特別映画『小津映画と私』、映画『東京物語』、音語り「晩春」、「東京物語」、「麦秋」を、延べ760名の皆様にお楽しみいただいた。　●来場者数　760名

催し物　文化企画課

縄文時代からの歴史と自然を体感するツアー

日時 10月26日（土）　10：30～18：00
会場 本庄キャンパス、早稲田コミュニケーション・センター、考古資料館
主催 レジデンスセンター・文化推進部文化企画課
参加 WISH寮生・交換留学生寮在住の学生　35名
内容 ①「旧石器、縄文時代からの環境変動と列島の人々と自然との交渉の歴史」レクチャー
②考古資料館で大久保山遺跡出土の考古資料、西東京市下野谷遺跡出土の縄文土器を見学、ハンドオン
③考古資料館整理室で縄文土器ワークショップ、拓本実習
④大久保山遺跡、寺院跡や東谷中世墳墓群遺跡、前山１号墳、宥勝寺北裏遺跡、浅見山遺跡などを見学
⑤フィードバックレクチャー
講師 井上裕一（考古資料館学芸員）

本学の魅力と、本庄キャンパスの豊かな自然環境と文化財を活用し、留学生に日本の里山の自然と文化、歴史を理解して頂くことを目的として、2019年度より「縄文時代からの歴史と自然を体感するツアー」を実施している。

WISH寮生・交換留学生寮在住の学生を対象に、旧石器、縄文時代からの環境変動に対して列島の人々がどのように適応してきたのか、人と自然との交渉の歴史を講義し、大久保山の里山を散策、自然にふれあいながら観察する。また、遺跡や史跡を巡り、考古資料館で遺跡から出土した文化財に触れ体感することをとおして、文化財や歴史に対する興味や関心を高める機会を提供している。恵まれた自然環境のもと広大で豊富な施設を有する本庄キャンパスを会場に、本学の留学生が日本の豊かな自然環境と文化財にふれあいながら、その歴史を学ぶ機会となっている。

文化事業
2019年度　展覧会・催し物

催し物　文化企画課

多和田葉子・高瀬アキ　パフォーマンス&ワークショップ

日時 パフォーマンス「奇怪仕掛けのハムレット」11月14日(木)　18：30〜20：30
ワークショップ「言葉と音楽」Vol.10　11月15日(金)　16：30〜18：30

会場 小野記念講堂

主催 文化推進部、スーパーグローバル大学創成支援事業早稲田大学国際日本学拠点、文化構想学部文芸・ジャーナリズム論系 松永美穂研究室

出演 多和田葉子（作家）、高瀬アキ（ジャズピアニスト）

ベルリン在住の作家・多和田葉子氏と、ジャズピアニスト・高瀬アキ氏による、言葉と音楽のコラボレーションの可能性を探るパフォーマンス&ワークショップ。

10回目となる今年はハイナー・ミュラーの代表作『ハムレットマシーン』をテーマとし、朗読と即興ジャズピアノによるユニークなパフォーマンスが披露された。

ワークショップでは参加者が、現代のハムレットまたオフィーリアとしての台詞を考え、朗読発表を行った。

●来場者数　268名

展覧会　文化企画課

海を渡ったサムライ〜朝河貫一

日時 2020年１月11日(土)〜２月28日(金)

会場 早稲田大学歴史館　企画展示ルーム

主催 文化推進部文化企画課

協力 福島県立図書館、甚野尚志（文学学術院教授）

本展は福島県立図書館が2018年に開催した「海を渡ったサムライ　朝河貫一没後70年記念展」において展示された資料をもとに構成したもの。朝河貫一は本学の前身である東京専門学校を卒業して渡米、ダートマス大学やイェール大学で学び、その後両大学で40年近く教鞭をとった。この間、『入来文書』をはじめ多くの業績を残すとともに、ルーズベルト大統領から昭和天皇宛の親書を起草するなど、日米平和のために尽力した。本展初公開の資料も含め、朝河の人柄や足跡を改めて振り返った。

●来場者数　1,047名

文化事業

2019年度　出品・展示協力

【坪内博士記念演劇博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
5月23日～8月26日	「Manga　マンガ」	大英博物館
5月25日～6月30日	特別展「三遊亭圓朝生誕180年記念　清方と江戸の粋 ～圓朝との関わりとともに～」	鎌倉市鏑木清方記念美術館
7月6日～8月25日	特別展「江戸のスポーツと東京オリンピック」	東京都江戸東京博物館
8月21日～9月8日 9月11日～9月23日 10月16日～10月28日 12月12日～12月26日 2020年2月16日～3月1日	「十三代目市川團十郎白猿　襲名記念　市川海老蔵展」	株式会社オーク
9月3日～9月29日	「生誕250年記念　歌川豊国ー写楽を超えた男」	太田記念美術館
10月6日～12月15日	特別展「オリンピックと文学者」	公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団 鎌倉文学館
10月26日～12月1日	特別展「泉鏡花没後80年　清方と鏡花　～ふたりで紡ぐ物語の世界」	鎌倉市鏑木清方記念美術館
2020年1月1日～12月15日	「宝塚歌劇の殿堂」	阪急電鉄株式会社
2020年1月11日～3月22日	「山田耕筰と美術」	栃木県立美術館
2020年1月11日～2月28日	福島県立図書館協力企画展「海を渡ったサムライ～朝河貫一」	早稲田大学文化推進部文化企画課
2020年1月18日～4月5日	「六世　中村歌右衛門展」	世田谷文学館

【會津八一記念博物館】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
2月9日～4月7日	奇想の系譜展　江戸絵画ミラクルワールド	東京都美術館
3月16日～5月12日	へそまがり日本美術　禅画からヘタウマまで	府中市美術館
4月4日～5月19日	藪野健「時空散歩　ー江戸東京、そして東北」	多摩美術大学美術館
5月10日～6月10日	藪野健「記憶の中の早稲田」	早稲田大学歴史館
10月1日～12月1日	ZENGA　白隠と仙厓展	佐川美術館
11月27日～12月22日	かながわの遺跡展「縄文と弥生ー時代と文化の転機を生きた人々ー」	神奈川県立歴史博物館
11月30日～2020年2月11日	生誕115年　片岡球子と難波田龍起展	北海道立釧路芸術館

【文化企画課】

期　　間	展覧会名称	申請者団体名
7月13日～10月14日	岡本太郎美術館20周年記念展 これまでの企画展みんな見せます！　前期／岡本太郎・縄文から現代へ	川崎市岡本太郎美術館

地域交流事業

文化推進部は、本学の優れた文化資源を公開し各地の教育研究活動に役立て、また本学が有する人的資源を地域社会の教育や文化推進に活用し社会貢献するため、さまざまな文化事業を展開している。本学のキャンパスが所在する地域や包括協定・文化交流協定を締結した地域で、大学が所蔵する貴重な文化財を巡回展覧会により公開している。また、地域の行政・企業・住民と連携して、本学の学生・教職員に校友も加わり、演劇・映画・映像・音楽・文学・芸術・科学・スポーツなどの多様なイベントを協働で実施している。

1．福島県白河市

福島県白河市と早稲田大学の文化振興ならびに早稲田文化を多くの地域に広げたいという意図のもと、2014年度より開始した地域交流である。2014年度・2015年度は本学公認サークルStreet Corner Symphony、2016年度・2017年度は早稲田大学グリークラブ、2018年度は「早稲田大学混声合唱団」「津軽三味線愛好会三津巴」の二団体の協力を得て合同コンサートを行い、今年度も引き続き同二団体を派遣した。

■白河市・早稲田大学交流事業
「早稲田大学　三津巴×早混　演奏会」

日　　時：９月16日（月・祝）14：00〜16：00
会　　場：白河文化交流館コミネス
主　　催：白河市、早稲田大学
参　　加：約530名
内　　容：コンサート前日は、老人ホームせせらぎ会津町（担当：早混）と児童養護施設白河学園（担当：三津巴）でアウトリーチを行った。
心のこもった選曲による演奏では、老人ホーム入居者から「若いころを思い出し、懐かしくなった」といった嬉しいお言葉をいただき、白河学園ではミニコンサートの他、子どもたちとのレクリエーションで一緒に歌い、子供たちは大喜びであった。
公演当日は、早混・三津巴それぞれの単独ステージに加え、コミネス合唱団との校歌・市民歌を演奏するステージもあった。
来場者は昨年よりも少ない人数にとどまったが、終了後に来場者の方から温かいコメントをいただいたり、アウトリーチ先からも感動したとの声が寄せられたりするなど、盛会のうちに終えることができたといえる。

2．長野県軽井沢町

人的交流により本学の魅力を理解してもらうことを目的として、1998年から「おもしろ科学実験教室」を実施している。地域の小学生を対象に、実験や工作を自ら体験することを通じて科学・技術に対する興味や関心を高める機会を提供。恵まれた自然環境や広大で豊富な運動施設を有する軽井沢セミナーハウスを会場に、理工学術院教職員の指導のもと、親子がふれあいながら科学の不思議・楽しさを学ぶ機会となっている。

■軽井沢町・早稲田大学交流事業「第22回おもしろ科学実験教室」

日　　時：７月20日（土）10：00〜11：45（午前の部）
13：15〜15：00（午後の部）
会　　場：軽井沢セミナーハウス
主　　催：軽井沢町、早稲田大学
参　　加：小学生および保護者約100名
内　　容：①ふしぎなプロペラをつくろう！
（対象：小学１〜３年生）
②紫キャベツの七変化！ 植物色素でpHをはかろう
（対象：小学４〜６年生）

■軽井沢町・早稲田大学交流事業　講演会

日　　時：2020年２月20日（木）
13：00〜14：30
会　　場：軽井沢町中央公民館
主　　催：軽井沢町教育委員会
早稲田大学
参　　加：25名
内　　容：「近代オリンピックと社会正義の実現」
講　　師：川島浩平（スポーツ科学学術院教授）

3．佐賀県佐賀市

早稲田大学は2006年の12月19日、大隈重信の出身地である佐賀県と「連携協同による基本協定」を締結し、さまざまな教育・研究の共同事業を展開している。また、佐賀市には大隈候生誕125周年を記念して開館した大隈重信記念館と、国の指定史跡である大隈重信旧家（生家）がある。大隈重信記念館とは、毎年交流をしており、文化企画課および中央図書館等から企画展への資料提供などを行っている。12月には、２号館の大隈記念室に展示されていた大隈家の七宝焼花鳥紋大花瓶を佐賀市に寄贈し、大隈重信記念館で、常時展示が行われるようになった。

■「令和元年度　大隈祭」

日　　時：５月12日（日）10：00～14：30
会　　場：佐賀市大隈重信記念館
主　　催：佐賀市大隈記念館保存会
　　※本学は校友会佐賀県支部や佐賀県、佐賀市などとともに協力
記念講演：「参議大隈重信の情報網」
　　講師…大日方純夫（大学史資料センター所長、文学学術院教授）

■七宝焼花鳥紋大花瓶お披露目式

日　　時：12月14日（土）　14：00～14：20
会　　場：佐賀市大隈重信記念館
主　　催：佐賀市
協　　力：大学史資料センター
　　※大日方所長が来賓祝辞およびテープカットを行った。

4．岐阜県加茂郡八百津町

杉原千畝出身地である岐阜県八百津町と早稲田大学が、文化振興の交流ならびに早稲田文化を多くの地域に広げたいという意図のもと、2016年度から実施された地域交流である。コンサート前日には出演学生が町内の２つの中学校の生徒と歌の交流を行うほか、杉原千畝記念館にも訪問し、見識を深めている。今回は、早稲田大学グリークラブを派遣した。

■岐阜県八百津町交流事業「ワセダ・ヒューマニティ・コンサート'19」

日　　時：８月31日（土）13：30～15：30　　主　　催：八百津町、早稲田大学
会　　場：八百津町ファミリーセンター　　参　　加：550名
内　　容：初日は町内の「八百津中学校」と「八百津東部中学校」の中学生に歌唱指導を行ったが、グリークラブの合唱指導が分かりやすいと、生徒・学校関係者に大変喜ばれた。翌日のコンサートはグリークラブに加え、前日に歌唱指導を行った八百津東部中学校生徒も出演した。コンサートの来場者数は550名（チケット完売）であり、お客様からも「来年もまた来て欲しい」とのお言葉を多数いただいた。

5．東京都

東京都との地域交流事業として、以下の催し物の後援を行った。

■「歴史的建造物保存のチャリティイベント　講演と演奏会」

2014年度より東京都の「東京歴史まちづくりファンド」の一環として実施されているイベント。「歴史的建造物」を次世代に引き継ぐ貴重な景観資料であるという観点から、例年は国の重要文化財である大隈記念講堂を会場としていたが、本年は大隈記念講堂が改修工事により、小野記念講堂にて講演「歴史文化と音楽について」および演奏会を開催した。

日　　時：７月29日（月）18：00～20：15
主　　催：東京都（都市整備局）、公益財団法人東京都防災・建築まちづくりセンター
後　　援：早稲田大学、新宿区
会　　場：小野記念講堂
参　　加：61名

6．東京都新宿区

早稲田大学のキャンパス所在地域である、東京都新宿区との地域交流事業として、以下の事業を行った。

（1）催し物の後援・協力（文化推進部）

新宿区との地域交流事業として、今年度は以下の催し物の後援・協力を行った。

■令和元年度　新宿区夏目漱石コンクール
読書感想文コンクール「わたしの漱石、わたしの一行」（中学生部門・高校生部門）

応募期間：６月24日（月）～９月13日（金）
表 彰 式：12月14日（土）
会　　場：新宿区立漱石山房記念館
主　　催：新宿区・新宿区教育委員会　※本学は後援
審査委員：審査委員長　森まゆみ（作家）
審査委員　　中島国彦（本学名誉教授）
久保庭健吉（日本国語教育学会常任理事）
吉住健一（新宿区長）
酒井敏男（新宿区教育長）

なお、中学生部門・高校生部門に、それぞれ「早稲田大学賞」を顕彰している。

■令和元年度　新宿区夏目漱石コンクール
絵画コンクール「どんな夢を見た？あなたの『夢十夜』」（小学生部門）

応募期間：６月24日（月）～９月13日（金）
表 彰 式：12月14日（土）
会　　場：新宿区立漱石山房記念館
主　　催：新宿区・新宿区教育委員会　※本学は後援
審査委員：審査委員長　森まゆみ（作家）
審査委員　　藪野健（府中市美術館館長、日本藝術院会員、本学栄誉フェロー）
南口清二（一般社団法人二紀会理事）
吉住健一（新宿区長）
酒井敏男（新宿区教育長）

なお、小学生低学年部門・小学生高学年部門に、それぞれ「早稲田大学賞」を顕彰している。

（2）平成 31 年度　文化庁補助事業　新宿から発信する「国際演劇都市 TOKYO」プロジェクト実行委員会

2018年度に引き続き、今年度も文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に採択されたことを受け、新宿区の文化観光課や教育委員会、公益財団法人新宿未来創造財団などと連携し、新宿を中心とした地域文化・観光の振興、人材育成、国際発信力の強化や演劇博物館の多言語化などを目指してさまざまな活動を実施した。

企画名称	期　　間	会　　場	講師・出演者など
名作シナリオを楽しもう 傑作ドラマ「アフリカの夜」ふたたび！	5 月 13 日（月）	小野記念講堂	登壇者：大石静（脚本家）、室井滋（俳優・エッセイスト）、ともさかりえ（俳優）、山口雅俊（プロデューサー、監督）、宮本理江子（ドラマディレクター）、柚木麻子（作家） 司会：岡室美奈子（演劇博物館館長）
新宿区内の博物館の発信力の向上を目指すセミナー	6 月 19 日（水） 7 月 17 日（水） 10 月 30 日（水） 11 月 27 日（水）	6 号館 318 教室	講師 第 1 回：岡室美奈子（演劇博物館館長） 第 2 回：児玉竜一（演劇博物館副館長） 第 3 回：成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員） 第 4 回：西野嘉章（東京大学総合研究博物館特任教授・インターメディアテク館長）
エンパクに虹をかける ― LGBTQ 入門	7 月 15 日（月・祝）	小野記念講堂	登壇者：マサキチトセ（ライター）、大賀一樹（GS センター専門職員） 司会：久保豊（演劇博物館助教）
ハンター・ハートビートメソッド・ワークショップ	8 月 7 日（水）～ 8 月 9 日（金）	3 号館 808 教室他	講師：ケリー・ハンター（フルート・シアター芸術監督）、キム・アビラ・コンデ（フルート・シアター団員） 通訳：山田カイル（抗原劇場／若葉町ウォーフ）
野外無声映画上映会「エンパクシネマ」	10 月 1 日（火）	演劇博物館前舞台	出演：澤登翠（活動写真弁士）、山城秀之（活動写真弁士）、山内菜々子（活動写真弁士）、湯浅ジョウイチ（ギター）、鈴木真紀子（フルート）

企画名称	期　間	会　場	講師・出演者など
エンパク★こども演劇教室 2019　演じるってなんだろう？	10 月 12 日（土）～ 10 月 14 日（月・祝） ※台風の影響により 3 日間すべて中止	早稲田小劇場どらま館、 9 号館第 1 会議室他	講師：平田オリザ (劇作家・演出家・大阪大学特任教授)
リーディング公演＆トークセッション「こどものためのフライングステージ」	10 月 23 日（水）	早稲田小劇場どらま館	出演：関根信一（演出家・劇作家・俳優、劇団フライングステージ代表）、石関準（劇団フライングステージ）、岸本啓孝（劇団フライングステージ）、石坂純、木内コギト（＼かむがふ／）、木村佐都美（おちないリンゴ）、小林将司、清水泰子、芳賀隆宏 トークセッション進行：飛田勘文（演劇博物館助教）
エンパク鑑賞ガイド「おしばいにこんにちは」	11 月 2 日（土）～ 12 月 25 日（水）	配布場所：演劇博物館 1 階廊下、3 階廊下	企画・監修：アメリア・アレナス 協力：岡室美奈子、児玉竜一、埋忠美沙、李思漢、後藤隆基、大内曜 編集：小松佐矢子 デザイン：鈴木晴子
国際シンポジウム「日本演劇・映画人の〈台湾時代〉―植民地舞台にみる文化的交錯―」	11 月 13 日（水）	小野記念講堂	登壇者：呉佩珍（台湾・国立政治大学大学院台湾文学研究所所長）、三澤真美恵（日本大学文理学部教授）、李思漢（演劇博物館助手） コメンテーター：細井尚子（立教大学異文化コミュニケーション学部教授）、後藤隆基（演劇博物館助教）
インタラクティブ・パフォーマンス・スペース「やってみよう！演じてみよう！」	11 月 2 日（土）～ 12 月 25 日（水）	演劇博物館 2 階 企画展示室 II	映像制作・クロマキー合成技術提供：飯盛雅子、ベクターデザイン 会場デザイン協力：古山智一
展示解説パネル・ホームページ展示案内の多言語化	11 月 2 日（土）～ 12 月 25 日（水） 11 月 14 日（木）～ 12 月 24 日（火）	演劇博物館 歴史館企画展示ルーム	
特別展「人形劇、やばい！」	11 月 14 日（木）～ 12 月 24 日（火）	歴史館企画展示ルーム	企画協力：菊地浩平（人形文化研究者）
出張体験教室〈狂言〉	12 月 17 日（火） 2020 年 1 月 17 日（金） 2020 年 1 月 27 日（月） 2020 年 2 月 10 日（月）	都立志村学園 都立大泉特別支援学校 都立町田の丘学園 都立あきる野学園	講師：善竹十郎、善竹大二郎（狂言師）
ファミリー・パフォーマンス「しげちゃん一座　絵本トーク＆ライブショー」	12 月 24 日（火）	小野記念講堂	出演：室井滋（文・イラスト・朗読・うた・鍵盤ハーモニカ）、長谷川義史（イラスト・朗読・うた・ウクレレ）、岡 淳（サックス・フルート・篠笛）、大友剛（ピアノ・マジック）
出張体験教室〈常磐津〉	2020 年 2 月 20 日（木） 2020 年 2 月 26 日（水）	都立南大沢学園 都立板橋特別支援学校	講師：常磐津和英太夫（太夫）、常磐津菊与志郎（三味線）

7．東京都中野区

東京都中野区との地域交流事業として、2010年より早稲田大学交響楽団による「Maple Concert」（メープルコンサート）を開催している。

■東京都中野区・早稲田大学文化交流事業
早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2019」

日　　時：11月17日（日）14：00～16：00
会　　場：なかのZERO大ホール
主　　催：中野区、早稲田大学
協　　力：なかのZERO指定管理者
指　　揮：曽我大介
参　　加：994名

「ワセオケ」の愛称で親しまれる早稲田大学公認のオーケストラ「早稲田大学交響楽団」によるコンサート。中野区と早稲田大学との文化交流事業として2010年度に始まり、今年で10回目の記念公演となった。

公演は２部構成のプログラムで、各曲間に指揮者の曽我大介氏が曲の聴きどころ・ポイントを分かりやすく丁寧に解説するなど、コンサート初体験の方にも楽しんでもらえるよう趣向を凝らされたものになった。小学生の子どもたちをはじめ幅広い年齢層から約1,000名の来場があった。

8. 静岡県熱海市

熱海市、熱海稲門会、演劇博物館は、毎年坪内逍遙顕彰事業の一環として、「逍遙忌記念祭」を開催し、記念講演会を行っている。また記念祭に合わせ、熱海市教育委員会・熱海稲門会・美濃加茂市・演劇博物館などの逍遙ゆかりの機関・施設が参加する意見交換会を行っている。熱海は坪内逍遙終焉の地で、終の棲家となった双柿舎や墓所の海蔵寺があるほか、逍遙自ら作詞した市歌や、創立に尽力したとされる市立図書館など、逍遙の足跡が多く残る。

■第49回逍遙忌記念祭

※新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し式典を中止、熱海市による墓参のみ実施

日　　時：2020年２月28日（金）13：00〜15：00
会　　場：熱海市「起雲閣」（音楽サロン）
主　　催：熱海市、熱海稲門会、演劇博物館
内　　容：お慕いのことば（熱海市長、熱海稲門会会長、演劇博物館館長）
来賓挨拶（熱海市議会議長）
逍遙ゆかりの歌斉唱（坪内逍遙のうた保存会）
記念講演「坪内逍遙と日本語改革の時代」紅野謙介（日本大学文理学部教授）

9. 千葉県鴨川市

鴨川市と本学の間で「鴨川市太海多目的公益用地に関する基本合意書」（セミナーハウスの誘致）の締結をしたことを契機に、鴨川市民に本学を理解していただくため、1998年より開始した交流事業。安房地域の小学生を対象とした理工学術院教職員の指導による「おもしろ科学実験教室」の開催を中心に、講演会や本学キャンパスツアーなどさまざまな事業を実施している。

■鴨川市・早稲田大学交流事業
「第22回おもしろ科学実験教室」

日　　時：８月22日（木）９：30〜12：00（午前の部）
13：30〜16：00（午後の部）
会　　場：鴨川市文化体育館（鴨川ドーム）
主　　催：鴨川市、早稲田大学
参　　加：約300名
内　　容：①地球環境にやさしいエンジンを作ろう
（対象：小学４〜６年生）
②描いたコースに沿って走るロボットを作ろう！（対象：小学４〜６年生）
③君だけの７色に光るファイバーフラワーを作ろう！（対象：小学１〜３年生）
④オリジナルペーパーフラワーをつくろう（対象：小学１〜３年生）

■鴨川市・早稲田大学交流事業　講演会

日　　時：2020年１月25日（土）13：30〜15：30
会　　場：鴨川市郷土資料館文化財センター
主　　催：鴨川市、早稲田大学
参　　加：約60名
内　　容：「近代オリンピックと社会正義の実現」
講　　師：川島浩平（スポーツ科学学術院教授）

10. 岐阜県美濃加茂市

2007年４月、文化推進部発足を機に、本学は坪内逍遙と津田左右吉の生誕地である美濃加茂市と「文化交流協定」を締結した。美濃加茂市は逍遙の功績を称え市民文化の向上を図るため、1994年に「坪内逍遙大賞」を創設し、演劇分野において坪内逍遙の功績を再認識させるような優秀な活動・著作を表彰している。本学は文化交流協定の一環として2007年に「早稲田大学坪内逍遙大賞」（48ページ参照）を制定し、互いに隔年で授賞することとなった。このほか、以下のさまざまな交流事業を実施している。

（1）学生演劇公演（文化推進部）

学内公募で選ばれた本学の学生劇団が、みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムに約１週間合宿し野外公演を行う企画で、2008年より毎年９月に実施。滞在中に県立加茂高等学校などでの演劇ワークショップ、坪内逍遙博士顕彰会との交流、坪内逍遙に関する学習なども行ってきた。

■第12回美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業学生公演 早稲田大学劇団あはひ「ソネット」

日　　時：９月14日（土）、15日（日）18：00〜19：00
会　　場：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム
　　生活体験館（まゆの家）
作・演出：大塚健太郎
演出協力：早稲田大学詩人会
出　　演：劇団あはひ
主　　催：みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム
　　早稲田大学
協　　力：坪内逍遙博士顕彰会
来場者数（のべ）：145名
内　　容：シェイクスピア原作・吉田健一訳『ソネット』をもとに、154篇の詩を翻訳やシェイクスピアの他作品、また詩の手法を織り交ぜ再構築した物語を上演した。今回は初の試みとして古民家（生活体験館「まゆの家」）を舞台とし、演出にもこだわった公演は地域の子どもから大人まで多くの人に楽しんでいただけた。公演終了後には役者・脚本によるアフタートークを開催した。

11. 埼玉県本庄市

本学の魅力と、本庄キャンパスが豊かな自然環境と文化財に恵まれた学び舎であることを理解して頂くことを目的として、2017年度より大久保山の自然と文化財を巡る「秋の大久保山散策ツアー」を実施している。

本庄高等学院の保護者とその家族を対象に、本庄児玉地域の人々と自然との交渉の歴史を講義し、大久保山の森を散策、自然にふれあいながら観察する。また、遺跡や史跡を巡り、考古資料館で遺跡から出土した文化財に触れ体感することをとおして、文化財や歴史に対する興味や関心を高める機会を提供している。恵まれた自然環境のもと広大で、豊富な施設を有する本庄キャンパスを会場に、親子がふれあいながら豊かな自然環境と文化財、その歴史を学ぶ機会となっている。

■秋の大久保山散策「縄文時代からの歴史と自然を体感する」ツアー

日　　時：10月５日（土）11：00〜15：00
会　　場：本庄キャンパス、本庄高等学院稲稜ホール、考古資料館、早稲田コミュニケーション・センター
主　　催：本庄高等学院保護者の会、文化推進部文化企画課
参　　加：本庄高等学院保護者およびその家族　100名
内　　容：①「本庄キャンパス 大久保山の自然と文化財」 レクチャー
　　②考古資料館での大久保山遺跡出土の考古資料、西東京市下野谷遺跡出土の縄文土器を見学、ハンドオン
　　③大久保山遺跡、寺院跡や東谷中世墳墓群遺跡、前山１号墳、宥勝寺、宥勝寺北裏遺跡、浅見山遺跡などを見学
講　　師：井上裕一・細田勝（考古資料館学芸員）

顕　彰　事　業

1．早稲田大学坪内逍遙大賞

2007年に迎えた創立125周年を記念して、近代日本の文芸・文化の創造者ともいうべき坪内逍遙の偉業を顕彰すると同時に、その精神を広く未来の文化の新たな創出につなげるという願いから、文芸をはじめとする文化芸術活動において著しい貢献をなした個人（もしくは団体）を顕彰すべく、「早稲田大学坪内逍遙大賞」を創設した。また、これからの文化の担い手である若い才能を応援すべく、奨励賞を併せて創設した。あまたある文芸・文化関係の賞の中で、広く開かれた独自の意義を担う賞を目指していきたいと考えている。文芸・文化・芸術活動の中から、隔年で「大賞」１名、「奨励賞」１名を選んで顕彰する。副賞として記念のメダルと大賞100万円、奨励賞50万円を贈呈している。

早稲田大学は、文化推進部が2007年４月に発足したのを機に、美濃加茂市との間で同年春に文化交流協定を締結した。この協定の精神には本学の地域連携の理念がある。具体的には早稲田大学と美濃加茂市とが、隔年で独自の選考基準に基づきつつも坪内逍遙大賞を選考し、結果的に毎年の授賞を実現しようというものである。美濃加茂市坪内逍遙大賞が演劇人の顕彰であるのに対して、早稲田大学坪内逍遙大賞は坪内逍遙の業績に鑑み、文芸をはじめとする文化全般に貢献した人々を顕彰することを目指している。

過去の受賞者

受賞年度	坪内逍遙大賞	奨 励 賞
2007（第１回）	村上　春樹	川上未映子
2009（第２回）	多和田葉子	木内　　昇
2011（第３回）	野田　秀樹	円城　　塔
2013（第４回）	小川　洋子	小野　正嗣、山田　　航
2015（第５回）	伊藤比呂美	福永　　信
2017（第６回）	柴田　元幸	アーサー・ビナード

第７回（2019年）　授賞式11月７日（木）

大　賞
是枝　裕和

【授賞理由】映画監督として国際的な高い評価を得る一方で、文筆家としても自作の小説化をはじめ、理も情もある優れたエッセイを精力的に発表している是枝裕和氏は、BPOの放送倫理検証委員会で古巣のテレビ業界への提言をつづけ、また西川美和氏ら新進気鋭の監督の作品をプロデュース、さらには大学の教壇に立って若者たちに「表現」の何たるかを教授するなど、常に後進のために道を拓き、背中を押してきた。その無私の情熱は、まさに本賞を授賞するにふさわしいものである。

奨励賞
福嶋　亮大

【授賞理由】福嶋亮大氏の「文芸評論家」としての活動にはめざましいものがある。その批評の対象は、日本の近現代の文学や思想にとどまらず、マンガ、アニメ、特撮などの日本のサブカルチャーを包摂する。しかも個々の作品の緻密な読解を通じて、それらを産出し受容する私たちの社会についての文化論・文明論的な考察へと思考が大きく伸びていく。「文芸評論家」という言葉にはとても収まらないスケールの大きな知識人としての福嶋氏の仕事の総体を、深い敬意とともに、そして今後のさらなる活躍への期待を込めて顕彰する。

2．若山牧水青春短歌大賞（宮崎県延岡市）

宮崎県出身の歌人、若山牧水（1885～1928年）を顕彰する短歌コンクール。若山は旧制延岡中学を経て、早稲田大学英文科卒（1908年）。同級生の北原白秋（射水）、中林蘇水と親交を厚くし、「早稲田の三水」と呼ばれる。

毎年、全都道府県から広く短歌を募集し、短歌大賞・優秀賞などを決定している。早稲田大学は「審査員特別賞 早稲田大学賞」として、３名を顕彰している。2019年度は３名を表彰した。

3．梓立祭作文・絵画コンクール（高知県宿毛市）

梓立祭（しりつさい）は、「学苑創立の母」といわれる小野梓（1852～1886年）の誕生日２月20日（新暦の３月10日）を記念日として祝う祭典である。小野梓を顕彰しその研究をとおして、教育文化・芸術の向上を図りながら、宿毛の偉人たちも順次顕彰し、過去の偉人達の足跡に学びながら青少年の健全育成や宿毛の文化・教育の発展に寄与することを目的とする。

梓立祭では、作文・絵画コンクールを実施し、最優秀賞・優秀賞・奨励賞として、小学生、中学生各１名を顕彰している。2019年度は９名を表彰した。

※式典自体は、新型コロナウィルス感染拡大の影響で中止となった。

4．旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」

旺文社が、「全国の小・中・高校生の研究・アートおよび文芸の振興奨励と、青少年の個性の育成」を目的として、1957年から主催している顕彰事業である。

このコンクールでは、幅広く多様な分野に部門を設け、児童・生徒が自身の得意分野の作品で応募でき、毎年全国から多数の応募がある。優秀作品には、内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞などが授与される。早稲田大学は「早稲田大学総長賞」として、文芸Ⅰ（小説・詩部門）の最優秀者を表彰している。2019年度は早稲田大学総長賞を１名表彰した。

5．小川未明文学賞（新潟県上越市）

上越市が生んだ日本児童文学の父、小川未明（1882～1961年）の作品および業績を広く市内外に紹介するとともに、子供の感性や想像力を育むといった理念で設立された顕彰事業。未明は早稲田大学英文科在学中より執筆活動を開始し、1905年に卒業。生涯で1,000点以上の作品を世に送り出し、「日本のアンデルセン」として読者に親しまれている。小川未明文学賞は、小学生を対象にした創作児童文学に与えられる文学賞である。文化推進部は、後援顕彰事業を行っている。

学術研究書出版制度

1．学術情報発信の基盤としての出版事業

2008年度からスタートした学術研究書出版制度は、「大学の研究教育の内容やその水準を直接に体現する手段のひとつであり、当該大学にとって枢要な使命を担う」と位置付け、その充実こそが、大学全体のアカデミック・ステイタスの維持・向上に直結するという考えを示してきた。これまで研究教育活動や多様な文化事業の成果を効果的に発信するために、早稲田大学と早稲田大学出版部は連携してきた。

出版事業が学術情報発信の基盤をなすという認識から、大学が直接これに関わって、自らの使命を果たすことが、学術研究書出版制度の主旨であるといえる。

2．学術研究書出版制度の見直しについて

学術研究書出版制度について、2015年度に以下の見直しを行い、新たな制度のもと、2019年度に７冊の学術研究書を発行した。

（1）２種類の学術研究書シリーズ　－　学術叢書とエウプラクシス叢書

「早稲田大学学術叢書」は、本学のアカデミック・ステイタスの維持・向上を目的とし、良質な学術研究書の出版機会を引き続き提供する。

また、以前の「早稲田大学モノグラフ」に代わって、新鋭研究者のための叢書「早稲田大学エウプラクシス叢書」（「エウプラクシス」は、ギリシャ語で「成功を収めた実績」の意味）を発刊し、出版経験の少ない研究者に対して出版機会を提供するため、出版部の専門の編集者が入稿から刊行まで、原稿の完成に向けて支援する体制を作る。いずれも上製本のA5判とし、ページ数、字数などの詳細は募集要項に記載する。

（2）審査のプロセスと採否の最終決定について

「書面審査」では、学内外の複数の専門審査員に、原稿と提出書類に基づく審査および評価を行う。専門審査員は、応募分野の専門研究者を中心に研究者データベースなどから抽出し選定する。学位論文をベースにしている場合は、指導教員などの関係者は除かれ、公正性を維持する。「書面審査」による評価点に、出版物としての市場性の観点から出版部編集者の意見を加え、研究推進担当副総長および文化推進担当理事が最終決定を行う。

（3）出版企画委員会の役割

委員会は、文化推進を担当する理事からの諮問を受けて、レベルの高い学術文化情報の発信、国際社会における本学のアカデミック・ステイタスの向上を目指して、この制度における学術書と学内外の優れた学術研究成果の応募促進のために審議する。

（4）応募資格の拡大と募集要項などの見直し

上記の改善に伴い、「早稲田大学学術叢書」および「早稲田大学エウプラクシス叢書」の応募資格を拡大し、募集要項、審査要領などの内容を見直す（募集要項の詳細については、ウェブサイト「早稲田文化」の学術出版支援の欄を参照）。

学術叢書刊行一覧（2009年３月～2019年３月）

刊行No.	書　　名
学術叢書１	濱川栄『中国古代の社会と黄河』
学術叢書２	真辺将之『東京専門学校の研究』
学術叢書３	中垣啓『命題的推論の理論』
学術叢書４	堀真清『一亡命者の記録』
学術叢書５	藤井千春『ジョン・デューイの経験主義哲学における思考論』
学術叢書６	鳥越皓之『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らし』
学術叢書７	山内晴子『朝河貫一論』
学術叢書８	金孝淑『源氏物語の言葉と異国』
学術叢書９	鈴木勘一郎『経営変革と組織ダイナミズム』
学術叢書10	佐藤洋一『帝政期のウラジオストク』
学術叢書11	五十嵐誠一『民主化と市民社会の新地平』
学術叢書12	内田悦生・下田一太（コラム執筆）『石が語るアンコール遺跡』
学術叢書13	青木雅浩『モンゴル近現代史研究』
学術叢書14	飯山知保『金元時代の華北社会と科挙制度』
学術叢書15	上野和昭『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』
学術叢書16	Ayako Yoshino『Pageant Fever』
学術叢書17	河西宏祐『全契約社員の正社員化』
学術叢書18	市川熹『対話のことばの科学』
学術叢書19	伊藤りさ『人形浄瑠璃のドラマツルギー』

刊行No.	書　　名
学術叢書20	石濱裕美子『清朝とチベット仏教』
学術叢書21	黒崎剛『ヘーゲル・未完の弁証法』
学術叢書22	片木淳『日独比較研究 市町村合併』
学術叢書23	Rieko Suzuki『Negotiating History』
学術叢書24	杵渕博樹『人類は原子力で滅亡した』
学術叢書25	奥野武志『兵式体操成立史の研究』
学術叢書26	井黒忍『分水と支配』
学術叢書27	岩佐壯四郎『島村抱月の文藝批評と美学理論』
学術叢書28	高橋弘幸『企業競争力と人材技能』
学術叢書29	高橋勝幸『アジア冷戦に挑んだ平和運動』
学術叢書30	小松志朗『人道的介入』
学術叢書31	渡邉将智『後漢政治制度の研究』
学術叢書32	石井裕晶『制度変革の政治経済過程』
学術叢書33	森佳子『オッフェンバックと大衆芸術』
学術叢書34	北山夕華『英国のシティズンシップ教育』
学術叢書35	Yoshio Ueno『An Automodular View of English Grammar』
学術叢書36	森祐司『地域銀行の経営行動』
学術叢書37	竹中晃二『アクティブ・ライフスタイルの構築』
学術叢書38	渡邊詞男『格差社会の住宅政策』

学術研究書出版制度

刊行No.	書　　名
学術叢書39	岩田圭一『アリストテレスの存在論』
学術叢書40	藤岡典夫『環境リスク管理の法原則』
学術叢書41	陳丹舟『中国独占禁止法―法体系とカルテル規制の研究』
学術叢書42	上野義雄『An Automodular View of Ellipsis』
学術叢書43	小松寛『日本復帰と反復帰―戦後沖縄ナショナリズムの展開』
学術叢書44	工藤龍太『近代武道・合気道の形成―「合気」の技術と思想』
学術叢書45	牟倫海『戦後日本の対外文化政策―1952年から72年における再編成の模索』
学術叢書46	楯身智志『前漢国家構造の研究』

刊行No.	書　　名
学術叢書47	李軍『日中漢字文化をいかした漢字・語彙指導法―「覚える」から「考える」へ』
学術叢書48	湯浅有希子『柔道整復師―接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み』
学術叢書49	谷口建速『長沙走馬楼呉簡の研究―倉庫関連簿よりみる孫呉政権の地方財政』
学術叢書50	上野義雄『現代日本語の文法構造―形態論編』
学術叢書51	上野義雄『現代日本語の文法構造―統語論編』
学術叢書52	前田徹『初期メソポタミア史の研究』
学術叢書53	新保敦子『日本占領下の中国ムスリム―華北および蒙疆における民族政策と女子教育』

学術叢書刊行一覧（2019年４月～2020年３月）

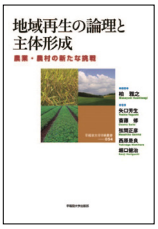
刊行No.	書　　名
学術叢書54	柏雅之他５名『地域再生の論理と主体形成―農業・農村の新たな挑戦』
学術叢書55	上野義雄『意味の文法』

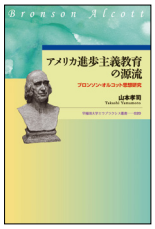
エウプラクシス叢書刊行一覧（2016年４月～2019年３月）

刊行No.	書　　名
エウプラクシス叢書１	島崎崇史『ヘルスコミュニケーション―健康行動を習慣化させるための支援』
エウプラクシス叢書２	酒井雅子『クリティカル・シンキング教育―探求型の思考力と態度を育む』
エウプラクシス叢書３	坂口可奈『シンガポールの奇跡―発展の秘訣と新たな課題』
エウプラクシス叢書４	楢山満照『蜀の美術―鏡と石造遺物にみる後漢期の四川文化』
エウプラクシス叢書５	飯尾美沙『小児気管支喘息の患者教育―子どもと家族への健康心理学的アプローチ』
エウプラクシス叢書６	鄭榮蘭『日韓文化交流の現代史―グローバル化時代の文化政策：韓流と日流』
エウプラクシス叢書７	陳雅賽『中国メディアの変容―ネット社会化が迫る報道の変革』
エウプラクシス叢書８	森下之博『中国賃金決定法の構造―社会主義秩序と市場経済秩序の交錯』
エウプラクシス叢書９	野口真広『植民地台湾の自治―自律的空間への意志』
エウプラクシス叢書10	Petra Karlová『Japan's Pre－War Perspective of Southeast Asia; Focusing on Ethnologist Matsumoto Nobuhiro's Works During 1919-1945』
エウプラクシス叢書11	水野忠尚『プレデール立地論と地政学―経済のグローバル化と国家の限界』
エウプラクシス叢書12	柳川響『藤原頼長―「悪左府」の学問と言説』
エウプラクシス叢書13	森達也『思想の政治学―アイザィア・バーリン研究』
エウプラクシス叢書14	李慧敏『日中電力産業の規制改革―競争政策からみた自由化への歩み』
エウプラクシス叢書15	鄭東俊『古代東アジアにおける法制度受容の研究―中国王朝と朝鮮三国の影響関係を中心に』
エウプラクシス叢書16	林佳恵『六朝江南道教の研究―陸修静の霊宝経観と古霊宝経』

エウプラクシス叢書刊行一覧（2019年４月～2020年３月）

刊行No.	書　　名
エウプラクシス叢書17	酒井貴広『犬神考―迷信に対する人々の意識の変容』
エウプラクシス叢書18	張碧惠『中華民国と文物―国家建設に果たした近代文物事業の役割』
エウプラクシス叢書19	金小英『平安時代の笑いと日本文化―『土佐日記』『竹取物語』『源氏物語』を中心に』
エウプラクシス叢書20	山本孝司『アメリカ進歩主義教育の源流―ブロンソン・オルコット思想研究』
エウプラクシス叢書21	山本幸正『松本清張が「砂の器」を書くまで―ベストセラーと新聞小説の一九五〇年代』



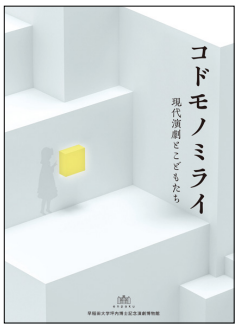


2019 年度　刊行物

文化推進部の各機関では、所蔵資料の目録、展覧会の図録、研究紀要などを定期的に発行している。2019年度に刊行されたものは以下の通りである。なお、価格は2020年３月31日現在のものである。

【演劇博物館】

（1）展覧会図録
「コドモノミライ ― 現代演劇とこどもたち」



発行：2019月11月２日
B5判　95ページ
価格：1,200円（税込）

ごあいさつ
謝 辞
企画趣旨
用語解説

第１章　博物資料で見る児童演劇の歴史Ⅰ 20世紀前半 お伽芝居の誕生と発展
第２章　博物資料で見る児童演劇の歴史Ⅱ 20世紀後半 戦後児童演劇の広がり
第３章　坪内逍遙の児童劇
第４章　こどもと現代社会
第５章　こどものなかの多様性
第６章　こどもと戦争・災害
第７章　こどもと地域社会
第８章　学校劇・演劇教育

論考篇
21世紀のこどもと演劇の関係に関する一考察／飛田勘文
子どもの権利条約から、もがれた翼、そして子どもシェルターへ／坪井節子
舞台の「子ども」が映すもの／山口宏子
原風景としての家族、戦う女性の物語／蓬莱竜太
文化政策のなかの子ども
――すべての子どもたちのための演劇を可能ならしめるもの？／中山夏織
演劇を通して不条理に出逢うこと
――朗読劇「夏の雲は忘れない」に教育を想う／山名 淳

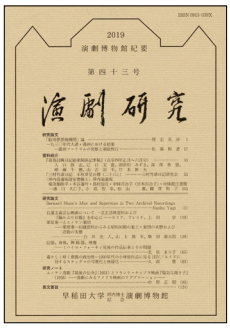
展示で紹介した演劇作品・活動リスト

（2）演劇博物館報
エンパクブック　116号

発行：2020年３月31日
B5判　76ページ
価格：700円（税込）

紹介「肉筆上方芝居絵帖」
ごあいさつ／岡室美奈子
エンパク新収蔵品紹介　エンコレ2020 Enpaku New Collection
三國連太郎の書／オリガ・サファイアの衣装／別役実自筆原稿群／肉筆上方芝居絵帖／川上音二郎一座「又々意外」の錦絵／台湾正劇のポスター
特集　河鍋暁斎画「新富座妖怪引幕」の世界
「妖怪引幕」の世界／岡室美奈子・小松加奈・柴田康太郎
「妖怪引幕」の遍歴／児玉竜一
新富座の時代／理忠美沙
2019年度展覧会報告
秋季企画展「コドモノミライ―現代演劇とこどもたち―」／飛田勘文
展示レビュー「コドモノミライ、私たちは……」／六澤万里子
特別展「人形劇、やばい！！」／飛田勘文
特別寄稿「人形劇、やばかったやっぱり」／菊地浩平
追悼 映画女優 京マチ子展／久保 豊
2020年度展覧会紹介
春季企画展「Inside/Out―映像文化とLGBT＋―」／久保 豊
秋季企画展「新派 SHIMPA―アヴァンギャルド演劇の水脈―（仮）」／後藤隆基
特別展「台湾京劇のまなざし―（華麗島（フォルモサ））に生きる古典（仮）」／李思漢
特別展「家族の肖像―石井ふく子と日本のホームドラマ―（仮）」／岡室美奈子
演劇の楽しみ方／水谷八也
幕間随筆／児玉竜一
演劇博物館の仕事（写真室）／中西智範
エンパクの様々な取組み
双柿会だより
演博だより
追悼　キーン ドナルド氏／岡室美奈子
追悼　京マチ子さん／岡室美奈子
訃報
第82回逍遙祭
2019年度シェイクスピア祭演劇講座
企画展・特別展 出品リスト
活動記録・寄贈資料
演劇博物館オリジナルグッズ
演劇博物館刊行物目録

（3）紀要
演劇研究 第四十三号



発行：2020年３月23日
A5判　365ページ
無料

研究論文
・「勧善懲悪覗機関」論 ・・・・理忠美沙
・一九三〇年代大連・満洲における能楽―満洲ツーリズムの発展と演能旅行　……佐藤和道

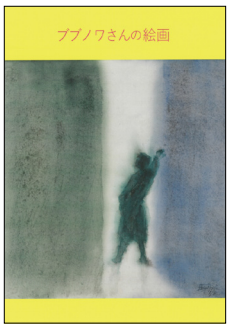
資料紹介
・『葛巻昌興日記能楽記事稿』（貞享四年正月～六月分）　……入口敦志、江口文恵、田草川みずき、深澤希望、柳瀬千穂、山吉頌平、竹本幹夫
・「三村竹清日記 不秋草堂日暦（二十八）」　……三村竹清日記研究会
・〈坪内逍遙宛諸家書簡５〉坪内逍遙宛 樺茂都陸平・木谷蓬吟・島村抱月・中條百合子（宮本百合子）・中條良江書簡　……濱口久仁子、小島智章、松山　薫、柳澤和子

研究論文
・Bernard Shaw's Man and Superman in Two Archival Recordings ……Naoko Yagi
・日蓮主義宣伝映画について ―立正活映資料および『鍋かぶり日親』を中心に　……ユリア、プレニナ、上田　学
・栗原重一とエノケン楽団　―栗原重一旧蔵資料からみる昭和初期の楽士・楽団の来歴および活動の実態　……白井史人、山上揚平、柴田康太郎
・記憶、身体、舞踊譜、映像 --- ミハイル・フオーキン死後の作品伝承とその問題　……北原まり子
・毒々しく咲く薔薇の政治性―1990年代の小林悟作品に見るHIV／エイズに対するスティグマの可視化と無縁化　……久保　豊

研究ノート
・エノケン喜劇『最後の伝令』（1931）とフランク・キャプラ映画『陽気な踊り子』（1928）
――喜劇にみるアメリカ映画のアダプテーション――……中野正昭

【會津八一記念博物館】

（1）ブブノワさんの絵画

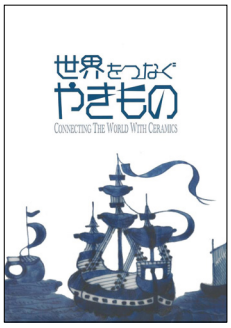


発行：2019年５月９日
B5判　63ページ
価格：1,000円（税込）

（2）ニューヨークに学んだ画家たち
―木村利三郎を中心に

発行：2019年６月27日
A4判　71ページ
価格：1,000円（税込）

（3）世界をつなぐやきもの



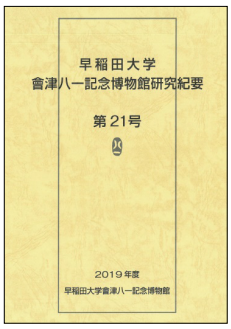
発行：2019年10月1日
A4判　54ページ
価格：1,000円（税込）

（4）藍より青く
―小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴

発行：2019年11月25日
A4判　79ページ
価格：1,000円（税込）

【大学史資料センター】

（5）早稲田大学 會津八一記念博物館 研究紀要 第21号



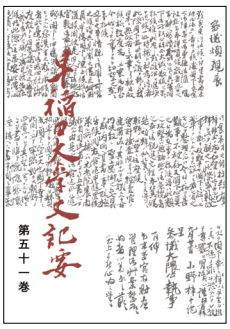
【巻頭言】
2019年度の會津博物館への贈り物（肥田路美）

【資料紹介】
美術愛好家としての高田早苗（宮田悠衣）
安藤更生によるミイラ研究資料（椋橋彩香）
會津八一記念博物館所蔵の刀子形石製模造品に関する基礎的研究（石井友菜）
富岡重憲コレクション 五彩人物図盤について　―吉祥図案 四妃十六子をめぐって―（西野航）
千葉県成田市奈土貝塚出土の縄文時代後・晩期の土器について（隈元道厚・関根有一朗）
『新天地』初出の「実学論」（丹尾安典）
富岡重憲コレクションの別尊雑記断簡について（下野玲子）

【特別講演会報告】
早稲田大学文化芸術週間2019年度特別講演会「世界をつなぐやきもの　―早稲田大学の調査から―」
特別寄稿　アル＝フスタートと早稲田大学の調査（近藤二郎）

発行：2020年3月25日
A4判　132ページ
価格：1,000円（税込）

（1）早稲田大学史記要第五十一巻



論文（沖清豪「1980年代以降の大学政策とその大学への影響：2各論（学生支援）」、宮崎里司「早稲田の持続可能なグローバル展開事業実践：日越大学日本語教育支援を例に」）、事業報告、展示等記録、早稲田大学百五十年史、大学史資料センター彙報など収録。

発行：2020年３月25日
B5判　334ページ
非売品

【文化企画課】

（1）キャンパスがミュージアム vol.1《早稲田キャンパス編》

発行：2015年７月31日
A5判　24ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年４月６日

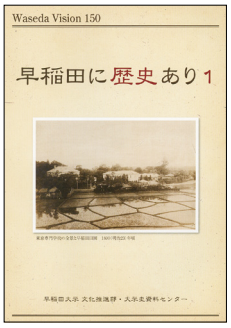
（2）キャンパスがミュージアム vol.2《大隈庭園編》

発行：2015年７月31日
A5判　13ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年４月６日

（3）キャンパスがミュージアム vol.3《藪野 健の芸術》

発行：2015年７月31日
A5判　22ページ
価格：200円（税込）
改訂版。初版は2014年６月20日

（4）早稲田に歴史あり1

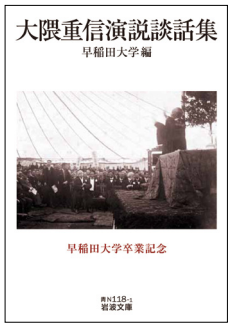


発行：2015年４月６日
A5判　26ページ
価格：200円（税込）

（5）早稲田に歴史あり2

発行：2015年４月６日
A5判　26ページ
価格：200円（税込）

（6）大隈重信演説談話集



岩波書店より刊行。大隈重信の思想が日本の発展にいかに影響を与えたかを理解し、卒業後の社会生活においても役立てることができるようにとの意向から、記念会堂（戸山キャンパス）建替えにより全体卒業式を実施できない2016年３月より３年間、学部を卒業する全学生を対象に配付することとした。なお、配布に際しては早稲田大学校友会の支援を得ている。

発行：2016年３月16日
A6判　509ページ

（7）大隈重信自叙伝

（6）の演説談話集と同じく岩波書店より刊行。演説談話集が、老境の大隈が若い世代に語ったものが、日本にどう影響を与えたかを示そうとしたのに対し、本書は、主に大隈の回顧談資料から自伝的な内容をまとめ、大隈自身の成長と活躍の過程を、自叙伝の形式にまとめようとしたものである。なお、両書を美装ケースに収めた「大隈重信選集」も早稲田大学歴史館内で販売した。

発行：2018年３月16日
A6判　528ページ

2019年度　オリジナルグッズ

早稲田大学では、多くのオリジナルグッズを制作・販売している。ここでは、特に文化推進部の各機関が2018年度に制作・販売したミュージアムグッズについて記録する。なお、価格は2020年３月31日現在のものである。

【演劇博物館】

（1）卓上カレンダー2020

本文用紙12枚、裏表紙、台紙、帯
W10cm×H21cm×D7cm（使用時）
500円（税込）
※好評につき完売

（2）グリーティングカード2020

専用封筒、中紙（挨拶状）付き
表紙の錦絵に関する解説付（日本語・英語）
W21cm×H11cm（二つ折り時）　200円（税込）

（3）ベケット・エコバッグ

A4サイズ
300円（税込）

（4）ぽち袋

３種類（各３枚入り）、裏面に絵に関する簡単な説明付き
W6.8cm×H11.8cm　400円（税込）

（5）ポストカード

10種類　ハガキサイズ
100円（税込）

（6）ポストカード（６枚セット）

各絵柄１枚ずつ、合計６枚
（ポストカードケース付）
ハガキサイズ　500円（税込）
演劇博物館のポストカード６種類のセットです。
写真はセットの例です。内容が異なる場合がありますのでご了承ください。

（7）ポストカードケース

※ケースのみ
素材：ポリプロピレン
W16.5cm×H11.9cm
300円（税込）

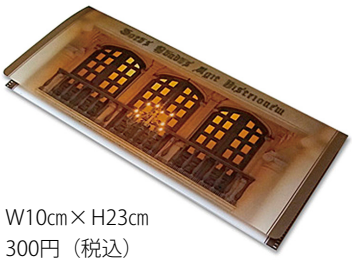
（8）クリアファイル

４種類　A4サイズ
200円（税込）

（9）Wポケット クリアファイル

素材：ポリプロピレン
W16cm×H22.5cm
300円（税込）

（10）チケットホルダー



W10cm×H23cm
300円（税込）

（11）メッセージカード「新富座妖怪引幕」

W42cm×H11cm　200円（税込）

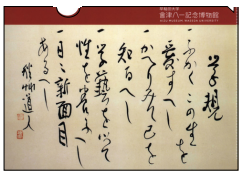
（12）コースター

10枚入り　9cm×9cm
200円（税込）

2019年度　オリジナルグッズ

【會津八一記念博物館】

(1) クリアファイル



２種類（「明暗」「学規」）
A4サイズ　200円（税込）

(2) 一筆箋

300円（税込）

(3) ポストカード

30種類　ハガキサイズ
100円（税込）

(4) クリアファイル

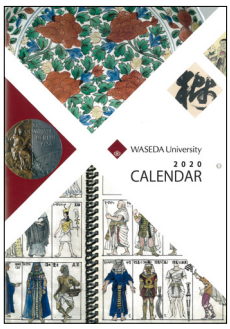
２種類（「蛤蜊観音図」「布袋すたすた坊主」）
A5サイズ　250円（税込）

(5) ポストカード

３種類　円形
150円（税込）

【文化企画課】

(1) カレンダー



A3判　壁掛け
500円（税込）

(2) クリアファイル

A4判
210円（税込）

(3) ポストカード

全13種類　100円（税込）

(4) ミニクリアファイル

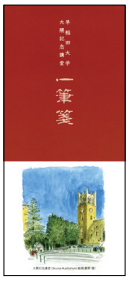
W11.5cm×H16cm
180円（税込）

(5) ミニメモパッド

1冊30枚　W7.5cm×H7.5cm
150円（税込）

《藪野健　大隈講堂 絵画シリーズ》

(6) 大隈講堂 一筆箋



１冊40枚　410円（税込）

(7) 大隈講堂 ポストカード

100円（税込）

(8)「集り散じて」ポストカード

100円（税込）

(9) ブックカバー（藪野健 WASEDA MAP）

300円（税込）

2019年度　文化広報

文化推進部の広報活動として、定期的に掲載しているものを紹介する。以下のほか、文化推進部では演劇博物館、會津博物館がイベント案内を中心としたメールニュースを発行している。

1．Waseda Online（ワセダオンライン）（http//www.yomiuri.co.jp/adv/wol）

毎月掲載。2008年５月から、Yomiuri Online（読売新聞社、インターネット版）ワセダオンラインとして掲載。早稲田大学のニュース、研究力などの分野に分かれており、その中の「文化」の欄で記事を掲載している。

年　月　日	記　事　題　名	執　筆　者
2019年４月８日	新面目なった會津八一記念博物館	肥田路美（會津八一記念博物館館長）
2019年６月25日	「新富座妖怪引幕」、大英博物館に出品	児玉竜一（演劇博物館副館長）
2019年11月20日	演劇博物館「コドモノミライ ―現代演劇とこどもたち―」の開催にあたって	飛田勘文（演劇博物館助教）
2020年１月15日	早稲田大学国際文学館（村上春樹ライブラリー）開館に向けて	栗原　悠（国際文学館助手）

2．メールニュース（文化企画課）

発行号数	発行日	主　な　記　事
95	４月 12 日	・「早稲田スポーツミュージアム」開館（2019 年３月 20 日） ・「予想外が待っている」Museum Week 2019 開催決定 ・企画展「ブブノワさんの絵画」 ・演劇博物館　休館のお知らせ ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram のご紹介
96	５月 17 日	・Museum LIVE【Museum Week 2019】 ・ワセダペアをさがせ！【Museum Week 2019】 ・ミュージアムワードパズル【Museum Week 2019】 ・キャンパスはミュージアム !? フォトラリー【Museum Week 2019】 ・早稲田大学歴史館新撮影スポット　昔の学生ファッションで歩いてみよう【Museum Week 2019】 ・早稲田大学歴史館ギャラリートーク【Museum Week 2019】 ・會津八一記念博物館 見どころ紹介ツアー【Museum Week 2019】 ・ミュージアムカフェコンサート【Museum Week 2019】 ・企画展「ブブノワさんの絵画」 ・富岡展「富岡コレクション書の名品」 ・５月の「明暗」「羅馬使節」特別公開 ・演劇博物館　休館のお知らせ ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram のご紹介
97	５月 24 日	・Museum LIVE【Museum Week 2019】 ・ワセダペアをさがせ！【Museum Week 2019】 ・ミュージアムワードパズル【Museum Week 2019】 ・キャンパスはミュージアム !? フォトラリー【Museum Week 2019】 ・早稲田大学歴史館新撮影スポット　昔の学生ファッションで歩いてみよう【Museum Week 2019】 ・歴史館検定【Museum Week 2019】 ・漫画研究会プレゼンツ　早稲田の思い出を似顔絵に！【Museum Week 2019】 ・會津八一記念博物館ミュージアムコンサート【Museum Week 2019】 ・第 10 回早稲田学生文化・芸術祭 ・企画展「ブブノワさんの絵画」 ・富岡展「富岡コレクション 書の名品」 ・５月の「明暗」「羅馬使節」特別公開 ・演劇博物館　休館のお知らせ ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram のご紹介
98	６月 14 日	・第 10 回早稲田学生文化・芸術祭【早稲田アリーナ公演】 ・６月 20 日（木）で展示終了⇒羽生結弦選手の直筆サイン入りシューズ ・富岡展「富岡コレクション 書の名品」 ・演劇博物館　休館のお知らせ ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介
99	７月 25 日	・【會津八一記念博物館 企画展】ニューヨークに学んだ画家たち　―木村利三郎を中心に ・【會津八一記念博物館 富岡展】染付 ・第 12 回 早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 学生演劇公演　早稲田大学劇団あはひ参加作品「ソネット」 ・2019 年度夏季休業期間（８月３日～９月 20 日）の事務取扱等について ・演劇博物館　休館のお知らせ ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介
100	９月 20 日	・大学史資料センター　秋季企画展「進取の精神の実践者―同志社から来た教員たち」 ・早稲田文化芸術週間 2019 開催！ ・音語り 10 周年記念公演　小津安二郎映画を聞く『小津日和』 ・多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス＆ワークショップ ・第 10 回中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2019」 ・【企画展】世界をつなぐやきもの ・【富岡展】白隠と仙ガイ ・【特集展示】イメージの中の日本と中国の近代 ―ラップナウ・コレクションから― ・考古学・民族資料　常設展示 ・演劇博物館　休館のお知らせ ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介
101	10 月４日	・早稲田文化芸術週間 2019 開催！ ・Museum LIVE【早稲田文化芸術週間 2019】 ・會津八一記念博物館ミュージアムコンサート【早稲田文化芸術週間 2019】 ・ミュージアムワードパズル【早稲田文化芸術週間 2019】 ・ワセダペアをさがせ！【早稲田文化芸術週間 2019】 ・キャンパスはミュージアム !? フォトラリー【早稲田文化芸術週間 2019】 ・漫画研究会 presents 早稲田の思い出を似顔絵に！【早稲田文化芸術週間 2019】 ・早稲田大学歴史館新撮影スポット　昔の学生ファッションで歩いてみよう【早稲田文化芸術週間 2019】 ・音語り 10 周年記念公演　小津安二郎映画を聞く『小津日和』 ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介

発行号数	発行日	主　な　記　事
102	10月11日	・早稲田文化芸術週間 2019 開催！ ・音語り 10 周年記念公演　小津安二郎映画を聞く『小津日和』 ・ミュージアムワードパズル【早稲田文化芸術週間 2019】 ・ワセダペアをさがせ！【早稲田文化芸術週間 2019】 ・キャンパスはミュージアム !? フォトラリー【早稲田文化芸術週間 2019】 ・漫画研究会 presents 早稲田の思い出を似顔絵に！【早稲田文化芸術週間 2019】 ・早稲田大学歴史館新撮影スポット　昔の学生ファッションで歩いてみよう【早稲田文化芸術週間 2019】 ・Museum LIVE【早稲田文化芸術週間 2019】 ・戸山散策ツアー【早稲田文化芸術週間 2019】 ・早稲田大学歴史館 Cafe Clio ミュージアムカフェコンサート【早稲田文化芸術週間 2019】 ・演技と歌と音楽の反応！生演奏ミュージカルワークショップ【早稲田文化芸術週間 2019】 ・早稲田大学・立教大学応援部合同応援デモンストレーション【早稲田文化芸術週間 2019】 ・文化推進学生アドバイザー presents カフェ進化論【早稲田文化芸術週間 2019】 ・文化推進学生アドバイザー presents　シルクスクリーン印刷でオリジナルトートバッグ作り！【早稲田文化芸術週間 2019】 ・創立記念日スペシャル 早稲田スポーツ・アニバーサリーステージ【早稲田文化芸術週間 2019】 ・創立記念日スペシャル LIVE【早稲田文化芸術週間 2019】 ・【企画展】世界をつなぐやきもの ・【富岡展】白隠と仙ガイ ・【特集展示】イメージの中の日本と中国の近代 ―ラップナウ・コレクションから― ・多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス＆ワークショップ ・第 10 回中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2019」 ・国際シンポジウム　村上春樹と国際文学 ・エレベーター新設工事遅延に伴う今後の演劇博物館開館日程について ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介
103	11月8日	・【富岡展】白隠と仙厓 ・多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス＆ワークショップ ・第 10 回 中野区・早稲田大学文化交流事業　早稲田大学交響楽団「Maple Concert 2019」 ・国際シンポジウム　村上春樹と国際文学 ・WASEDA University 2020 CALENDAR 発売 ・エレベーター新設工事遅延に伴う今後の演劇博物館開館日程について ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介
104	12月20日	・海を渡ったサムライ　～朝河貫一（福島県立図書館協力企画展） ・企画展「藍より青く ―小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」 ・富岡展「中国の霊鳥・霊獣」 ・2019 年度冬季休業期間（12 月 24 日～ 2020 年 1 月 5 日）の事務取扱等について ・エレベーター新設工事遅延に伴う今後の演劇博物館開館日程について ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、YouTube のご紹介
105	2020年1月31日	・2019 年度春季休業期間（2 月 5 日～ 3 月 31 日）の事務取扱等について ・2019 年度入試期間中の歴史館開館日について ・2019 年度入試期間中のスポーツミュージアム開館日について ・早稲田文化募金のご案内 ・早稲田文化 Facebook、Twitter、Instagram、YouTube のご紹介

3．新聞・雑誌・テレビで取り上げられた主なもの

掲載日・掲載号	媒　　体	記事題名	取り扱い箇所
4月1日	秋艸会報　第47号	早稲田大学　會津八一記念博物館だより	會津博物館
4月4日	東京新聞	ほっとなび情報のみちしるべ「富岡コレクション　絵画の名品」展	會津博物館
4月11日・12日	J:COM「デイリーニュース」	早稲田スポーツミュージアムの紹介	文化企画課
4月18日	朝日新聞　論座	幻の傑作ドラマ「アフリカの夜」再発見　演劇博物館がシナリオで楽しむトークショー	演劇博物館
4月25日	高田馬場経済新聞	東京メトロ早稲田駅構内に電飾ボード　早稲田大学のミュージアム４施設を紹介	文化企画課
4月30日	日本経済新聞電子版	国外最大規模の漫画展に 大英博物館に原画240点	演劇博物館
5月7日	朝日新聞	展覧会マリオン　「ババノワさんの絵画」	會津博物館
5月13日	佐賀新聞	「大隈祭」功績たたえ	大学史資料センター
5月13日	高田馬場経済新聞	早稲田大学で「Museum Week」大学内のミュージアム４施設の魅力伝える	文化企画課
5月15日	読売新聞	「新富座妖怪引幕」、大英博物館に出品	演劇博物館
5月18日	東京新聞	キャンパスインフォメーション「富岡重憲コレクション　書の名品」	會津博物館
5月22日	テレ朝news	ロンドン大英博物館　大規模『マンガ展』が公開	演劇博物館
5月22日	TBS NEWS	大英博物館で『マンガ展』、海外では“過去最大規模”	演劇博物館
5月23日	FNN.jp プライムオンライン	大英博物館で『マンガ展』の狙い　海外では過去最大規模	演劇博物館
5月23日	AFPBB News	大英博物館で『漫画展』開幕、日本国外では最大規模　国際ニュース	演劇博物館
5月23日	読売新聞オンライン	進撃の巨人・キャプ翼も…大英博物館でマンガ展　エンタメ・文化	演劇博物館
5月23日	朝日新聞夕刊	英でManga展　海外で史上最大規模	演劇博物館
5月23日	J:COM「デイリーニュース」	Museum Week 2019の紹介	文化企画課
5月29日	高田馬場経済新聞	羽生結弦選手がスケートシューズにサイン　早稲田スポーツミュージアムで限定公開	文化企画課
5月30日	東京新聞	交差点「富岡コレクション　書の名品」	會津博物館
6月3日	高田馬場経済新聞	早稲田大学で「早稲田学生文化・芸術祭」学生主体でサークル活動の成果発表	文化企画課
6月14日・18日	J:COM「デイリーニュース」	早稲田学生文化・芸術祭の紹介	文化企画課
6月21日	産経新聞	「村上ライブラリー」隈研吾さん設計	国際文学館
6月21日	読売新聞	春樹ライブラリー21年開館	国際文学館
6月21日	毎日新聞	村上春樹ライブラリー21年４月開館	国際文学館
6月24日	東京新聞 東京都心版	歌舞伎の妖怪引幕　アニメ化	演劇博物館
6月25日	高田馬場経済新聞	早大演劇博物館蔵の17メートル「妖怪引幕」、デジタルコンテンツに英で初公開	演劇博物館
6月30日	日曜美術館	岡田三郎助 洋画に日本人の魂を（資料協力）	會津博物館
7月3日	朝日新聞	早大の「村上文学館」隈さん設計	国際文学館
7月14日	読売新聞	都内版（27面）「ニューヨークに学んだ画家たち」	會津博物館
7月19日	東京新聞	ほっとなび情報のみちしるべ　いべんとぼっくす「ニューヨークに学んだ画家たち」	會津博物館
7月24日	信濃毎日新聞	軽井沢でおもしろ科学実験教室　町・早大 町内児童対象に教室	文化企画課

2019年度　文化広報

掲載日・掲載号	媒　　体	記事題名	取り扱い箇所
7月31日	time out tokyo 23号	エンパクシネマ	演劇博物館
8月5日	演劇界９月号	かぶきの至宝　五代目中村歌右衛門襲名狂言『京鹿子娘道成寺』押隈	演劇博物館
8月18日	美術手帖	大英博物館はなぜ「マンガ展」を開催したのか？　キュレーターが語るその意義	演劇博物館
8月22日	高田馬場経済新聞	エンパク★こども演劇教室　平田オリザさんの演劇ワークショップメソッドで	演劇博物館
8月25日	房日新聞	早大が出前科学教室	文化企画課
8月27日	朝日新聞	こども演劇教室＠早稲田	演劇博物館
9月1日	ステージナタリー	“演じる”テーマのWS「エンパク★こども演劇教室」今年も開催、講師は平田オリザ	演劇博物館
9月1日	広報誌にちぎん2019年秋号	AIR MAIL　イギリスの底力ー日本文化受容の「広がり」と「深さ」	演劇博物館
9月5日	演劇界 10月号	かぶきの至宝　享保期　市村座場内図屏風	演劇博物館
9月8日	BS朝日「百年名家」	坪内逍遙 終の“舞台”　～文豪が設計した熱海の別邸「双柿舎」～	演劇博物館
9月17日	読売新聞　夕刊	エンパクシネマ	演劇博物館
9月19日	高田馬場経済新聞	英「フォーチュン座」模したエンパク前舞台でサイレント映画野外上映会	演劇博物館
9月30日	まち歩き地図　東京さんぽ2020	早稲田 早大周辺に眠る漱石ゆかりの地をめぐる	演劇博物館
9月30日	高田馬場経済新聞	早大で「早稲田文化芸術週間」学生や地域と連携し、周辺エリア盛り上げる	文化企画課
10月1日	演劇と教育９+10月号	コドモノミライ展、人形劇、やばい！展	演劇博物館
10月1日	Tokyo Edition WAttention Tokyo	THE TSUBOUCHII THEATRE MUSEUM, WASEDA UNIVERSITY	演劇博物館
10月4日	東京の観光公式サイト　GO TOKYO	アジアで唯一の演劇博物館	演劇博物館
10月4日	東京新聞	ほっとなび情報のみちしるべ　いべんとぼっくす「白隠と仙厓」禅画展	會津博物館
10月5日	朝日新聞夕刊	Around Tokyo　人形劇、やばい＠早稲田	演劇博物館
10月5日	演劇界 11月号	かぶきの至宝　六代目尾上菊五郎使用『源平布引滝』実盛の衣裳	演劇博物館
10月9日	J:COM「デイリーニュース」	早稲田文化芸術週間の紹介	文化企画課
10月14日	高田馬場経済新聞	エンパク前舞台でサイレント映画上映　秋の夜空の下、16ミリフィルムで鑑賞	演劇博物館
10月18日	朝日新聞	早大坪内逍遙大賞に是枝監督	文化企画課
10月18日	読売新聞	坪内逍遙大賞に是枝裕和監督	文化企画課
10月18日	産経新聞	是枝監督に逍遙大賞	文化企画課
10月18日	高田馬場経済新聞	第７回早稲田大学坪内逍遙大賞発表　大賞は映画監督の是枝裕和さん	文化企画課
10月21日	散歩の達人11月号	東京０円スポット一覧　演劇博物館	演劇博物館
10月25日	専門図書館探訪「あなたの知りたい」に応えるガイドブック	演劇の杜へのお誘い　早稲田大学坪内博士記念演劇博物館図書室	演劇博物館
10月27日	朝日新聞	「歌舞伎救った米国人」の日本語読本　演劇評論家、早大演劇博物館に寄贈へ	演劇博物館
10月30日	朝日新聞	「文芸批評は文明批評でなければ」早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞に福嶋亮大さん	文化企画課
11月2日	東京新聞	キャンパスインフォメーション　早稲田大学演劇博物館	演劇博物館
11月5日	演劇界 12月号	かぶきの至宝　近松門左衛門自筆書簡「妹背海苔の消息」	演劇博物館
11月9日	高田馬場経済新聞	多和田葉子さんと高瀬アキさん、早大で「ハイナー・ミュラー」テーマにパフォーマンス	文化企画課
11月12日	高田馬場経済新聞	早大エンパクで子どもの未来考える企画展　案内役は逍遙が愛した羊	演劇博物館
11月12日	朝日新聞	人形劇、やばい！	演劇博物館
11月15日	高田馬場経済新聞	早稲田大学演劇博物館で現代人形劇の特別展　キーワードは「やばい！」	演劇博物館
11月15日	act guide	新派の〈芸〉を語る	演劇博物館
11月15日	公明新聞	早稲田大学演劇博物館 2019年度秋季企画展　コドモノミライー現代演劇とこどもたち	演劇博物館
11月15日	NHK「おはよう日本」	多和田葉子・高瀬アキ パフォーマンス＆ワークショップ	文化企画課・心身美容研究室
11月21日	ステージナタリー	初代水谷八重子の芸と思い出を、二代目八重子と波乃久里子が語る ―	演劇博物館
11月25日	芸術新潮 12月号	芸新手帳2020　早稲田大学演劇博物館	演劇博物館
11月28日	げきぴあ	早稲田大学演劇博物館2019年度秋季企画展　コドモノミライー現代演劇とこどもたち	演劇博物館
11月29日	日本経済新聞	村上春樹ライブラリーに12億円寄付ユニクロ柳井氏	国際文学館
11月29日	読売新聞	早大「村上春樹ライブラリー」、建築費12億円を柳井正氏が寄付	国際文学館
11月30日	スポーツ報知	無声映画に命吹き込む活動弁士	演劇博物館
12月1日	行きたい！企業ミュージアム	大学ミュージアムのススメ	演劇博物館
12月1日	美術新聞	『小杉一雄と八一、放菴』展開く	會津博物館
12月2日	高田馬場経済新聞	早大でシンポジウム「村上春樹と国際文学」　舞台「海辺のカフカ」特別上演も	国際文学館
12月3日	日本経済新聞	村上春樹と国際文学めぐり早大でシンポ	国際文学館
12月3日	読売新聞	コドモノミライ　現代演劇とこどもたち	演劇博物館
12月5日	演劇界１月号	かぶきの至宝　初代歌川豊国画　蜀山人賛「暫」	演劇博物館
12月6日	東京新聞	ほっとなび情報のみちしるべ　いべんとぼっくす「中国の霊長・霊獣」	會津博物館
12月7日	毎日新聞	村上春樹をめぐるメモらんだむ：「世界文学」としての存在感	国際文学館
12月10日	文藝春秋　2020年１月号	裏表紙「藍より青く　小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」	會津博物館
12月12日	高田馬場経済新聞	重複資料を無料配布する「エンパク青空市」　演劇文化継承のため	演劇博物館
12月13日	毎日新聞	遊ナビ美術「藍より青く　小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」	會津博物館
12月15日	佐賀新聞	大隈邸の大花瓶　記念館に	大学史資料センター
12月23日	毎日新聞（夕刊）	文化面「中国の霊鳥・霊獣」	會津博物館
12月25日	ステージナタリー	新派語るトークショーで水谷八重子「どんな時でも新派の火を消さない」	演劇博物館
12月25日	芸術新潮１月号	東京のミュージアム100｜エンパクの略称でしたしまれる演劇専門総合ミュージアム	演劇博物館
2020年１月４日	演劇界１月号	かぶきの至宝　鳥居清長画　絵看板『潤色八百屋お七』	演劇博物館
2020年１月10日	高田馬場経済新聞	早大の「文化推進学生アドバイザー」第７期始動　学生目線で「早稲田文化」発信	文化企画課
2020年１月15日	台湾研究資料 83号	国際シンポジウム　日本演劇・映画人の台湾時代―植民地舞台にみる文化交錯―	演劇博物館
2020年１月15日	書道界	ランダムハウス「藍より青く　小杉一雄とその師父、會津八一と小杉放菴」	會津博物館
2020年１月19日	Channel JAPAN ＃42	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	演劇博物館
2020年１月31日	高田馬場経済新聞	早稲田大学歴史館、来場者10万人　スポーツミュージアムは２万人、記念品進呈も	文化企画課
2020年２月４日	GO TOKYO	Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda-University	演劇博物館
2020年２月５日	演劇界３月号	かぶきの至宝　絵入狂言本『三世道明寺』	演劇博物館
2020年３月１日	東京新聞 暮らすめいと	ぶらっと東京街角ミュージアム　舞台芸術の殿堂をうたう	演劇博物館
2020年３月１日	Taiwan Edition	挖！日本　日本魅力文化観光情報誌	演劇博物館
2020年３月５日	演劇界４月号	かぶきの至宝　五代目・六代目中村歌右衛門使用の鏡台	演劇博物館

4．早稲田大学文化資源データベース　（https://archive.waseda.jp/archive/）

1．目的

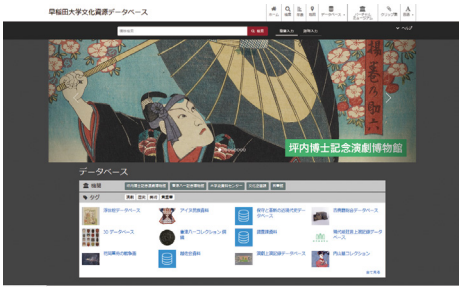
「早稲田大学文化資源データベース」は、坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センターの文化三機関、文化企画課および図書館が所蔵する美術工芸品、書画、文書、博物資料、古典籍など早稲田大学の貴重な文化資源を広く世界に向けて公開することを目的として、2017年６月から公開している。

2．主要機能・特徴

文化資源に係る数多くのデータベースをワンストップで横断検索し、資料の画像情報や付属資料詳細などを閲覧することができるほか、絞り込み検索、年表や地図表示など様々なアプローチで資料に到達できる。資料のデータや検索結果ページなどは「クリップ」することができ、その情報はURL とともにサーバに保存され、「クリップ集」ページでほかのユーザーに公開されることも大きな特徴である。

公開データ数は97万件を超えており、今後は更なる充実を目指し、国内外を問わずユーザーの研究・教育に貢献していくことが目標である。

公開データベース数：95（2019年度末現在）
公開データ数　　：973,820件（2019年度末現在）
2019年度のアクセス件数：487,530回



文化施設

【博物館・資料センターの概要】

名称	坪内博士記念演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	歴史館	早稲田スポーツミュージアム	考古資料館（本庄キャンパス）
所在地	5号館	2号館	79号館	1号館	37号館	91号館
概　要	1階：京マチ子記念特別展示室　日本の映画とテレビ 六世中村歌右衛門記念特別展示室 和書図書室 2階：逍遙記念室 企画展示室 3階：日本の演劇（古代、中世、近世、近代、現代）世界の演劇　ヨーロッパ・アメリカ 6号館3階 ・貴重書 ・外国語図書閲覧室 ・AVブース	1階：會津八一コレクション展示室 近代美術展示室 富岡重憲コレクション展示室 2階：グランド ギャラリー （常設・企画大展示室）	5階：レファレンスルーム ・歴史的資料 ・高等教育出版物 ・高等教育関係資料	1階：「久遠の理想」エリア 「進取の精神」エリア 「聳ゆる甍」エリア 企画展示ルーム シアタールーム リサーチルーム カフェ ミュージアム ショップ 総合案内	3階：早稲田スポーツミュージアム	1階：考古資料収蔵庫
お問い合わせ	Tel：03-5286-1829 E-mail：enpaku@list.waseda.jp	Tel：03-5286-3835 E-mail：aizu@list.waseda.jp	Tel：042-451-1343 E-mail：archives@list.waseda.jp	Tel：03-6380-2891	Tel：03-5286-9079	Tel：0495-24-1081

【文化施設の概要】

名　称	大隈記念講堂		小野記念講堂	ワセダギャラリー	125記念室
	大講堂	小講堂			
所　在　地	21号館1階	21号館B1階	27号館B2階	27号館B1階	26号館10階
利用目的	式典 講演・討論 舞台・上演	講演・討論 舞台・上演	講演・討論 演劇・映画・演奏	小規模な企画展 写真・絵画など	考古学・民族資料 常設展示（會津八一記念博物館収蔵資料）
座　席　数	1,121席（車椅子用2席）	300席（車椅子用1席）	206席 （最小161席・最大236席）	―	―
主要設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 同時通訳設備 ネットワーク設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備	舞台機構設備 舞台照明設備 映像音響設備 ネットワーク設備	常設展示壁 可動式展示壁 展示台 ディスプレイ	展示ケース 映像音響設備
付属施設	控室 調整室 調光室 映写室 同時通訳ブース	控室 調整室	楽屋・準備室 控室 調整室 投光室	―	―
そ　の　他	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	貸出備品 貸出用掲示物	

※「125記念室」は貸出の対象ではありません。

文化推進部は「大隈記念講堂」「小野記念講堂」「ワセダギャラリー」「125記念室」を管轄している。学内行事を開催することを優先しているが、学生団体をはじめ学内団体や学外の機関・団体にも広く利用されている。また、大隈記念講堂については学外から年間を通じて多くの見学者が訪れている。

1．大隈記念講堂

大隈重信を偲び、創立45周年の1927（昭和2）年10月15日に竣工された。創立125周年にあたる2007年10月に改修工事を終え、リニューアルオープンした。同年12月に国の重要文化財に登録。全館空調設備が整えられ、情報系設備・機器も完備した多様な用途に応えられる施設となった。2019年には天井の耐震工事を完了。早稲田大学のシンボルとして、大隈記念講堂は大講堂・小講堂とも学内外の機関から国際会議、演劇、コンサート、映画などに利用されている。

2．小野記念講堂

正門前の歴史的景観ゾーン整備の一環として、2005年に建設された小野梓記念館（27号館）の地下2階にオープンした。2018年の改修工事により、音響効果がさらに向上し、演劇やコンサート、講演などの多様な用途で活用することが可能となった。「文化活動の成果を発表し、さらに世界の文化と交流を図るためのホール」という理念を具現化した施設を目指す。

3．ワセダギャラリー

2014年秋に小野梓記念館地下1階にリニューアルオープン（面積56.35㎡）。写真展、絵画展、書展などに利用されている（学内箇所・教職員利用可）。

4．125記念室

正門前歴史的景観ゾーンに、「第2世紀の早稲田」を象徴して2006年2月に大隈記念タワー（26号館）10階に設置された。早稲田大学所蔵の貴重な資料を紹介する企画展等を開催している。

文化施設

■施設利用の状況

2019年度 文化施設	使用日数※1	利用件数	利用団体内訳		学外団体	その他※2
			学内箇所	学生団体		
大隈記念講堂大講堂	46日	101件	56件	5件	0件	23件
大隈記念講堂小講堂	53日	49件	47件	2件	0件	15件
小野記念講堂	244日	233件	201件	29件	3件	75件
ワセダギャラリー※3	180日	10件	10件	―	―	―

※1 使用日数には、本番当日だけでなくリハーサル、設営準備、撤収日も含む。
※2「その他」とは下見、見学、施設点検、定期清掃などが含まれる。
※3 学内箇所のみ利用可能である。
※4 大隈記念講堂・小野記念講堂については、1～4月と8月は公式行事、施設点検、定期清掃などのメンテナンスのため原則外部団体への貸出は行っていない。

■ワセダギャラリー使用状況

イベント名	開催期間	主催
早稲田スポーツ展　～仰ぐは同じき理想の光～	3月20日～4月27日	競技スポーツセンター
第10回　早稲田学生文化・芸術祭	5月27日～6月9日、18日～22日	文化推進部・学生部
早稲田大学オープンカレッジ木版画展覧会	6月10日～17日	エクステンションセンター
1967年建築学科卒業生による絵画展覧会	6月25日～7月6日	文化推進部
設計演習A展	8月2日～6日	創造理工学部建築学科
グラーグ：祖父が語らなかったこと	10月1日～16日	教育学部歴史学演習IH
白バラ　―ヒトラーに抗した学生たち―	10月17日～11月13日	村上公子研究室（人間科学学術院）
オープンカレッジ芸術展（水彩画展、写真展）	11月18日～12月3日	エクステンションセンター
写真展2019	12月6日～20日	無国籍ネットワークユース（WAVOC）
教育学部博物館実習授業成果展示	2020年1月6日～30日	教育学部博物館実習Gクラス

大隈記念講堂
大講堂

大隈記念講堂
小講堂

小野記念講堂

ワセダギャラリー

125記念室

【講堂照明設備技能判定会】

学生が大隈記念講堂・小野記念講堂内に設置されている照明関連設備を利用するにあたり、各講堂別技能判定会への受講および合格を義務づけている。専門技師が各講堂照明設備を使いこなせる技術力の判定を行い、一定水準の技量を有すると認められた学生に調整室等関連施設への入室（および照明関連設備の利用）許可を与えている（年間に複数回を開催）。

■大隈記念講堂
2020年2月26日（水）、27日（木）、28日（金）、3月6日（金）、9日（月）の計5回で、受講者41名

■小野記念講堂
2020年2月25日（火）、3月5日（木）の計2回で、受講者22名

講堂設備技能判定会

■坪内博士記念演劇博物館

1．演劇博物館協議員会

（1）開催記録

第１回　５月22日　　第２回　７月８日　　第３回　９月９日（持ち回り審議）
第４回　12月23日（持ち回り審議）　　第５回　2020年１月31日　　第６回　2020年３月12日（持ち回り審議）

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	小田島恒志	文学学術院教授	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館規則第９条一号による委員（文学学術院選出）
2	小松　　弘	文学学術院教授	
3	千野　拓政	文学学術院教授	
4	藤井慎太郎	文学学術院教授	
5	宮沢　章夫	文学学術院教授	
6	山本　浩司	文学学術院教授	
7	平林　宣和	政治経済学術院教授	第９条二号による委員（第一号以外の学術院・学校選出）
8	大森　信徳	法学学術院准教授	
9	三好　　力	教育・総合科学学術院専任講師	
10	沢田　　賢	商学学術院准教授	
11	渋谷　裕子	理工学術院准教授	
12	卯月　盛夫	社会科学総合学術院教授	
13	福島　　勲	人間科学学術院准教授	
14	杉山　千鶴	スポーツ科学学術院教授	
15	池島　大策	国際学術院教授	
16	青野　公彦	高等学院教諭	
17	半田　　亨	本庄高等学院教諭	
18	保坂　　猛	芸術学校准教授	
19	肥田　路美	會津八一記念博物館館長	第９条三号による委員
20	岡室美奈子	演劇博物館館長	第９条四号による委員
21	児玉　竜一	演劇博物館副館長	
22	渡邉　義浩	理事（文化推進担当）	第９条五号による委員
23	渡邉　義浩（兼）	文化推進部長	第９条六号による委員

■會津八一記念博物館

1．會津八一記念博物館協議委員会

（1）開催記録

第１回　５月15日　　第２回　11月27日　　第３回　2020年１月29日　　第４回　2020年２月26日（持ち回り審議）

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	ロペス・アルフレド	政治経済学術院教授	第10条一号による委員（学術院選出）
2	澤田　敬司	法学学術院教授	
3	成澤　勝嗣	文学学術院教授	
4	松本　直樹	教育・総合科学学術院教授	
5	宇野　和夫	商学学術院教授	
6	寺田泰比古	理工学術院教授	
7	卯月　盛夫	社会科学総合学術院教授	
8	原　　知章	人間科学学術院准教授	
9	太田　　章	スポーツ科学学術院教授	
10	池島　大策	国際学術院教授	
11	守中　高明	法学学術院教授	第10条二号による委員（館長推薦）
12	近藤　二郎	文学学術院教授	
13	川尻　秋生	文学学術院教授	
14	高橋龍三郎	文学学術院教授	
15	丹尾　安典	文学学術院教授	
16	内田　悦生	理工学術院教授	
17	古谷　誠章	理工学術院教授	
18	深澤　良彰	図書館長	第10条三号による委員
19	岡室美奈子	演劇博物館館長	
20	大日方純夫	大学史資料センター所長	
21	渡邉　義浩	理事（文化推進担当）	第10条四号による委員

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
22	本間　敬之	教務部長	第10条五号による委員
23	渡邉　義浩（兼）	文化推進部長	
24	肥田　路美	會津八一記念博物館館長	第10号六号による委員
25	坂上　桂子	會津八一記念博物館副館長	
26	下野　玲子	會津八一記念博物館主任研究員	第10条七号による委員
27	今村　昭一	會津八一記念博物館事務長	第10条八号による委員

■大学史資料センター

1．大学史資料センター運営委員会

（1）開催記録

第１回　５月22日　第２回　８月30日（持ち回り審議）　第３回　11月20日　第４回　2020年１月22日
第５回　2020年３月13日（持ち回り審議）

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	渡邉　義浩	理事（文化推進担当）	第８条一号による委員
2	川口　　浩	政治経済学術院教授	第８条二号による委員
3	原田　俊彦	法学学術院教授	
4	小原　　淳	文学学術院教授	
5	野口　穂高	教育・総合科学学術院准教授	
6	横山　将義	商学学術院教授	
7	小松　進一	理工学術院教授	
8	稲生　信男	社会科学総合学術院教授	
9	竹中　宏子	人間科学学術院准教授	
10	石井　昌幸	スポーツ科学学術院教授	
11	篠原　初枝	国際学術院教授	
12	井上　文人	校友会常任幹事	第８条三号による委員
13	沖　　清豪	文学学術院教授	第８条四号による委員
14	和仁　かや	法学学術院教授	
15	大日方純夫	大学史資料センター所長	第８条五号による委員
16	本間　敬之	教務部長	
17	深澤　良彰	図書館長	
18	肥田　路美	會津八一記念博物館館長	
19	渡邉　義浩（兼）	文化推進部長	
20	友金　孝夫	総務部長	
21	鈴木　　護	大学史資料センター事務長	

2．早稲田大学百五十年史編纂委員会

（1）開催記録

第１回　７月３日　第２回　12月11日

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	渡邉　義浩	理事（文化推進担当）	第４条一号による委員
2	佐藤　宏之	理事（総務担当）	
3	大日方純夫	大学史資料センター所長	第４号二号による委員
4	渡邉　義浩（兼）	文化推進部長	第４条三号による委員
5	鈴木　宏隆	広報室長	
6	深澤　良彰	図書館長	
7	川口　　浩	政治経済学術院教授	第４条四号による委員
8	原田　俊彦	法学学術院教授	
9	真辺　将之	文学学術院教授	
10	湯川　次義	教育・総合科学学術院教授	
11	横山　将義	商学学術院教授	第４条四号による委員
12	岩波　　基	理工学術院教授	
13	内藤　　明	社会科学総合学術院教授	
14	余語　琢磨	人間科学学術院准教授	
15	石井　昌幸	スポーツ科学学術院教授	
16	宮崎　里司	国際学術院教授	
17	沖　　清豪	文学学術院教授	第４条五号による委員
18	野口　穂高	教育・総合科学学術院准教授	
19	岡本　公一	国際学術院教授	

■国際文学館

1．国際文学館管理委員会

（1）開催記録

第１回　７月31日　　第２回　９月５日　　第３回　10月24日　　第４回　12月11日
第５回　2020年３月11日（持ち回り審議）

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職	選出区分
1	宗像　和重	文学学術院教授	国際文学館規則第13条第一号による委員
2	松永　美穂	文学学術院教授	
3	辛島デイヴィッド	国際学術院准教授	
4	深澤　良彰	図書館長	第13条第三号による委員
5	十重田裕一	国際文学館館長	第13条第四号による委員
6	榊原　理智	国際文学館副館長	
7	渡邉　義浩	文化推進部長	第13条第五号による委員
8	本間知佐子	国際文学館事務長	第13条第六号による委員

■文化推進部【文化企画課所管】

1．早稲田スポーツミュージアム運営協議会

（1）開催記録

第１回　2020年2月26日

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職
1	渡邉　義浩	理事（文化推進担当）・文化推進部長
2	恩蔵　直人	理事（スポーツ振興担当）
3	鈴木　宏隆	広報室長
4	石井　昌幸	競技スポーツセンター所長
5	大日方純夫	大学史資料センター所長
6	本田　　博	文化推進部事務部長

2．出版企画委員会

（1）開催記録

第１回　８月20日　　第２回　2020年２月３日

（2）委員

委員会は、2018年11月７日までは、出版企画委員会設置要綱の規定による本部役職委員４名、各学術院長推薦委員10名、文化推進を担当する理事推薦委員１名の合計15名で構成されていた。2018年11月８日からは、文化推進担当理事が文化推進部長を兼ねるので委員とみなさず、委員数に算入しない。このため、本部役職委員３名、各学術院長推薦委員10名、文化推進を担当する理事推薦委員１名の合計14名で構成されている。

嘱任期間は2018年５月１日～2020年４月30日である。

なお、出版審査内容は非公開のため、委員名を省略する。

3．歴史館運営協議会

（1）開催記録

第１回　９月25日　　第２回　2020年２月26日

（2）委員

（2020年３月31日現在）

No.	氏　名	所属・役職
1	渡邉　義浩	理事（文化推進担当）・文化推進部長
2	鈴木　宏隆	広報室長
3	大日方純夫	文化推進部副部長・大学史資料センター所長
4	肥田　路美	文化推進部副部長・會津八一記念博物館館長
5	岡室美奈子	文化推進部副部長・演劇博物館館長
6	本田　　博	文化推進部事務部長

2019年度　人　事

【役職者人事】

文化推進部・坪内博士記念演劇博物館・會津八一記念博物館・大学史資料センター・文化企画課

		2020年４月１日現在
文化推進担当理事		渡邉　義浩
文化推進部	部長	
	事務部長	本田　　博
坪内博士記念演劇博物館	館長 文化推進部副部長	岡室美奈子（副部長を兼務）
	副館長	児玉　竜一
	事務長	野原佳名子（12月１日付で文学学術院事務所より転入）
會津八一記念博物館	館長 文化推進部副部長	肥田　路美（副部長を兼務）
	副館長	坂上　桂子
	事務長	今村　昭一
大学史資料センター	所長 文化推進部副部長	大日方純夫（副部長を兼務）
	事務長	鈴木　　護
国際文学館	館長	十重田裕一（６月１日付で嘱任）
	事務長	本間知佐子（６月１日付で嘱任）
文化企画課	課長	内田　　貴

	退　任
坪内博士記念演劇博物館　事務長	河口　俊二（12月１日付で財務部へ転出）

【教員人事】

坪内博士記念演劇博物館

日　付	異動・嘱任	氏　名	役職・身分	旧所属・役職
４月１日	嘱任	埋忠　美沙	講師（任期付）	
４月１日	嘱任	後藤　隆基	助教	
2020年３月31日	退任	埋忠　美沙	講師（任期付）	
2020年３月31日	退任	飛田　勘文	助教	
2020年４月1日	嘱任	原田　真澄	助教	
2020年４月1日	嘱任	伊藤　　愉	助手	
2020年４月1日	嘱任（資格変更）	柴田康太郎	次席研究員	研究助手

會津八一記念博物館

日　付	異動・嘱任	氏　名	役職・身分	旧所属・役職
2020年３月31日	退任	宮田　悠衣	助手	
2020年４月１日	嘱任	山田麻里亜	助手	

大学史資料センター

日　付	異動・嘱任	氏　名	役職・身分	旧所属・役職
９月30日	退任	嶌田　　修	助手	
2020年４月１日	嘱任	田中　智子	助手	

国際文学館

日　付	異動・嘱任	氏　名	役職・身分	旧所属・役職
10月１日	嘱任	栗原　　悠	助手	
2020年４月１日	嘱任	権　　慧	助手	

※文化企画課：文化推進学生アドバイザー　11名（第７期・活動期間　2020年１月～12月）
在学生の文化ニーズを集約し、主体的に「早稲田文化」を創造・発信することを目的として2014年３月に発足。2020年１月に第７期目がスタートし、在学生11名がボランティアとして文化推進部主催イベントの企画・立案を行っている。

2019年度　統　計

■各機関の主管施設の利用状況

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館		大学史資料センター	文化企画課	
展示室名	演劇博物館（５号館）	會津八一記念博物館（２号館）	125記念室（26号館10階）	早稲田大学歴史館（１号館１階）	早稲田大学歴史館（１号館１階）	早稲田スポーツミュージアム（37号館3階）
開館日数	116	217	99	—	245	245
入館者数	44,234	48,834	3,535	—	43,919	19,847
展覧会企画件数※1	3	11	1	3	2	10

■各機関文化事業および教育活動の実績総数

主管箇所	演劇博物館	會津八一記念博物館	大学史資料センター	国際文学館	文化企画課
催し物件数	36	6	1	1	9
催し物来場者数※2	3,219	123	44	400	41,153
各箇所設置および協力授業コマ数※3	9	22	4	0	0
各箇所設置および協力授業登録者人数※3	730	616	475	0	0
各箇所主催および協力課外活動実施数※4	21	21	1	0	7
各箇所主催および協力課外活動参加人数※4	531	445	621	0	2,867

※１ 各展覧会の内容・来場者数等は、展覧会・催し物の該当ページをご覧ください。
※２ 催し物は学内外での公演・講演会・（研究）公開講座とする。
※３ 各箇所設置および協力授業のコマ数は学内設置の授業のコマ数とし、登録者数は設置科目の人数のほか、学部・大学院授業への協力の授業の受講生数を示す。
※４ 各箇所主催および協力課外活動実施数は、見学授業・修学旅行・学校見学会など課外授業見学者の受け入れの件数のほか、学内外の生涯学習への協力（エクステンションや市民講座）、共催や地域交流事業の件数とし、参加人数は、上記定義に関連する事業に参加した人数とする。

■各機関学内外出品・協力件数

主管箇所	演劇博物館	會津八一博物館	大学史資料センター	文化企画課
各主管箇所出品・展示協力件数	11	7	0	1

■図書資料・AV資料の受け入れ状況

主管箇所	和書	アジア圏図書（中国語・韓国語）	洋書	貴重書	AV資料	受け入れ図書総計	寄贈資料点数（図書以外）※6
演劇博物館※5	779	171	105	30	1,294	2,379	15
會津八一博物館	445	2	2	0	0	449	1,634
大学史資料センター	1,580	0	81	89	51	2,123	91
国際文学館	0	0	0	0	0	1,211	37

※５ 演劇博物館は、演劇・映像関係図書収蔵の図書館を併設し、和書・アジア圏図書・洋書・貴重書・AV資料などを閲覧できる。
※６ 寄贈資料点数は、図書以外の寄贈資料の点数の総計である。なお、演劇博物館の点数については、件数を示している。

文化施設マップ・連絡先一覧

https://www.waseda.jp/culture/

1 大隈記念講堂

2 坪内博士記念演劇博物館

3 會津八一記念博物館

4 早稲田大学歴史館

7 小野記念講堂

5 早稲田スポーツミュージアム

6 125記念室（大隈記念タワー）

8 ワセダギャラリー

9 大学史資料センター

早稲田大学　文化推進部

坪内博士記念演劇博物館
Tel：03-5286-1829　Fax：03-5273-4398
https://www.waseda.jp/enpaku/　E-mail：enpaku@list.waseda.jp

會津八一記念博物館
Tel：03-5286-3835　Fax：03-5286-1812
https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/　E-mail：aizu@list.waseda.jp

大学史資料センター
Tel：042-451-1343　Fax：042-451-1347
https://www.waseda.jp/culture/archives/　E-mail：archives@list.waseda.jp

国際文学館
Tel：03-6265-9720　Fax：03-5272-4784
https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/wihl/　E-mail：wihl@list.waseda.jp

早稲田大学歴史館
Tel：03-6380-2891　Fax：03-6380-2894
https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/rekishikan/

早稲田スポーツミュージアム
Tel：03-5286-9079
https://www.waseda.jp/culture/about/facilities/spomu/

文化企画課
Tel：03-5272-4783　Fax：03-5272-4784
https://www.waseda.jp/culture/　E-mail：art-culture@list.waseda.jp

早稲田大学 文化推進部年報 2019年度版

2020年11月11日発行　発行人／渡邉義浩　企画・編集・発行／早稲田大学文化推進部